

PC 300PL (Type 6565)
PC 300GL (Type 6563/6564)
ユ^ーザ^ーズ[・]ガ^イド

SA88-6930-00
(英文原典：09N1180)

PC 300PL (Type 6565)
PC 300GL (Type 6563/6564)
ユーザース・ガイド

SA88-6930-00
(英文原典：09N1180)



当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波自主規制 届出装置の記述

PC 300PL Type 6565、および PC 300GL Type 6563、6564 は「高調波ガイドライン適合品」です。

注

本書をお読みになり、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ずC-1ページの付録C、『特記事項』をお読みください。

第 2 版 (1999 年 10 月)

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミング、およびサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、IBMがこのようなIBM製品、プログラミング、およびサービスを、必ずしも日本で発表する意図であることを示すものではありません。

本マニュアルについてご意見やご感想がありましたら

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.infocr.co.jp/ifc/books/>

をご覧ください。（URL は、変更になる場合があります）

原典： 09N1180
PC 300PL User Guide Type 6565
PC 300GL User Guide Types 6563,6564,6574
発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社
担当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 1999.10

©Copyright International Business Machines Corporation 1999. All rights reserved.

Translation: ©Copyright IBM Japan 1999

目次

安全上に正しくお使いいただくために	ix
絵表示について	ix
危険/注意ラベルの表示について	ix
モデムに関する安全上の注意	xiv
レーザーの安全性について	xv
リチウム電池に関する注意事項	xvi
本書について	xvii
関連資料	xvii
第1章 製品の概要	1-1
本製品について	1-2
デスクトップ・モデル	1-3
タワー・モデル	1-3
機能の一覧	1-4
仕様: デスクトップ・モデル	1-8
仕様: タワー・モデル	1-9
第2章 セットアップ	2-1
コンピューターの設置場所を選択する	2-2
使用環境を快適にする	2-2
快適さ	2-2
反射と照明	2-3
空気の循環	2-4
電源コンセントおよび電源ケーブルの長さ	2-4
ケーブルの接続とスイッチの設定	2-5
デスクトップ・モデルの接続	2-5
タワー・モデルの接続	2-6
電圧選択スイッチの設定	2-7
ケーブルを接続する	2-8
電源を入れる	2-13
取り付けの完了	2-15
第3章 基本的な操作と管理	3-1

コントロール・ボタンおよび状況インディケータ	3-3
本体の始動	3-5
シャットダウン	3-6
ディスクの使用法	3-6
ディスクの取り扱いと保管	3-7
ディスクの挿入と取り出し	3-7
ディスクの書き込み保護	3-8
CD-ROM ドライブの使用法	3-9
CD の取り扱い	3-9
CD の入れ方	3-10
システム管理機能	3-11
Wake on LAN	3-11
Alert on LAN	3-12
RPL または DHCP	3-12
リモート管理	3-13
LANClient Control Manager (LCCM)	3-13
デスクトップ管理インターフェース	3-13
Wake on Ring	3-14
セキュリティー機能の使用法	3-14
カバーのロック	3-14
ディスクの書き込み禁止スイッチ	3-14
SMART III ハード・ディスク	3-14
ウィルス保護	3-15
キーボードのロック	3-15
PC 300PL 6565 のその他のセキュリティー機能	3-15
ビデオ機能の使用法	3-17
ビデオ・デバイス・ドライバ	3-18
モニター設定値の変更	3-18
オーディオ機能の使用法	3-19
システム・プログラムの更新	3-20
コンピューターの手入れ	3-22
本製品の清掃	3-22
本製品を移動する	3-24
第4章 装置構成ユーティリティーの使用法	4-1
装置構成ユーティリティーの開始と使用	4-3

設定値の表示と変更	4-5
装置構成ユーティリティの終了	4-7
パスワードの使用法	4-7
始動パスワードの使用法	4-7
管理者パスワードの使用法	4-11
デバイスごとのセキュリティー・プロファイルの使用法	4-13
拡張セキュリティーの使用	4-15
Pentium III プロセッサのシリアル番号機能を使用可能にする。	4-16
装置構成ユーティリティのその他の設定値	4-17
キーボード速度の変更	4-17
始動順序の設定	4-17
始動手順に影響を及ぼす設定値	4-18
リモート管理の設定	4-18
割り込みリソースと DMA リソース	4-20
省電力機能	4-21
ネットワーク関連の設定値の早見表	4-25
第5章 オプションの取り付け	5-1
静電気に敏感な装置	5-3
使用可能なオプション	5-3
必要な道具	5-4
カバーの取り外し - デスクトップ・モデル	5-5
各コンポーネントの位置 - デスクトップ・モデル	5-7
電源機構の移動 - デスクトップ・モデル	5-8
カバーの取り外し - タワー・モデル	5-10
各コンポーネントの位置 - タワー・モデル	5-12
電源機構の移動 - タワー・モデル	5-13
システム・ボード上のオプションの作業	5-17
システム・ボードへのアクセス	5-17
システム・ボードの部品の識別	5-17
メモリーの作業	5-19
ディスク書き込み保護スイッチの設定	5-21
アダプターの作業	5-23
PCI アダプター	5-23
アダプター・スロット	5-23
アダプターの取り付け - デスクトップ・モデル	5-23

アダプターの取り付け - タワー・モデル	5-25
内蔵ドライブの作業	5-27
内蔵ドライブ	5-27
ドライブの仕様	5-29
内蔵ドライブの電源ケーブルと信号ケーブル	5-30
内蔵ドライブの取り付け - デスクトップ・モデル	5-32
内蔵ドライブの取り付け - タワー・モデル	5-36
導入の終了	5-40
カバーの再取り付けとケーブルの接続	5-40
コンピューター構成の更新	5-42
プラグ・アンド・プレイ・アダプターの構成	5-42
装置構成ユーティリティの開始	5-43
始動装置の構成	5-44
第6章 トラブルシューティング	6-1
自己診断テスト (POST)	6-3
トラブルシューティングの手順	6-4
エラー・コードとメッセージ	6-8
POST エラー	6-8
POST ビープ・コード	6-15
装置の問題判別一覧表	6-17
ディスケット・ドライブの問題	6-19
モニターの問題	6-20
一般的な問題	6-23
断続的な問題	6-24
キーボード、マウス、またはポインティング装置の問題	6-25
メモリーの問題	6-26
オプションの問題	6-27
パラレル・ポートの問題	6-28
シリアル・ポートの問題	6-29
プリンターの問題	6-30
ソフトウェアの問題	6-31
汎用シリアル・バス・ポートの問題	6-31
診断プログラム	6-32
POST/BIOS 更新障害からの回復	6-34
オプション・ディスケットからのファイルのインストール方法	6-34



電池を交換する	6-34
付録A. ヘルプ、サービス、および情報の入手	A-1
サービスを依頼する前に	A-3
カスタマー・サービスおよびカスタマー・サービスの入手	A-3
資料の発注	A-3
付録B. 製品に関する記録	B-1
シリアル番号	B-2
装置に関する記録	B-2
付録C. 特記事項	C-1
特記事項	C-2
西暦 2000 年対応について	C-3
商標	C-3
索引	X-1

安全上に正しくお使いいただくために

本製品を安全に正しくご使用いただくために、このマニュアルには安全表示が記述されています。このマニュアルを保管して、必要に応じて参照してください。

絵表示について

本製品を正しくご使用いただいて、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、このマニュアルおよび本製品への安全表示については、以下の絵表示をしています。

 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

危険/注意ラベルの表示について

本製品の外部または内部に黄色地に黒文字で表示されているラベルがあるときは、安全上に関しての危険または注意ラベルです。必ず表示の指示に従ってください。

このマニュアルに記述されている以外に、危険または注意ラベルによる表示があるときは（たとえば製品上）、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

危険

- この機器の中にある電源のカバーは開けないでください。内部には高電圧部分があり危険です。
- この機器を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。
- CD-ROM ドライブのカバーを開けないでください。「レーザーの安全性について」をお読みください。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。タコ足配線をしてしないでください。火災、感電のおそれがあります。
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。また、付属の電源コードをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。
- 電源スイッチやその他の制御部分をぬらさないでください。湿気があるとこれらの部品は壊れることがあり、電気による危険を招くことがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重い物を載せたり、引っ張ったり、束ねたり、無理に曲げたりすると電源コードを破損し、火災、感電のおそれがあります。
- コンピューターの構成に電話ケーブル接続、通信ケーブル接続、およびテレビのアンテナ線接続が含まれている場合、付近に雷が発生しているときは、それらのケーブルに触れないようにしてください。
- 万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。
- 万一、異物（金属片、水、液体）が機器の内部に入ったときは、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから必ず抜いて、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

⚠ 危険

- 電池について

本製品には、システム・ボード上にリチウム電池が使用されています。電池の交換方法や取り扱いを誤ると、発熱、発火、破裂のおそれがあります。交換用電池に取り扱い上の注意や取り付けの指示が書かれていれば、それに従います。電池の交換には、IBM 部品番号 33F8354 の電池またはメーカー推奨の同等の電池を使用してください。

交換用電池の購入については、お買い求めの販売店または弊社の営業担当までお問い合わせください。

電池は幼児の手の届かない所に置いてください。万一、幼児が電池を飲み込んだときは、直ちに医師に相談してください。

以下の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- 100°C 以上の過熱や焼却
- 分解や充電
- ショート

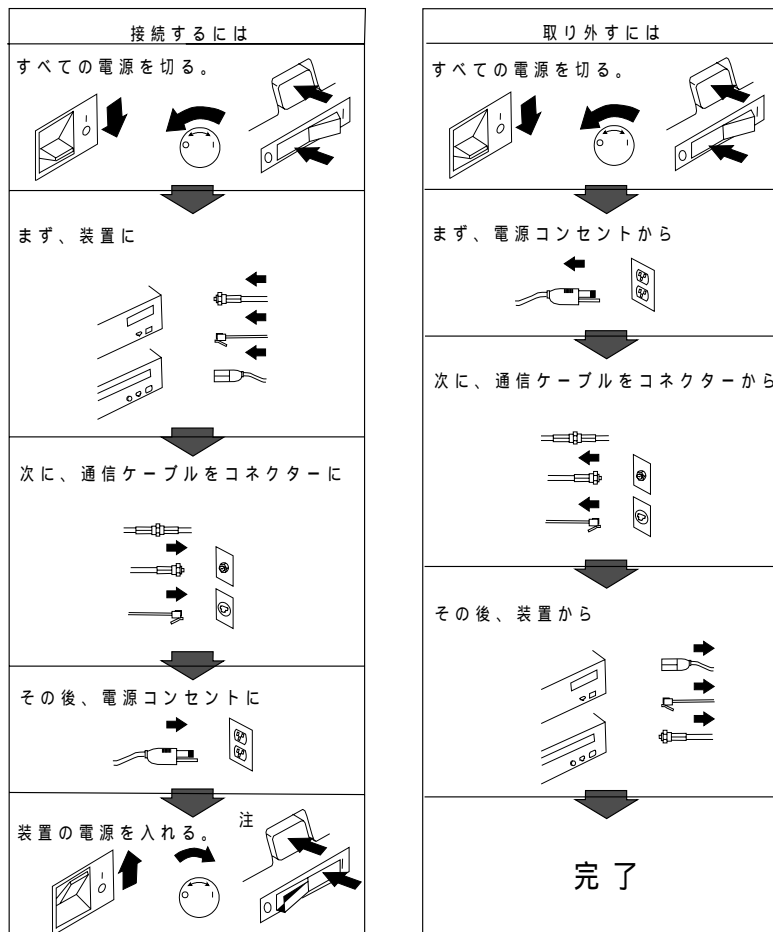
電池を廃棄する場合、および保存する場合にはテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因となります。電池は地方自治体の条例、または規則に従って廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

- 3 ピン電源プラグが設置場所の接地端子付きコンセントに合う場合は、付属の接地端子付き電源プラグは使用しないで、3 ピン電源プラグをそのままコンセントに差し込んでください。接地端子付き電源プラグは廃棄してください。3 ピン電源プラグが設置場所のコンセントに合わない場合は、付属の接地端子付き電源プラグをお使いください。緑色の線はアース用です。端子の絶縁物を外して専門の電気技術者によって施工されたアース端子に接続してください。ガス管への接続およびコンセントへの差し込みは大変危険ですので絶対にしないでください。アース線をアース端子に接続することにより、安全にご使用いただけます。なお 3 ピン電源プラグを持つコンピューターで使用することを前提としているオプション・アダプター・カード（例：LAN アダプター・カード）は接地が必要です。
- 付属の接地端子付き電源プラグ以外は使用しないでください。また、付属の接地端子付き電源プラグをほかの機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

⚠ 危険

- ケーブル類の取り付け、取り外し順序。

電源コード、電話ケーブル、通信ケーブルからの電流は身体に危険を及ぼします。設置、移動、または製品のカバーを開けたり装置を接続したりするときには、以下のようにケーブルの接続、取り外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの取り外しはしないでください。

注意

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。(必ずプラグを持って抜いてください。)
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。
- この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 本体を持ち上げたり、配置を変えたり、移動したりするときは、思わぬ怪我をしないように注意してください。重すぎるときは、ほかの人の応援を頼んでください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを AC コンセントから抜いておいてください。
- 「電源電圧選択スイッチ」は、正しい位置にセットされていなければなりません。このスイッチが正しくセットされていないと、コンピューターを損傷することがあります。
- 使用環境については 2-2 ページの『使用環境を快適にする』を参照してください。

モデムに関する安全上の注意

電話機器の使用時の発火、感電、または損傷の危険を防止するために、以下に示す基本的な安全手順を必ず守ってください。

- 雷が発生しているときは、電話配線の取り付けは行わないでください。
- 電話ジャックは、湿った場所で使用するよう特別に設計されていない限り、湿った場所には取り付けないでください。
- 電話回線がネットワーク・インターフェースから切り離されていない限り、絶縁されていない電話回線やターミナルには絶対に触れないでください。
- 電話回線の取り付けや変更は、十分に注意して行ってください。
- 雷の発生時には、電話（コードレス・タイプ以外）の使用は避けてください。雷による感電の危険があります。
- ガス漏れを通報する際には、ガス漏れ現場の近くの電話は使用しないでください。

危険

感電の危険を防止するために、雷が発生している最中はケーブルの接続や切り離し、あるいは本製品の取り付け、保守、または再構成を行わないようにしてください。

レーザーの安全性について

IBM パーソナル・コンピューターおよび IntelliStation の一部のモデルには、CD-ROM ドライブが搭載されています。CD-ROM ドライブはレーザーを使用している製品です。この CD-ROM ドライブは、Class 1 レーザー製品について規定している米国の Department of Health and Services 21 Code of Federal Regulations (DHHS 21 CFR) Subchapter J (保健福祉省連邦法規則 21 副章 J) に準拠しています。それ以外にもドライブは Class 1 レーザー製品の規格である国際電気標準会議 (IEC) 825 および CENELEC 60 825 に準拠しています。

CD-ROMドライブの導入の際は、次の点に注意してください。

注意

本書で指定された内容以外の制御、調整または手順を行った場合、レーザーの放射の危険があります。

CD-ROMドライブのカバーを開けると、危険なレーザーを浴びる可能性があります。CD-ROMドライブの内部には、修理の対象となる部品はありません。カバーを開けないでください。

一部の CD-ROM ドライブは、CLASS 3A または CLASS 3B のレーザー・ダイオードを使用しています。次の点に注意してください。

危険

CD-ROM ドライブのカバーを開けるとレーザーが放射されます。光線を見つめたり、光学器械を使って直接見たりしないでください。また、光線を直接浴びないようにしてください。

リチウム電池に関する注意事項

注意:

リチウム電池の交換は正しく行わないと、破裂のおそれがあります。

電池の交換には、**IBM** 部品番号 **33F8354** の電池またはメーカー推奨の同等の電池を使用してください。電池にはリチウムが含まれており、使用、取り扱い、または廃棄を正しく行わないと破裂する危険があります。

以下の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- **100°C** 以上に加熱すること
- 修理や分解をすること

電池は、地方自治体の条例または規則に従って廃棄してください。

本書について

本書は、IBM® パーソナル・コンピューターとその機能を理解するのに役立ちます。本書は、コンピューターのセットアップ、操作、保守、およびオプションの取り付けについて説明しています。万一問題が発生した場合に、問題を解決するために役立つ情報や保守サービスを受けるための方法も示してあります。

関連資料

ご使用のコンピューターに関する追加情報が記載された資料について以下に記載します。これらの資料は、Adobe PDF フォーマットで、WWW の <http://www.ibm.com/jp/pc/home/manual> から入手することができます。

- ソフトウェアについて
この資料 (ソフトウェアが初期導入済みのモデルにのみ提供) には、初期導入済みのソフトウェア・パッケージに関する情報が収められています。
- 機能解説書
このオンライン資料 (ご使用のコンピューターに初期導入されており、また付属の *Software Selections CD* にも収録されています) には、パーソナル・コンピューターの使用法に関する一般的な解説が含まれています。このオンライン資料へのアクセス方法については、「ソフトウェアについて」を参照してください。
- 保守マニュアル (SA88-7044)
この資料には、専門のサービス技術員向けの情報があります。WWW の <http://www.ibm.com/jp/pc/home/manual/ibmpc.html> にあります。
この資料は、弊社に発注することもできます。印刷コピーをお求めになる場合は、小冊子「サービスのご案内」を参照してください。

第1章 製品の概要

このたびは、IBM パーソナル・コンピュータをお買上げいただき、ありがとうございます。本製品は、コンピュータの最新の先進技術を数多く取り入れており、ニーズの変化に応じてアップグレードを簡単に行うことができます。

この章では、本製品のさまざまな機能、初期導入済みソフトウェア、および仕様について概説します。

この章の内容

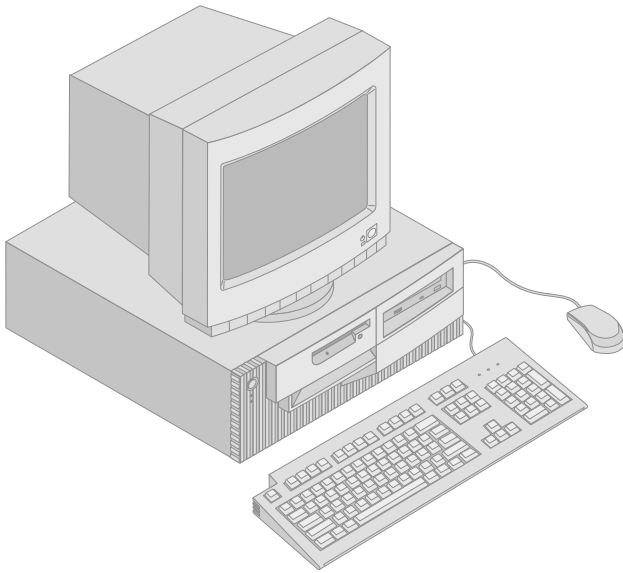
本製品について	1-2
デスクトップ・モデル	1-3
タワー・モデル	1-3
機能の一覧	1-4
仕様: デスクトップ・モデル	1-8
仕様: タワー・モデル	1-9

本製品について

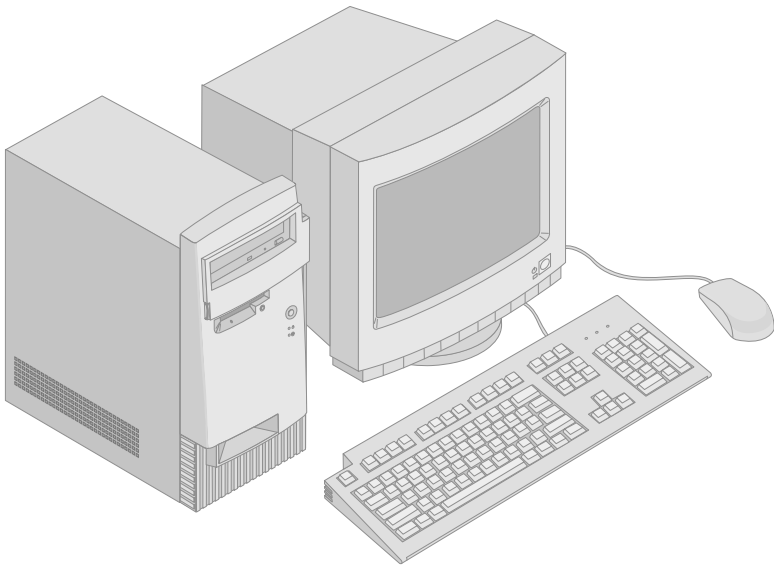
ほとんどの場合、コンピューターはマシン・タイプ/モデル番号で識別するのが最良の方法です。マシン・タイプ/モデル番号は、マイクロプロセッサのタイプやベイの数など、コンピューターのさまざまな特徴を示します。この番号は、コンピューターの前部にある小さいラベルに表示されています。マシン・タイプ/モデル番号の例は 6564-110 です。

本書の内容は、PC 300GL デスクトップ・モデルおよびタワー・モデル、ならびに PC 300PL デスクトップ・モデルを対象としているため、異なるマシン・タイプをもつさまざまな機種に関する情報を記載しています。それらの機種を区別する必要があるときは、モデルおよびマシン・タイプ (たとえば、PC 300PL 6565) が記載されていますので参照してください。モデルまたはマシン・タイプが指定されていない場合は、その内容は本書の対象機種すべてに該当します。

デスクトップ・モデル



タワー・モデル



機能の一覧

システム構成

以下の情報は各種モデルの機能を網羅しています。ご購入いただいたモデルに該当する機能については、装置構成ユーティリティの「システム構成」画面をご覧ください。詳細については、4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。

マイクロプロセッサ

- Intel® Pentium® III マイクロプロセッサ
- 内部 L2 キャッシュ・メモリー (モデルによって異なります)
- 100 または 133 MHz フロント・サイド・バス (FSB) (マイクロプロセッサのタイプに依存)

メモリー

- DIMM ソケット 2 個
- 133 MHz SDRAM
- 64 MB, 128 MB, 256 MB, および 512 MB パリティなし DIMM
- 64 MB, 128 MB, および 256 MB ECC DIMM
- 最大 1 GB (Windows 95/98/98SE 使用時は最大 512 MB)
- システム・プログラム用 512 KB フラッシュ・メモリー

拡張スロット

- AGP スロット 1 つ
- PCI スロット 3 つ

内蔵ドライブ

- ドライブ・ベイ合計 4 つ
- 3.5 インチ 1.44 MB ディスケット・ドライブ 1 台 (標準)
- 内蔵ハード・ディスク 1 台 (標準)
- EIDE CD-ROM ドライブ 1 台 (一部のモデル)

AGP ビデオ・アダプター

- SR9 AGP 2X Adapter with S3 Savage4、SDRAM 8MB (一部のモデル)
- SR9 AGP 4X Adapter with S3 Savage4 Xtreme、SGRAM 16MB (一部のモデル)

オーディオ・サブシステム

- システム・ボード上に組み込み
- 16 ビット、Sound Blaster Pro 互換

ネットワーク

- イーサネット・アダプター (一部のモデル)

システム管理機能

- リモート・プログラム・ロード (RPL) および動的ホスト構成プロトコル (DHCP)
- Wake on LAN® (Wake on LAN 対応のネットワーク・アダプターが必要)
- Wake on Ring (この機能は装置構成ユーティリティにおいて、外付けモデムの場合はモデムの着信 (シリアル・ポート A)、内蔵モデムの場合はモデムの着信 (内蔵モデム) と呼ばれます。)
- Wake on Alarm (装置構成ユーティリティでは、タイマー・ウェイク・アップと呼ばれます)
- Alert on LAN (Alert on LAN 対応のネットワーク・アダプターが必要)(一部のモデルに装備)
- ネットワークを介した POST および BIOS の更新 (装置構成ユーティリティでは、この機構はリモート管理と呼ばれます)
- 自動パワーオン始動順序
- システム管理 (SM) BIOS および SM ソフトウェア
- 自己診断テスト (POST) 結果の保管機能

入出力機能

- 25 ピン、ECP/EPP パラレル・ポート
- 9 ピン、16550 UART 互換シリアル・ポート 2 つ
- 4 ピン、USB ポート 2 つ
- マウス・ポート
- キーボード・ポート

- SVGA モニター・コネクター (AGP アダプター上)(一部のモデル)
- Digital Visual Interface (DVI) モニター・コネクター (AGPアダプター上)(一部のモデル)
- オーディオ・コネクター 3 つ (ライン/ヘッドホン出力、ライン入力、およびマイク入力)

電源

- 145 ワット、100Vac、50/60Hz
- 過負荷保護およびサージ保護を内蔵
- 省電力サポート (APM/ACPI)

セキュリティ機能

- カバー・ロックおよびキー (一部のモデル)
- トップ・カバー取り外し検出機能 (一部のモデル)
- Asset ID (一部のモデル)
- e-business 向けの IBM セキュリティ・ソリューション (一部のモデル)
- 始動パスワードと管理者パスワード
- 市販の南京錠など (付属していません) を使用してカバーをロックするための機構 (一部のモデル)
- 始動手順の制御
- ディスケット・ドライブ、キーボード、またはマウスを使用しない始動
- 自動始動モード
- ディスケットおよびハード・ディスク入出力制御
- シリアルおよびパラレル・ポート入出力制御
- Alert on LAN (Alert on LAN 対応のネットワーク・アダプターが必要)(一部のモデルに装備)
- デバイスごとのセキュリティ・プロファイル

初期導入済みソフトウェア

一部のモデルには、ソフトウェアが初期導入済みです。その場合には、オペレーティング・システム、内蔵の機能をサポートするためのデバイス・ドライバー、およびその他のサポート・プログラムが導入されています。導入済みソフトウェアについての詳しい説明は、「ソフトウェアについて」を参照してください。

オペレーティング・システムのサポート

- Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0 日本語版
- Microsoft Windows® 95¹ および Windows 98 日本語版
- OS/2 Warp 4 日本語版

¹ 市販の Windows 95 は、サポートしません。

仕様: デスクトップ・モデル

<p>寸法</p> <ul style="list-style-type: none">高さ: 138 mm幅: 400 mm奥行き: 429 mm <p>重量</p> <ul style="list-style-type: none">出荷時の最小構成: 8.7 kg最大構成: 10.4 kg <p>環境</p> <ul style="list-style-type: none">気温:<ul style="list-style-type: none">システム電源オン時: 10° ~ 35°C (標高 0 ~ 915 m)10° ~ 32°C (標高 915 ~ 2134 m)システム電源オフ時: 10° ~ 43°C湿度:<ul style="list-style-type: none">システム電源オン時: 8% ~ 80%システム電源オフ時: 8% ~ 80%最大高度: 2134 m <p>電源</p> <ul style="list-style-type: none">AC 50/60 Hz電源<ul style="list-style-type: none">公称 100 V容量 (概算)<ul style="list-style-type: none">出荷時の最小構成: 0.08 KVA最大構成: 0.51 KVA定格<ul style="list-style-type: none">高調波ガイドライン適合品入力電力: 120 W容量: 152 VA電源の回路分類: 42 (コンデンサ平滑 単相ブリッジ・リアクトルあり) <p>注: 消費電力と発熱量は、取り付けられているオプション機構の数とタイプ、および使用されている省電力機能によって異なります。</p>	<p>発熱量</p> <ul style="list-style-type: none">英国熱量単位 (Btu) による 1 時間当たりの発熱量 (近似値):<ul style="list-style-type: none">最小構成: 256 Btu/hr (75 ワット)最大構成: 706 Btu/hr (207 ワット) <p>排気量</p> <ul style="list-style-type: none">約 0.5 立方メートル/分 <p>音響ノイズ発生値</p> <ul style="list-style-type: none">平均音圧レベル:<ul style="list-style-type: none">オペレーターの位置:<ul style="list-style-type: none">アイドル時: 33 dBA動作中: 39 dBAそばにいる人の位置-1 メートル:<ul style="list-style-type: none">アイドル時: 30 dBA動作中: 34 dBA表記上の (上限) 音力レベル:<ul style="list-style-type: none">アイドル時: 4.4 ベル動作中: 4.9 ベル <p>注: これらのレベルは、米国規格協会 (ANSI) S12.10 および ISO 7779 で指定された手順に従い、制御された音響環境の中で計測されたもので、ISO 9296 に従って報告されています。実際の音圧レベルは、部屋の反響や近くにある他の雑音源などのために、場所によっては表示された平均値を超える場合があります。表示されている音力レベルは上限を示しており、コンピューターの多くはこれより低いレベルで動作します。</p>
--	---

仕様: タワー・モデル

寸法

- 高さ: 378 mm
- 幅: 192 mm
- 奥行: 383 mm

重量

- 出荷時の最小構成: 8.3 kg
- 最大構成: 10.2 kg

環境

- 気温:
 - システム電源オン時: 10° ~ 35°C (標高 0 ~ 915 m)
 - 10° ~ 32°C (標高 915 ~ 2134 m)
 - システム電源オフ時: 10° ~ 43°C
- 湿度:
 - システム電源オン時: 8% ~ 80%
 - システム電源オフ時: 8% ~ 80%
- 最大高度: 2134 m

電源

- AC 50/60 Hz
- 電源
 - 公称 100 V
 - 容量 (概算)
 - 出荷時の最小構成: 0.08 KVA
 - 最大構成: 0.51 KVA
- 定格
 - 高調波ガイドライン適合品
 - 入力電力: 120 W
 - 容量: 152 VA
 - 電源の回路分類: 42 (コンデンサ平滑単相ブリッジ・リアクトルあり)

注: 消費電力と発熱量は、取り付けられているオプション機構の数とタイプ、および使用されている省電力機能によって異なります。

発熱量

- 英国熱量単位 (Btu) による 1 時間当たりの発熱量 (近似値):
 - 最小構成: 256 Btu/hr (75 ワット)
 - 最大構成: 706 Btu/hr (207 ワット)

排気量

- 約 0.5 立方メートル/分

音響ノイズ発生値

- 平均音圧レベル:
 - オペレーターの位置:
 - アイドル時: 33 dBA
 - 動作中: 40 dBA
 - そばにいる人の位置-1 メートル:
 - アイドル時: 30 dBA
 - 動作中: 34 dBA
 - 表記上の (上限) 音カレベル:
 - アイドル時: 4.4 ベル
 - 動作中: 4.9 ベル

注: これらのレベルは、米国規格協会 (ANSI) S12.10 および ISO 7779 で指定された手順に従い、制御された音響環境の中で計測されたもので、ISO 9296 に従って報告されています。実際の音圧レベルは、部屋の反響や近くにある他の雑音源などのために、場所によっては表示された平均値を超える場合があります。表示されている音カレベルは上限を示しており、コンピューターの多くはこれより低いレベルで動作します。

仕様: タワー・モデル

第2章 セットアップ

ここでは、ケーブルをコンピューター本体に接続し、電源を入れる方法について説明します。

始める前に

本製品のセットアップを開始する前に、ixページの『安全上に正しくお使いいただくために』をお読みください。

以下のものが必要になります。

- コンピューター
- コンピューターの電源コード
- キーボード
- マウス
- モニター（別売り、信号ケーブルと電源コードが付属しています）

この章の内容

コンピューターの設置場所を選択する	2-2
使用環境を快適にする	2-2
快適さ	2-2
反射と照明	2-3
空気の循環	2-4
電源コンセントおよび電源ケーブルの長さ	2-4
ケーブルの接続とスイッチの設定	2-5
デスクトップ・モデルの接続	2-5
タワー・モデルの接続	2-6
電圧選択スイッチの設定	2-7
ケーブルを接続する	2-8
電源を入れる	2-13
取り付けの完了	2-15

コンピューターの設置場所を選択する

本体、モニター、およびその他の装置を接続するための正しく接地された電源コンセントが必要な数だけあることを確認してください。設置場所は、コンピューターを乾燥した状態に維持できる場所を選んでください。空気が正しく循環するように、コンピューターの周囲は約 5 cm のスペースを空けてください。

使用環境を快適にする

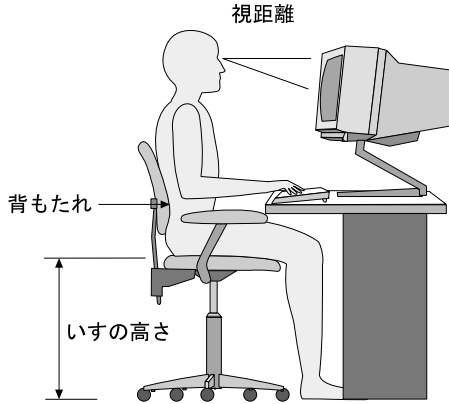
本製品を最大限に活用するために、作業内容や目的に合わせて装置および使用環境を調節します。快適に作業を進めることは最も重要なことですが、照明の位置、空気の循環、電源コンセントの位置によって、作業環境の調節が制限される場合もあります。

快適さ

快適な使用環境は、利用者によって異なるため、すべての利用者にとって理想的な 1 つの決まった使用環境というものはありませんが、以下にいくつかの目安を示しますので、自分に最も合った環境を見つけてください。

同じ姿勢で長時間座っていると疲れます。疲労を少なくするために、良いイスを選択してください。背もたれと座部シートを別々に調節でき、しっかり支えてくれるのが良いイスであるといえるでしょう。座部シートの前部はやや下に曲がるような形になっていて、ひざに圧力がかからないものにします。太ももが床と平行になり、足は床や足置きに平らにのせられるように座部シートを調節します。

キーボードを使用するときには、前腕が床と平行になるようにし、手首は無理のない楽な位置に置きます。キーボードには軽く触れるようにし、手と指の力を抜きます。キーボードの脚を調節して、一番使用しやすい角度にします。



モニターは、画面の最上部が目の高さかそれより少し下になるように調節します。モニターは見やすい距離に置いてください。通常、利用者とモニターとの距離は 50～60 cm です。また、体をねじらなくても見えるような位置に置いてください。

注： ご使用のモニターが 45 Kg を超える場合は、デスクトップ・モデルの本体の上には置かないでください。

反射と照明

頭上の照明、窓、その他の光源からの反射光ができる限りモニターに映りこまないように、モニターを配置してください。これらの光源や物体ができるだけ映り込まないように、モニターの角度や向きを調節してください。必要に応じて、照明を消したり、ワット数の低い電球にして頭上の照明を暗くしてください。窓の近くにモニターを置くときは、カーテンやブラインドで日光を遮ってください。部屋の明るさが 1 日のうちで変わる場合には、その変化に応じて、モニターの輝度やコントラストのつまみを調整してください。

反射を防いだり、照明を調節できない場合には、反射防止フィルターを画面に取り付けてください。ただし、このようなフィルターを使用すると画面上の映像がはっきりと見えなくなる可能性もありますので、フィルターは他に反射を防ぐ方法がない場合にだけ使用してください。

ほこりがたまると、反射状態がさらにひどくなります。モニター画面は、研磨剤が入っていない液体ガラス・クリーナーで湿らせた柔らかい布で定期的に汚れをふいてください。

空気の循環

コンピューター本体およびモニターは熱を発生します。コンピューター本体には、新鮮な空気を送り込んで、熱風を外に出すファンが付いています。モニターでは、通気孔を通じて熱風を外に出しています。通気孔をふさぐと熱がたまり、装置の誤動作や損傷の原因となることがあります。通気孔を遮断するものがなにもないように、コンピューターとモニターを配置します。通常は 5 cm のスペースがあれば十分です。また、排出された熱風が人にかからないようにしてください。

電源コンセントおよび電源ケーブルの長さ

本体を設置する位置は、電源コンセント、モニター、プリンター、その他の装置と接続する電源コードやケーブルの長さによって最終的に決まります。

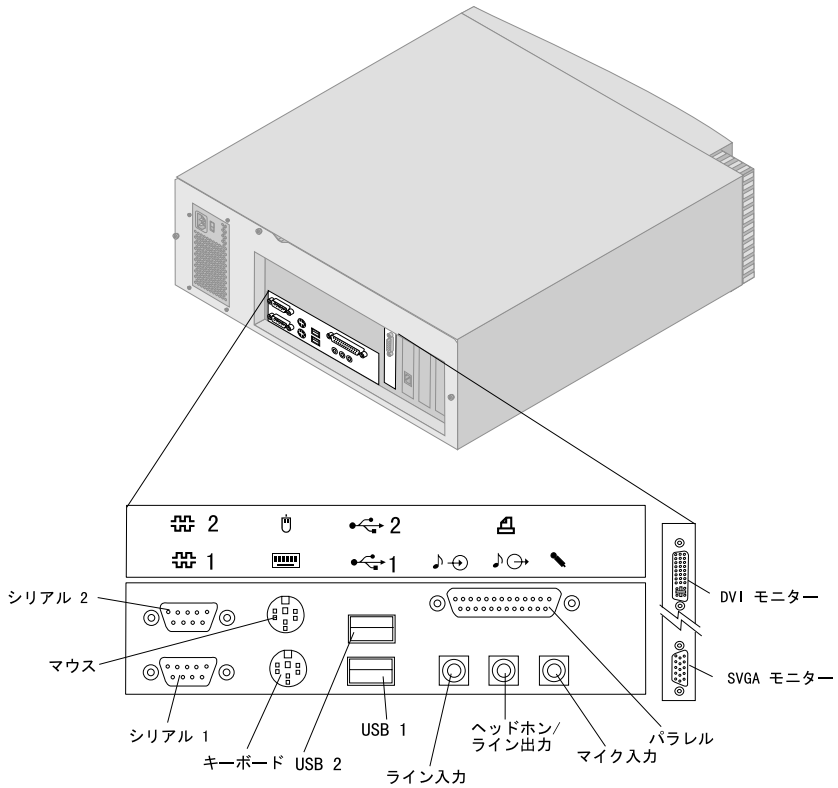
本製品の使用環境を調節するときには、以下の点に注意してください。

- 延長コードを使用しないようにします。本製品の電源コードは、できるだけ電源コンセントに直接差し込むようにしてください。
- 電源コードやケーブルは、通路や誤ってけられる可能性があるような場所を通さないようにしてください。

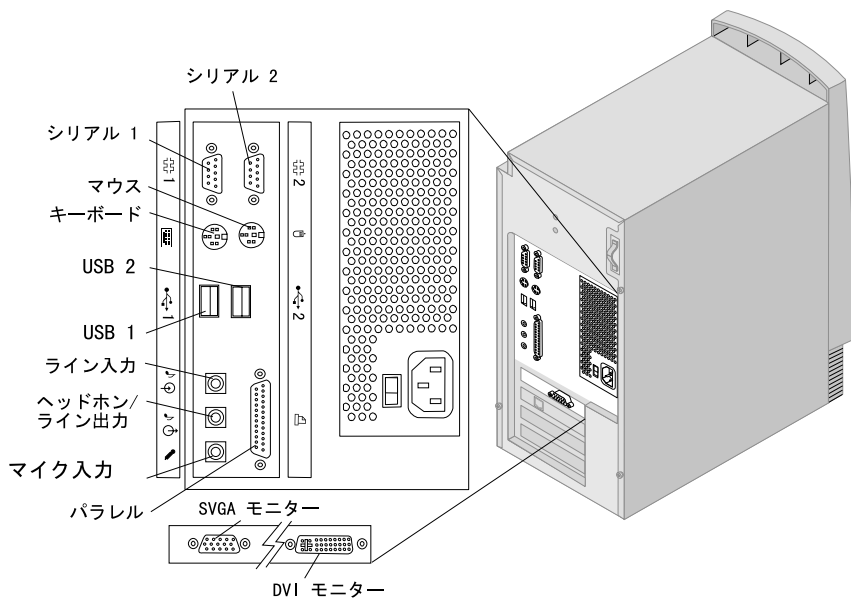
ケーブルの接続とスイッチの設定

本セクションでは、コンピューターの背面にある各コネクタの位置を示します。ここに示されているすべてのコネクタが装備されていない場合もあります。

デスクトップ・モデルの接続



タワー・モデルの接続



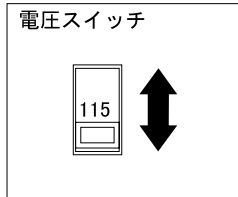
電圧選択スイッチの設定

電圧選択スイッチの位置が "115" になっていることを確認します。必要に応じて、ボールペンを使ってスイッチをスライドさせます。

- 供給電圧が 100 ~ 125 V ac の場合、スイッチを 115 または 115 V に設定します。

重要:

「電圧選択スイッチ」は、正しい位置にセットされていなければなりません。このスイッチが正しくセットされていないと、コンピューターを損傷することがあります。



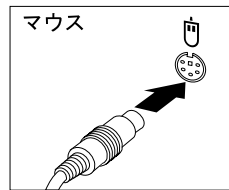
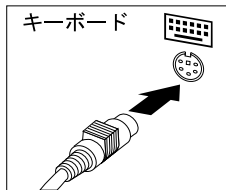
重要:

本体を修理に出して戻ってきたときも電圧選択スイッチの設定を確認してください。スイッチの上に AC 100 V のラベルが貼ってあるときは、正しくセットされています。

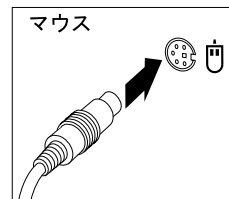
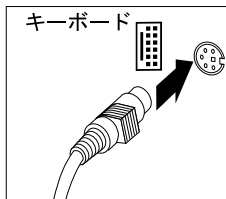
ケーブルを接続する

コンピュータ背面にあるコネクタには色分けされたアイコンが表示されており、ケーブルを正しく接続するのに役立ちます。以下のステップに従ってケーブルを接続してください。

1. キーボード・ケーブルをグレーのキーボード・コネクタに接続し、マウス・ケーブルを緑色のマウス・コネクタに接続します。



デスクトップ

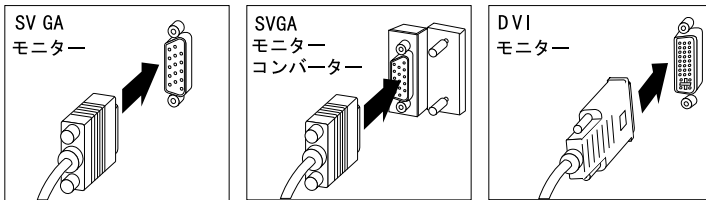


タワー

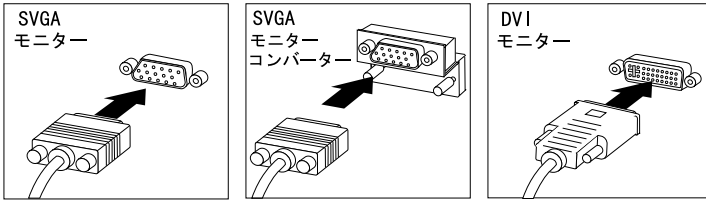
注: ご使用のコンピュータが Windows NT モデルで、さらにスクロールポイント・マウスが付属している場合は、最初にコンピュータを始動したときは、マウスは機能してもスクロールポイント機能が働かない場合があります。スクロールポイント機能を使用可能にするには、コンピュータをシャットダウンしてから再始動する必要があります。

2. モニター・ケーブルをまずモニター側に接続し (接続していない場合)、その後で本体側のモニター・コネクタに接続して取り付けねじを締めます。

注: ご使用のコンピューターが DVI コネクタのみ装備しているモデルの場合、SVGA モニター・コンバーター (DVI コネクタを SVGA コネクタに変換) が付属しています。これは、接続するモニターのタイプにより SVGA コネクタが必要な場合に使用してください。ここで示されている図は、実際にお手元にあるコンバーターの外観と異なる場合があります。



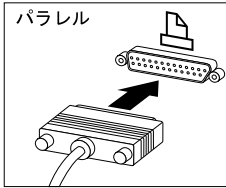
デスクトップ



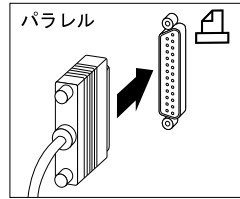
タワー

3. その他の周辺装置がある場合には接続します。

- プリンターまたはパラレル装置

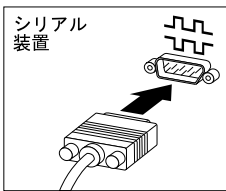


デスクトップ

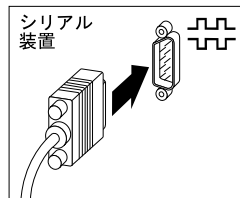


タワー

- シリアル装置または外付けモデム

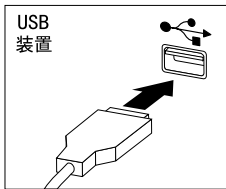


デスクトップ

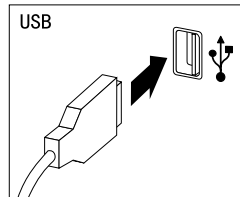


タワー

- 汎用シリアル・バス (USB) 装置

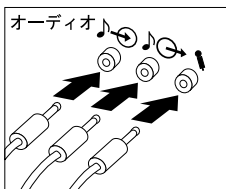


デスクトップ

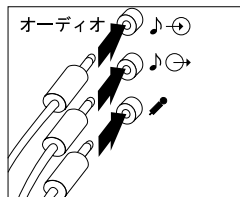


タワー

- オプション装置 (スピーカー、マイクロホン、ヘッドホンなど)。



デスクトップ



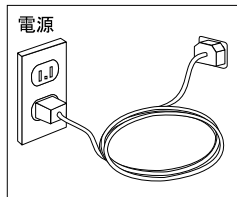
タワー

- 電源コードを電源コネクタに接続します。電源コネクタをふさぐラベルが貼ってある場合は、これを取り除いてください。電源コードは、最初にコンピューター本体、モニター、およびその他の装置に接続してから、正しく接地された電源コンセントに差し込んでください。

注意

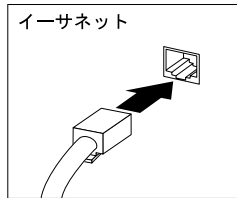
3 ピン電源プラグが設置場所の接地端子付きコンセントに合う場合は、付属の接地端子付き電源プラグは使用しないで、3 ピン電源プラグをそのままコンセントに差し込んでください。接地端子付き電源プラグは廃棄してください。3 ピン電源プラグが設置場所のコンセントに合わない場合は、付属の接地端子付き電源プラグをお使いください。緑色の線はアース用です。端子の絶縁物を外して専門の電気技術者によって施工されたアース端子に接続してください。ガス管への接続およびコンセントへの差し込みは大変危険ですので絶対にしないでください。アース線をアース端子に接続することにより、安全にご使用いただけます。なお 3 ピン電源プラグを持つコンピューターで使用することを前提にしているオプション・アダプター・カード (例: LAN アダプター・カード) は接地が必要です。

注: イーサネット・アダプターを装備したモデルの場合、そのイーサネット・ポートを使用するには、接地が必要です。また、音声認識ソフトウェアを使用する場合、電源コードを正しく接地しないと、マイクロフォンからの音声入力を正しく認識できないことがあります。



重要:

- 電源コードを最初に接続したときは、コンピューターの電源が数秒間オンになった後に、オフになります。これは正常な動作です。
 - 場合によっては、電源スイッチを押してもすぐにコンピューターの電源がオフにならないことがあります。その場合は、電源がオフになるまで約 5 秒間電源スイッチを押したままにしてください。
- イーサネット・アダプターが装備されているモデルの場合は、イーサネット・ケーブルを接続します。

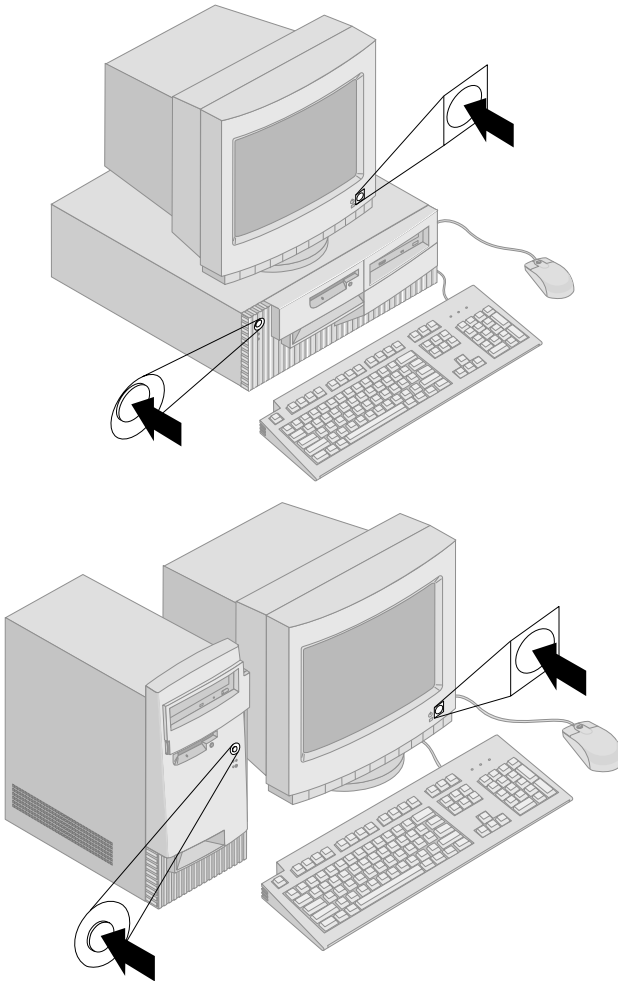


重要

システムを VCCI の基準内で稼働させるために、カテゴリ 5 イーサネット・ケーブルを使用する必要があります。

電源を入れる

モニターおよびその他の外部装置の電源を入れ、その後でコンピューターの電源スイッチを 1 回押します。モニターと本体の電源スイッチの位置は、下の図を参照してください。コンピューターが短い自己診断テストを実行している間、ロゴ画面が表示されます。自己診断テストが正常に終了すると、ロゴ画面が消え、BIOS がロードされ、ソフトウェアがロードされます (初期導入済みモデルの場合)。



電源を入れる

注: 何か問題が生じた場合は、6-1ページの第6章、『トラブルシューティング』を参照してください。

取り付けの完了

コンピューター本体の識別番号 (マシン・タイプ/モデル番号およびシリアル番号) を探し、それをB-1ページの付録B、『製品に関する記録』に記録します。

本製品に関連するその他の情報については、本書の冒頭のxviiページの『関連資料』を参照してください。初期導入済みのソフトウェアについては、付属のソフトウェアについてをご覧ください。さらに、追加のプログラムやデバイス・ドライバーが、*Product Recovery CD*、*Software Selections CD* またはその他の CD およびディスクで提供されています。

取り付けの完了

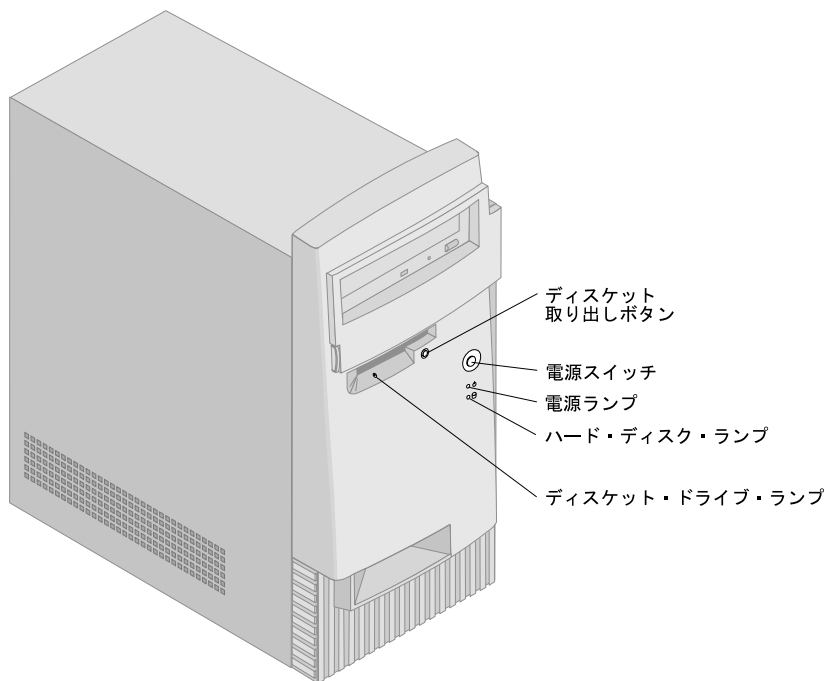
第3章 基本的な操作と管理

この章には、本製品を使用する際に役立つ情報を記載しています。

この章の内容

コントロール・ボタンおよび状況インディケータ	3-3
本体の始動	3-5
シャットダウン	3-6
ディスクの使用法	3-6
ディスクの取り扱いと保管	3-7
ディスクの挿入と取り出し	3-7
ディスクの書き込み保護	3-8
CD-ROM ドライブの使用法	3-9
CD の取り扱い	3-9
CD の入れ方	3-10
システム管理機能	3-11
Wake on LAN	3-11
Alert on LAN	3-12
RPL または DHCP	3-12
リモート管理	3-13
LANClient Control Manager (LCCM)	3-13
デスクトップ管理インターフェース	3-13
Wake on Ring	3-14
セキュリティー機能の使用法	3-14
カバーのロック	3-14
ディスクの書き込み禁止スイッチ	3-14
SMART III ハード・ディスク	3-14
ウィルス保護	3-15
キーボードのロック	3-15
PC 300PL 6565 のその他のセキュリティー機能	3-15
拡張セキュリティー	3-15
カバー・ロック	3-16
トップ・カバー取り外し検出機構	3-16
Asset ID	3-17

IBM セキュリティー・ソリューション	3-17
ビデオ機能の使用法	3-17
ビデオ・デバイス・ドライバー	3-18
モニター設定値の変更	3-18
オーディオ機能の使用法	3-19
ライン/ヘッドホン出力	3-19
オーディオ・ライン入力	3-19
マイク入力	3-20
システム・プログラムの更新	3-20
コンピューターの手入れ	3-22
本製品の清掃	3-22
本体とキーボード	3-22
モニター画面	3-23
マウス	3-23
本製品を移動する	3-24



以下のリストは、ご使用のコンピューターのコントロール・ボタンおよび状況表示ランプについて説明しています。

- 電源スイッチ:このスイッチを押すと、コンピューターの電源がオンまたはオフとなります。ハード・ディスクまたはディスクエット・ドライブの使用ランプがオンの場合は、コンピューターの電源をオフにしないでください。

注: 電源スイッチは、通常は 1 回押すだけで作動します。しかし、場合によってはすぐにコンピューターの電源がオフにならないことがあります。そのような場合には、電源スイッチを約 5 秒間押し続けたままにしていると、コンピューターはオフとなります。

- 電源ランプ:この状況表示ランプはコンピューターの電源を入れたときにオンになります。
- ハード・ディスク・ランプ:このランプがオンのときは、ハード・ディスクのヘッドが移動中であるか、または、コンピューターがハード・ディスクに対して読み取りまたは書き込みを行っていることを示します。

- ディスケット取り出しボタン: ディスケットをドライブから取り出す時に、このボタンを押します。
- ディスケット・ドライブ・ランプ: このランプがオンのときは、ディスク・ドライブのヘッドが移動中であるか、または、コンピューターがディスクに対して読み取りまたは書き込みを行っていることを示します。

注: CD-ROM ドライブ標準装備の場合、その CD-ROM ドライブのコントロール・ボタンおよび状況表示ランプに関する情報については、3-9ページの『CD-ROM ドライブの使用法』を参照してください。

本体の始動

コンピューターを始動したときの様子は、装置構成ユーティリティーの「始動オプション」メニューの設定によって異なります。デフォルト設定値は、「パワーオン時のステータス」は [表示しない] で、「自己診断テスト」は [高速] です。

注: その他の選択項目によっても、コンピューターの始動時に表示される画面が変わります。

本体の電源を入れたときに、デフォルト・モードではどのようになるかについて、以下に簡単に説明します。

注: 以下の画面またはメッセージは、ごく短時間しか表示されない場合があります。

1. IBM ロゴが表示されます。
2. 次のメッセージが表示されます。
Press F12 to boot from the network
Press F1 for Configuration/Setup
3. POST 中にエラーが検出された場合は、それらに関するメッセージが表示されます。
4. 始動パスワードを設定した場合は、画面にプロンプトが表示されます。始動パスワードと管理者パスワードの両方を設定した場合は、パスワード・プロンプトに対して、どちらのパスワードを入力しても構いません。プロンプトでパスワードを入力して **Enter** を押すと、オペレーテ

ィング・システムまたはアプリケーション・プログラムの最初の画面が表示されます。

- ハードウェア構成を変更した場合、あるいはエラーが検出された場合は、**Enter** を押すと、「装置構成ユーティリティー」メニューが表示されることがあります。

詳しくは、6-3ページの『自己診断テスト (POST)』を参照してください。

「パワーオンのステータス」が [表示する] の場合、自己診断テスト (POST) が問題を検出せずに終了すると、ピーブ音が 1 回鳴ります。コンピューターを始動したときに POST が問題を検出した場合は、ピーブ音が複数回鳴るか、またはピーブ音がまったく鳴りません。ほとんどの場合、エラー・コードが画面の左上隅に表示され、場合によってはエラーの説明がコードの横に表示されます。複数のエラー・コードと説明が画面に表示されることもあります。すべてのエラー・コード番号と説明を書き留めてください。

「自己診断テスト」が [拡張] の場合、システムの合計メモリー・サイズに達するまで、テストされているメモリーのサイズが画面の左上隅に表示されます。高速 POST を実行するためのプロンプト、または装置構成ユーティリティーにアクセスするためのプロンプトが、画面の左下隅に表示されます。

シャットダウン

本体の電源を切るときには、使用中のオペレーティング・システムの正しい終了手順を実行して、保管されていないデータが失われたり、ソフトウェア・プログラムに損傷を与えたりしないようにしてください。手順については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

ディスクットの使用方法

ご使用のコンピューターのディスクット・ドライブでは、3.5 インチのディスクットを使用することができます。3.5 インチ・ディスクットを使用する際に役立つ情報を以下に記載します。

ディスクットの取り扱いと保管

ディスクット保護ケースの内側には磁気に敏感なコーティングが施されているフレキシブル・ディスクが入っています。このディスクは熱、ほこり、は磁場、さらには指紋によって損傷を受けることがあります。ディスクットの取り扱いおよび保管には、次の点にご注意ください。

- データはディスクットの磁気面に格納されます。この表面はプラスチック・カバーによって保護されています。このカバーが損傷した場合は、ディスクットを使用 *しないで*ください。損傷したディスクットはディスクット・ドライブを損傷させる可能性があります。
- 3.5 インチディスクットの上部にある保護スライドは、磁気面の一部をカバーしています。ディスクット・ドライブは、ディスクットのデータの読み取りまたは書き込みのために、このスライドを移動させます。指紋やほこりによってデータが損失することがあるので、このスライドは *動かさない* ください。
- 磁気ディスク自体には決して触れないでください。
- ディスクットは、モーターや発電機などの強力な磁場を生じる装置または磁石に近づけないでください。ディスクットは、テレビ、電話、スピーカーなどに含まれる磁石の影響を受けます。磁気によって、ディスクットのデータが損失することがあります。ディスクットをモニター上に置いたり、磁石を使ってメモをコンピューターに添付したり *しないで* ください。
- ディスクットを高温または低温の環境で保管したり、直射日光にさらさないでください。ディスクットは熱源から遠ざけてください。プラスチックの外部カバーが反ったり、ディスクットが損傷します。

ディスクットの挿入と取り出し

3.5 インチ・ディスクットを挿入するには、ラベルを上にしてディスクットを持ち、保護スライドの付いた側から挿入します。ディスクットが所定位置に固定されるまでディスクット・ドライブ内に押し込みます。

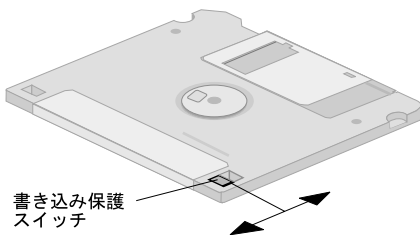
ディスクットを取り出すときは、取り出しボタンを押し、ディスクットをドライブから取り出します。使用中ランプが点灯しているときはディスクットを取り出さないでください。

ディスクの書き込み保護

誤ってディスクをフォーマットしたり、データを書き込んでしまうことによって、重要な情報が上書きされたり、失われてしまうことがあります。そのため、重要なディスクは書き込み保護しておくとい良いでしょう。書き込み保護されたディスクからは、データを読み取ることはできますが、そのデータの消去または変更はできません。

ほとんどの 3.5 インチ・ディスクには、データの上書きや消去から保護するための書き込み保護スイッチを備えています。3.5 インチ・ディスクが書き込み保護スイッチを備えていない場合は、恒久的に書き込み保護となっています。

書き込み保護スイッチは、3.5 インチ・ディスクの背面にあります。



- ディスクに対する書き込みを可能とするには、書き込み保護ウィンドウを塞ぐようにスイッチをスライドさせます。
- ディスクに対する書き込みを防止するには、書き込み保護ウィンドウを開くようにスイッチをスライドさせます。

ご使用のコンピューターはシステム・ボード上にスイッチを装備しており、これが ON に設定されると、ディスクの書き込み保護スイッチの位置にかかわらず、ディスクに対する書き込みはできなくなります。システム・ボード上のディスク書き込み保護スイッチの選定に関しては、5-21 ページの『ディスク書き込み保護スイッチの設定』を参照してください。

CD-ROM ドライブの使用方法

一部のモデルには、CD-ROM ドライブが標準装備されています。CD-ROM ドライブは CD の情報を再生したり、読み取ったりすることができますが、CD に情報を書き込むことはできません。CD-ROM ドライブは、業界標準の 12 cm (4.75 インチ) CD を使用します。

CD-ROM ドライブを使用する際には、次の点にご注意ください。

- 以下のような場所にドライブを置かないでください。
 - 高温の場所
 - 湿度の高い場所
 - ほこりの多い場所
 - 振動や急激な衝撃が加わる場所
 - 傾いた面
 - 直射日光の当たる場所
- ドライブの中には CD 以外のものは挿入しないでください。
- 本体を動かすときは、ドライブから CD を取り出してください。

CD の取り扱い

CD を取り扱う際には、次の点にご注意ください。

- CD を持つときは端を持って、ラベルの付いていない側の表面に触れないでください。
- ほこりや指紋を取り除くときは、きれいな柔らかい布で、CD の中心から外側に向かってふいてください。CD を円周方向にふくと、データが失われることがあります。
- CD に書き込みをしたり、紙を貼ったりしないでください。
- CD に傷を付けたり、マークを付けたりしないでください。
- CD を直射日光の当たる場所に置いたり、保管したりしないでください。
- ディスクを清掃するときは、ベンゼンやシンナーなどのクリーナーは使用しないでください。

- CD を落としたり、曲げたりしないでください。

CD の入れ方

CD を CD-ROM ドライブに取り付けるには、次のようにします。

1. Eject/Load (取り出し/ロード) ボタンを押します。トレイがドライブからスライドして出てきます。(手でトレイをこじ開けないでください。)
2. CD を、ラベル面を上に向けてトレイの中に置きます。
3. Eject/Load (取り出し/ロード) ボタンを押すか、トレイを軽く前方に押し、トレイを閉めます。トレイが閉まると、ドライブの前面のランプが点灯し、ドライブが使用中であることを示します。
4. CD を取り出すには、Eject/Load (取り出し/ロード) ボタンを押します。トレイがスライドして出てきたら、ディスクを注意深く取り出します。
5. Eject/Load (取り出し/ロード) ボタンを押すか、トレイを軽く前方に押し、トレイを閉めます。

注: Eject/Load (取り出し/ロード) ボタンを押してもトレイがドライブから出てこない場合は、CD-ROM ドライブの前面にある緊急取り出し穴に、先のとがったものを挿入してください。

重要

CD-ROM ドライブが縦位置になるようにコンピューターをセットアップする場合は、トレイが閉じられた後も CD が所定位置に保持されるように、トレイの CD 保持装置を設定する必要があります。(CD-ROM ドライブには、数種類のタイプの保持装置があります。2 つ以上のタブまたはクリップを回転あるいは引き伸ばさなければならないタイプもあります。CD が所定位置に保持されるようにワイヤー・ボールをドライブ内に再配置しなければならないタイプもあります。保持装置の設定が不要なタイプもあります。)

システム管理機能

この節では、ネットワーク管理者またはファイル・サーバーがコンピューターをリモートから管理および制御できるようにする機能について説明します。システム管理についての詳しい説明は、機能解説書（付属の *Software Selections CD* に収録）を参照してください。

IBM Universal Manageability ツールは、PC システム管理の効率化および自動化を行い、資産配置および追跡などのタスクをサポートします。このような最先端の PC 管理ツールは無料で IBM PC に利用することができ、ネットワークに接続された PC の管理コストを削減でき、また、本来の事業活動に専念することができます。詳細については、WWW の <http://www.ibm.com/jp/pc/desktop/pkatu> を参照してください。

Wake on LAN

Wake on LAN 機能には、Wake on LAN 対応ネットワーク・カードが必要です。ネットワーク管理者はこの機能を使用して、リモートからコンピューターの電源を入れることができます。Wake on LAN 機能を Netfinity のようなネットワーク管理ソフトウェアと合わせて使用すると、コンピューターのさまざまな機能（データ転送、ソフトウェア更新、および POST または BIOS 更新など）をリモートから開始することができます。詳細については、イーサネット・アダプター付属の資料を参照してください。

注： Wake on LAN 機能を使用する場合、コンピューターの電源を切る際には必ずコンピューターの電源スイッチを使用してください。コンピューターの電源コードを電源コンセントから抜いていたり、サージ保護器（接続している場合）のスイッチで電源オフにしているような場合には、Wake on LAN 機能は作動しません。

Alert on LAN

ご使用のコンピューターは Alert on LAN テクノロジーをサポートします。Alert on LAN テクノロジーは、コンピューターがオフとなっている場合でも、コンピューター・システムの変更を知らせる機能を提供します。デスクトップ管理インターフェース (DMI) および Wake on LAN テクノロジーとともに使用して、Alert on LAN はコンピューターのハードウェアおよびソフトウェア機能の管理および監視を支援します。

Wake on LAN で起動中に POST エラーが発生したときや、コンピューターがネットワークから切り離されたり、あるいは電源プラグがはずされたりしたときに Alert on LAN はアラートを発します。トップ・カバー取り外し検出機構を備えたモデルでは、カバーが外された場合にも Alert on LAN がアラートを発します。トップ・カバー取り外し検出機構に関する詳しいことは、3-16ページの『トップ・カバー取り外し検出機構』を参照してください。Alert on LAN は、LANClient Control Manager™ および IBM Netfinity Manager などのネットワーク管理ソフトウェアに組み込まれていることもあります。

RPL または DHCP

イーサネット・アダプターが装備されているモデルの場合、ネットワーク管理者はリモート・プログラム・ロード (RPL) および動的ホスト構成プロトコル (DHCP) を使用して、コンピューターを制御することができます。RPL を IBM LANClient Control Manager のようなソフトウェアと一緒に使用すれば、ハイブリッド RPL と呼ばれる機能を使用できるようになります。この機能は、ハイブリッド・イメージ (または、ファイル) をハード・ディスク上にインストールします。これにより、コンピューターがネットワークから始動されるたびに LANClient Control Manager がコンピューターをハイブリッド RPL クライアントとして認識し、ブートストラップ・プログラムがコンピューターのハード・ディスクにダウンロードされます。このブートストラップ・プログラムは小さいプログラムなので、ネットワークに負荷をかけません。ハイブリッド RPL の利点は、スタンダード RPL を利用した際に起こるネットワーク負荷を軽減することができます。

リモート管理

ネットワーク管理者はこの機能を使用して、コンピューターの POST および BIOS をリモートから更新することができます。この機能を利用するためには、LANClient Control Manager のようなネットワーク管理ソフトウェアが必要です。構成情報については、4-18ページの『リモート管理の設定』を参照してください。

LANClient Control Manager (LCCM)

LANClient Control Manager (LCCM) は、グラフィカルなサーバーのプログラムで、オペレーティング・システム、完全なソフトウェア・イメージ、デバイス・ドライバ、および BIOS アップデートなどの無人インストールを可能にし、システム配置を支援します。Wake on LAN と共に使用すれば、LCCM はご使用のコンピューターを遠隔操作によって電源オフの状態から起動させることができます。このことはシステムが使用中でなくてもこれらのことが可能であることを意味します。IBM PC をご購入されると、LCCM を無料でダウンロードして利用することができます (インターネット・アクセス料金はかかりません)。

詳細について、あるいはこのソフトウェアのダウンロードに関しては、WWW の <http://www.ibm.com/jp/pc/desktop/lccm> にアクセスしてください。

デスクトップ管理インターフェース

デスクトップ管理インターフェース (DMI) は、コンピューターのハードウェアおよびソフトウェアに関する情報を収集するための手段です。ネットワーク環境では、ネットワーク管理者は DMI を使用して、リモートからコンピューターを監視および制御することができます。DMI についての詳細は、機能解説書 (付属の *Software Selections CD* に入っています) を参照してください。

Wake on Ring

Wake on Ring 機能を使用すると、Wake on ring 対応モデムが接続されている電話回線からコールを受信したときに、コンピューターの電源を入れることができます。この機能は装置構成ユーティリティを使用して構成することができます。

セキュリティ機能の使用法

ここで説明するセキュリティ機能を使用し、コンピューターのハードウェアおよびソフトウェアを保護することができます。

カバーのロック

一部のモデルには、市販の南京錠など（付属していません）を使用すれば、カバーをロックすることができる機構が組み込まれています。コンピューター本体背面に、鍵をかけるための突起がありますので、適切な大きさの南京錠などをそこに付けて、カバーをロックすることができます。

ディスクットの書き込み禁止スイッチ

システム・ボード上のディスクット書き込み禁止スイッチを設定してディスクットに対するデータの書き込みを禁止し、ソフトウェアおよびデータの盗難を防ぐことができます。このスイッチの設定については、5-21ページの『ディスクット書き込み保護スイッチの設定』を参照してください。

SMART III ハード・ディスク

ご使用のコンピューターには、SMART III (Self-Monitoring, Analysis, and Reporting Technology) ハード・ディスクが標準装備されており、ハード・ディスク障害の可能性を報告することができます。エラーが検出された場合、DMI 準拠の警告メッセージがコンピューター画面に送られ、コンピューターがネットワークに接続されている場合には管理者コンソールに送られます。いったんエラーが検出されると、そのハード・ディスク上のデータのバックアップを作成し、ドライブを交換することができます。

ウィルス保護

ご使用のコンピューターにはウィルス保護プログラムが組み込まれており、装置構成ユーティリティを通して実行することができます。さらに、Software Selections CD に収録されている Norton AntiVirus for IBM を利用することができます。Norton AntiVirus for IBM またはその他のソフトウェアに関する詳しいことは、ソフトウェアについて を参照してください。

キーボードのロック

キーボードをロックして、他の人が使用できないようにすることができます。キーボードをロックするためには、始動パスワードを設定する必要があります。いったん始動パスワードが設定されると、キーボードのロックを解除するためには正しいパスワードを入力しなければなりません。装置構成ユーティリティを使用して、始動パスワード機能を使用可能に設定することができます。詳細については、4-7ページの『始動パスワードの使用法』を参照してください。

一部のオペレーティング・システムは、キーボードとマウスのロック機能を備えています。詳細については、オペレーティング・システムに付属のマニュアルを参照してください。

PC 300PL 6565 のその他のセキュリティ機能

ご使用のコンピューターが PC 300PL 6565 の場合は、他にもセキュリティ機能が含まれています。それらの一部には、拡張セキュリティ、トップ・カバー取り外し検出機構、カバー・ロックおよびキー、ならびにユーザーの電子商取引を保護するための IBM セキュリティ・ソリューションが含まれます。

拡張セキュリティ

拡張セキュリティは PC 300PL 6565 に提供されており、管理者パスワードおよび始動順序をさらに保護します。拡張セキュリティが使用可能にされると、パスワードと始動順序は高度に保護された不揮発性セキュリティ EEPROM モジュールに格納されます。このモジュールは CMOS 管理者メモリーおよびシステム・プログラムを格納している EEPROM モジュールとは独立しているものです。管理者パスワードと始動順序が拡張セキュリティによって保護されると、コンピューター内のバッテリーが消耗したり、取

り外された場合でも影響を受けません。詳細については、4-15ページの『拡張セキュリティの使用』を参照してください。

カバー・ロック

PC 300PL 6565 のシャーシに組み込まれたカバー・ロックは、カバーが容易に取り外されることを防ぎます。カバー・ロックには同一のキーが2つ付属しています。

重要

キーに付けられているタグは、キーの製造番号とキーの製造メーカーの住所が記載されています。キーのコード番号、キーの製造メーカーの住所、および電話番号をB-1ページの付録B、『製品に関する記録』に提供されているスペースに記録します。

カバー・ロック・キーの複製を作成することは認められていないため、スペア・キーを発注する場合は、この情報が必要となります。

トップ・カバー取り外し検出機構

PC 300PL 6565 に組み込まれているトップ・カバー取り外し検出機構は、コンピューター・カバーが取り外された場合にシステム管理者に警報を出します。この検出機構は、管理者パスワードを装置構成ユーティリティで設定した後に使用可能となります。

パスワードが設定された後にコンピューター・カバーが取り外された場合は、次回コンピューターの電源がオンになったときにコンピューター画面に POST エラー・メッセージ (176) が表示されます。トップ・カバー取り外し検出機構が、カバーが取り外されたことを検出した場合は、正しい管理者パスワードを入力するまでコンピューターを始動することはできません。パスワードの設定情報については、4-11ページの『管理者パスワードの使用法』を参照してください。

ご使用のコンピューターが Alert on LAN を使用しており、ネットワーク管理ソフトウェアを使用するネットワークに接続されている場合は、コンピューター・カバーが外されたことを伝えるメッセージがネットワーク管理コンソールにも送られます。詳細については 3-12ページの『Alert on LAN』を参照し、またネットワーク管理者に問い合わせてください。

Asset ID

Asset ID 機能が PC 300PL 6565 に装備されています。

Asset ID を装備している場合、ポータブル・スキャナーなどの無線装置やコンピューターの前面に取り付けられたアンテナにより、コンピューターに関する情報にアクセスすることができます。システム・ボード上の EEPROM モジュールは、構成データや重要コンポーネントのシリアル番号を含む、ご使用のコンピューターに関する情報を格納します。ご使用のコンピューターに関する特定情報を記録するために使用することのできる (必要に応じて) ブランク・フィールドも含まれています。(Asset ID は、ANSI/IEEE C95.1 1991 RF Radiation Limits に適合する無線装置を使用するように設計されています。)

IBM セキュリティー・ソリューション

PC 300PL 6565 には IBM セキュリティー・ソリューションが含まれます。IBM セキュリティー・ソリューションはユーザーの電子商取引をより安全なものとするのに役立ちます。*IBM Embedded Security Chip* と呼ばれる組み込みセキュリティー・チップは、追加コストなしで SmartCard の機能をコンピューターに提供します。IBM セキュリティー・ソリューションには User Verification Manager というソフトウェアも含まれており、システムのコンポーネントに対するアクセス権の管理に役立ちます。

ビデオ機能の使用法

ご使用のコンピューターには、ビデオ・アダプターが AGP スロットに装備されています。装備されているビデオ・アダプターはモデルによって異なり、その出力コネクタに従来の SVGA コネクタを装備しているものと、新しい DVI コネクタを装備したものがあります。DVI コネクタは、変換用のコンバーターを接続することにより、従来の SVGA コネクタに変換することができます。これらの各アダプターはさまざまなビデオ・モードをサポートします。ビデオ・モードは、テキストまたはグラフィックスを表示するためのビデオ標準によって定義された解像度、リフレッシュ・レート、および色数のさまざまな組み合わせです。ビデオ・モードについての詳細は、機能解説書 (付属の *Software Selections CD* に収録) を参照してください。

ビデオ・デバイス・ドライバー

コンピューターのグラフィックス・アダプターを最大限に生かすために、オペレーティング・システムおよびアプリケーション・プログラムによっては、ビデオ・デバイス・ドライバーと呼ばれるソフトウェアが必要になる場合があります。このようなデバイス・ドライバーによって、より高速で、解像度が高く、使用可能な色数が豊富で、ちらつきのない画像が得られます。

グラフィックス・アダプター用のデバイス・ドライバーと、デバイス・ドライバーの導入手順を説明した README ファイルが、付属の Software Selection CD に収録されています。本製品にソフトウェアが IBM によって事前導入されている場合は、ハード・ディスク上にビデオ・デバイス・ドライバーがすでにインストールされています。ただし、そのような場合でも、デバイス・ドライバーのインストール手順の説明が役立つ場合があります。たとえば、デバイス・ドライバーを再インストールする必要性が生じた場合、あるいは更新されたデバイス・ドライバーの入手やインストールに関する情報が必要になった場合などです。

モニター設定値の変更

画面上の画像を最も鮮明な状態にし、ちらつきを抑えるには、モニターの解像度およびリフレッシュ・レートを再設定する必要がある場合があります。オペレーティング・システムのコントロール・パネルを介して、モニター設定値を表示し、変更することができます。モニター設定値の詳細については、オペレーティング・システムの説明書を参照してください。

重要

モニターの設定値を変更する前に、必ずモニターに付属のマニュアルを参照してください。モニターでサポートされていない解像度やリフレッシュ・レートを使用すると、画面が乱れたり、モニターを損傷したりする原因になる場合があります。モニターのマニュアルには、通常、そのモニターがサポートする解像度およびリフレッシュ・レートに関する情報が記載されています。さらに情報が必要な場合は、モニターの製造元にお問い合わせください。

画面のちらつきやぶれを最小限に抑えるには、モニターのリフレッシュ・レートを、モニターがサポートしているノンインターレース方式の最高のリフレッシュ・レートに設定します。VESA ディスプレイ・データ・チャンネル

(DDC) 標準に準拠しているモニターでは、モニターとビデオ・コントローラーがサポートできる最高のリフレッシュ・レートにすでに設定済みになっています。モニターが DDC に準拠しているかどうか不明確な場合は、モニターのマニュアルを参照してください。

オーディオ機能の使用法

ご使用のコンピューターには、Sound Blaster アプリケーションをサポートし、Microsoft Windows Sound System と互換性のあるオーディオ・コントローラーが組み込まれています。これらのモデルは、内蔵スピーカー 1 つとオーディオ・コネクタを 3 つ備えています。オーディオ・コントローラーは、音声および音楽を記録し再生する機能、ならびにマルチメディア・アプリケーションで音声を楽しむための機能を提供します。オプションとして、ステレオ・スピーカーをライン出力コネクタに接続することもでき、これを使用するとマルチメディア・アプリケーションでより良質のサウンドが楽しめます。

本製品のオーディオ・コネクタは 3.5 mm のミニ・ジャックです。各コネクタの説明を以下に示します(コネクタの位置については、2-5ページの『デスクトップ・モデルの接続』または2-6ページの『タワー・モデルの接続』を参照してください。)

ライン/ヘッドホン出力

このジャックは、オーディオ信号をコンピューターから外部装置 (内蔵アンプ付きステレオ・スピーカー、ヘッドホン、マルチメディア・キーボード、またはステレオ・システムのオーディオ・ライン入力ジャックなど) に送るのに使用します。

注: 外付けスピーカーがヘッドホン・コネクタに接続されているときは、本製品の内蔵スピーカーは使用不可となります。

オーディオ・ライン入力

このジャックは、外付け装置 (ステレオのライン出力、テレビ、または楽器など) からのオーディオ信号を受信し、コンピューターのサウンド・システムに送るために使用されます。

マイク入力

このジャックは、音声やその他のサウンドをハード・ディスクに記録したいときに、マイクロホンをコンピューターに接続するのに使用します。このジャックは音声入力ソフトウェアで使用することもできます。

注:

1. 録音中に干渉やハウリングが生じた場合には、マイクロホンの録音ボリューム (ゲイン) を下げてみてください。
2. 音声認識ソフトウェア (別売) などで音声が正しく認識されない場合には、マイクロホンの録音ボリューム (ゲイン) の調整、およびコンピューターが正しく接地されているか確認してください。

サウンドの記録および再生の手順は、オペレーティング・システムによって異なります。詳細については、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。

システム・プログラムの更新

システム・プログラム は、コンピューターに組み込まれたソフトウェアの基本層です。これには自己診断テスト (POST)、基本入出力システム (BIOS) コード、および装置構成ユーティリティーが含まれています。POST は、コンピューターの電源を入れるたびに実行される一連のテストと手順です。BIOS は、他のソフトウェア層からの命令を、コンピューターのハードウェアが理解できる電気信号に変換するソフトウェア層です。装置構成ユーティリティーを使用すると、コンピューターの構成および設定を表示したり、変更したりすることができます。

コンピューターのシステム・ボードには、*電氣的消去可能プログラム式読み取り専用メモリー (EEPROM)* と呼ばれる(フラッシュ・メモリーとも呼ばれます) モジュールがあります。フラッシュ更新ディスクレットを使用してコンピューターを始動するか、またはリモート管理機能 (使用可能な場合) を使用することによって、POST、BIOS、および装置構成ユーティリティーを容易に更新することができます。詳細については、4-18ページの『リモート管理の設定』を参照してください。

品質向上のための継続的な努力の一環として、IBM ではシステム・プログラムを変更したり、拡張したりすることがあります。更新がリリースされた場

合は、ワールド・ワイド・ウェブ (WWW) から、ファイルをダウンロードすることができます (詳細は、別冊の「サービスのご案内」を参照してください)。システム・プログラムの更新法については、更新ファイルに含まれている README を参照してください。

コンピューターの手入れ

コンピューターの取り扱いと手入れに関しては、以下のことに注意してください。

本製品を正しく機能させるために、以下のことにご注意ください。

- 本製品は清潔で乾燥した環境で使用し、必ず平らでしっかりした面に設置してください。
- モニターの上に物を置いたり、モニターや本体の通気孔をふさいだりしないようにしてください。通気孔は、本製品およびモニターが過熱しないように空気を供給します。
- 食べ物や飲み物を本製品の近くに置かないでください。食べ物のかげらやこぼれた液体がキーボードやマウスにかかると、故障の原因になります。
- 電源スイッチやその他の制御部分をぬらさないでください。湿気があるとこれらの部品が損傷し、感電の危険を招くことがあります。
- 電源コードを抜くときは、コードではなく、必ずプラグを持って抜いてください。

本製品の清掃

本製品を定期的に清掃することにより、機器の外観を保護し、操作上のトラブルを防ぐことができます。

注意

本体とモニター画面を清掃する前に、本体とモニターの電源を必ず切ってください。

本体とキーボード

本体とキーボードの塗装面を清掃するときは、水または薄めた中性洗剤で湿らせて固く絞った布を使用します。

モニター画面

モニター画面の表面の清掃には研磨材の入った洗剤を使用しないでください。画面の表面は傷付きやすいので、ペン、鉛筆の先、消しゴムなどで触れないでください。

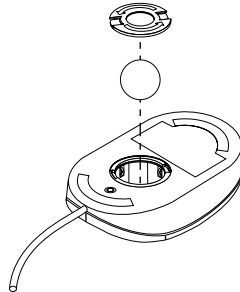
画面の表面は、柔らかい乾いた布でそっとふきます。砂や粒子が付着している場合は、吹き飛ばしてきれいにします。その後で、研磨材の入っていない液体ガラス・クリーナーで湿らした柔らかい布でふいてください。

マウス

マウスで画面上のポインターをスムーズに移動できない場合は、マウスの清掃が必要になることがあります。

マウスの清掃は、次の手順で行います。

1. 本体の電源を切ります。
2. マウス・ケーブルを本体から外します。
3. マウスを裏返しにします。マウスの底のボール押さえに示されている矢印の方向にボール押さえを回して、そのロックを外します。



4. マウスをゆっくり傾けると、ボール押さえとボールが外れて出てきます。
5. ボールを、薄めた中性洗剤で洗った後、水で洗い、よく乾かします。
6. 湿った布を使って、マウスとボール押さえの外部をふきます。マウスの内部のローラーも必ずふきます。

7. ボールとボール押さえを元の位置に収めます。ボール押さえを矢印と反対の方向に回してロックします。
8. マウス・ケーブルを本体に再接続します。

本製品を移動する

本製品を移動する前に、次のことを行ってください。

1. ハード・ディスクのすべてのファイルとデータのバックアップを取ります。
バックアップ手順は、オペレーティング・システムによって異なります。ソフトウェアのバックアップについては、オペレーティング・システムのマニュアルを参照してください。
2. すべての媒体 (ディスクレット、コンパクト・ディスク、テープなど) をドライブから取り出します。
3. オペレーティング・システムをシャットダウンし、コンピューターおよびすべての接続装置の電源を切ります。ハード・ディスク・ドライブは自動的に読み取り/書き込みヘッドを非データ域にパークさせます。これによってハード・ディスクの損傷を防ぐことができます。
4. 電源コード・プラグをコンセントから抜き取ります。
5. 本体の後部のケーブルの接続位置をメモしてから、ケーブルを外します。
6. 購入時のボール箱と梱包材を保管してある場合は、それを使って装置を梱包してください。別のボール箱を使う場合は、装置が損傷しないように緩衝材を使用してください。

第4章 装置構成ユーティリティーの使用法

装置構成ユーティリティーは、コンピューターのEEPROM（電氣的消去可能プログラム式読み取り専用メモリー）に保管されています。使用しているオペレーティング・システムに関係なく、装置構成ユーティリティーを使用してコンピューターの構成および設定を表示したり、変更したりすることができます。ただし、オペレーティング・システムで選択された設定値が、装置構成ユーティリティーの類似の設定値を上書きしてしまうことがあります。

この章の内容

装置構成ユーティリティーの開始と使用	4-3
設定値の表示と変更	4-5
装置構成ユーティリティーの終了	4-7
パスワードの使用法	4-7
始動パスワードの使用法	4-7
始動パスワードの設定、変更、および削除	4-9
管理者パスワードの使用法	4-11
管理者パスワードの設定、削除、または変更	4-11
紛失したり忘れた場合のパスワードの消去	4-12
デバイスごとのセキュリティー・プロファイルの使用法	4-13
拡張セキュリティーの使用	4-15
Pentium III プロセッサのシリアル番号機能を使用可能にする。	4-16
装置構成ユーティリティーのその他の設定値	4-17
キーボード速度の変更	4-17
始動順序の設定	4-17
始動手順に影響を及ぼす設定値	4-18
リモート管理の設定	4-18
割り込みリソースと DMA リソース	4-20
省電力機能	4-21
ACPI BIOS IRQ	4-21
ACPI スタンバイ・モード	4-21
スタンバイ・モード S1	4-21
スタンバイ・モード S3	4-22
APM 機能の設定	4-22

自動パワーオン機能の設定	4-24
ネットワーク関連の設定値の早見表	4-25

装置構成ユーティリティの開始と使用

装置構成ユーティリティは、POST によりハードウェア構成の変更が検出されると、自動的に起動されます。このとき、162 で始まる POST エラー・メッセージが表示されます。6-3ページの『自己診断テスト (POST)』を参照してください。

装置構成ユーティリティを開始するには、次のようにします。

1. コンピューターの電源を入れます。この手順を開始するときにすでにコンピューターの電源が入っている場合は、オペレーティング・システムを終了し、コンピューターの電源を切り、すべての使用中ランプが消えるまで数秒待ってから、コンピューターを再始動してください。
(Ctrl+Alt+Del を使ってコンピューターを再始動しないでください。)
2. 始動中に 装置構成ユーティリティ・プロンプトが画面の左下隅に表示されたら、F1 を押します。(このプロンプトが画面に表示されているのは、ほんの数秒間だけです。F1 を素早く押す必要があります。)
3. 管理者パスワードを設定していない場合は、画面に装置構成ユーティリティ・メニューが表示されます。管理者パスワードを設定した場合は、管理者パスワードを入力して **Enter** を押すまで、装置構成ユーティリティ・メニューは表示されません。詳しくは、4-7ページの『パスワードの使用法』を参照してください。

注: 新しいシステム・ハードウェアが追加されており、しかも以下の項目の 1 つまたは複数に該当する場合には、制御がオペレーティング・システムに渡される前に、装置構成ユーティリティ・メニューが表示されます。

- 自己診断テストが [拡張] に設定されている
- 始動パスワードが設定されている
- 管理者パスワードが設定されている

ご使用のコンピューターに実際に表示されるメニューは、ここに示すメニューとは多少異なっている場合がありますが、機能に変わりはありません。

装置構成ユーティリティ

メニュー

- ・ システム構成
- ・ 製品の情報
- ・ デバイスと I/O ポート
- ・ 始動オプション
- ・ 日付と時刻
- ・ システム・セキュリティ
- ・ アドバンスド設定
- ・ ISA リソース
- ・ 省電力機能

設定を保存する
設定を戻す
デフォルト設定をロードする

装置構成ユーティリティの終了

設定値の表示と変更

装置構成ユーティリティ・メニューには、各種のシステム構成を確認する項目がリストアップされています。その項目の隣に記号が表示される場合があります。記号の意味については、以下の表を参照してください。

記号	説明
•	追加メニューまたは追加画面が利用できます。
▶	システム構成においてその項目に変更が加えられたか、装置構成ユーティリティがエラーを検出し、その訂正を試みました。また、▶が付いているメニュー項目は、追加のメニューが続いている場合もあります。
*	システム・リソースの競合が検出されました。装置構成ユーティリティを終了する前にこの競合を解決して、コンピューターが正しく機能するようにしておく必要があります。
[]	装置構成ユーティリティ・メニューの中で変更を行うことができる構成情報は、大括弧で囲まれています。大括弧で囲まれていない情報は、変更することができません。

装置構成ユーティリティ・メニューで作業を行うときは、キーボードを使用する必要があります。さまざまな作業を行うために使用するキーについては、下の表を参照してください。

キー	機能
↑ ↓	これらの矢印キーを使用して、選択したいメニューが強調表示されるまでメニュー間を移動します。
← →	これらの矢印キーを使用して、メニュー項目の選択項目を表示し、項目を切り替えます。
Enter	このキーを押して、強調表示されたメニュー項目を選択します。
Esc	メニュー内の設定を表示または変更した後で、このキーを押してメニューを終了します。
+	一部のメニューでは、このキーを使用して設定値の数値を増やします。
-	一部のメニューでは、このキー（マイナス・キーあるいはハイフン・キー）を使用して設定値の数値を減らします。
0 - 9	一部のメニューでは、これらの数字キーを使用して設定値の数値を変更します。
F1	このキーを押して、選択されたメニュー項目についてのヘルプを見ます。
F9	選択したメニュー項目の設定値を変更し、保管した後で、その変更を行う以前の設定値に戻したい場合には、このキーを押します。
F10	選択したメニュー項目の設定値をデフォルト値に戻すには、このキーを使用します。

注： 使用できるキーは各画面の一番下に表示されますが、各メニューについて上記のすべてのキーが使用できるということではありません。

装置構成ユーティリティ・メニューの中で変更を行うことができる構成情報は、大括弧[] で囲まれています。大括弧で囲まれていない情報は、変更することができません。

装置構成ユーティリティの終了

設定値の表示または変更が終了したら、装置構成ユーティリティ・メニューに戻るまで **[Esc]** を押します。(プログラム内のどこにいるかにより、装置構成ユーティリティ・メニューに戻るために **[Esc]** を数回押さなければならない場合もあります。) 変更または設定値を保管したい場合は、「設定を保存する」を選択してから終了します。このステップを完了させないと設定値は保管されません。

パスワードの使用法

パスワードは、コンピューターとデータを安全に保護するために使用します。設定できるパスワードには、始動パスワードと管理者パスワードの 2 種類があります。コンピューターを使用するために、どちらかのタイプのパスワードを設定しなければならないというわけではありません。ただし、パスワードを設定する場合は、設定する前に以下の説明をお読みください。

注: 数字を含むパスワードを入力するときは、数字キーボードを使用しないでください。

始動パスワードの使用法

始動パスワードは、許可されていない人がコンピューターにアクセスするのを防ぎます。始動パスワードを設定すると、次の 3 つのパスワード・プロンプト・モードのいずれかを選択できます。

表示 (待機) このモードでは、本体の電源を入れたときに、始動パスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。正しいパスワードが入力されるまでは、コンピューターのオペレーティング・システムは始動せず、他の情報を入力するためにキーボードを使用することはできなくなります。マウスがマウス・ポートに接続されている場合、マウスはロック状態のままになります。マウスがシリアル・ポートに接続されている場合は、パスワードが設定されているかどうかに関係なく、本体が始動されるとマウスのロック状態は解除されます。

注: 「リモート管理」が使用可能の場合は、「表示 (待機)」を選択することはできません。その場合は「自動判別」を選択します。「リモート管理」が使用可能

に設定されているときに「表示 (待機)」に設定すると、自動的に「自動判別」にリセットされます。詳細については、4-18ページの『リモート管理の設定』を参照してください。

非表示 (無人) このモード (自動始動モードとも呼ばれます) では、本体の電源を入れても、始動パスワードの入力を求めるプロンプトは表示されません。コンピューターはオペレーティング・システムを開始させます。ただし、マウスをマウス・ポートに接続している場合は、以下の枠内の情報を参照してください。

— マウス・ユーザーのための重要な情報 —

この情報は、マウスをマウス・ポートに接続しているユーザーにのみ適用されます。シリアル・マウスは、パスワード・プロンプト 非表示 (無人) モードによる影響は受けません。

非表示 (無人) モードでは、コンピューターはマウスが接続されていることを検出しません。このモードでは、マウスのデバイス・ドライバは自動的にロードされません。その代わりに、オペレーティング・システムはマウス・コネクタが使用不可になっていることを示すエラー・メッセージを表示します。オペレーティング・システムが次の再始動時にこのエラー・メッセージを表示せずにロードできるようにするためには、始動パスワードまたは管理者パスワードを入力してから **Enter** を押します。次にキーボードのタブ・キーとスペース・キーを使用して、「**Do not display this message in the future**」(今後このメッセージを表示しない) チェック・ボックス (☐) にチェック・マーク (✓) を付けます。

オペレーティング・システムがパスワード・プロンプト 非表示 (無人) モードで始動すると、コンピューターはパスワードが入力されるまでロックされたままとなります。しかし、マウス・ポートに接続されたマウスはロックされたままとなります。

自動判別

自動判別モードでは、本体が電源スイッチによって始動されたのか、モデムやタイマーなどの無人の方法で始動されたのかによって、本体の始動動作が異なります。

電源スイッチを使用して本体を始動した場合は、表示（待機）モードのときと同様に動作します。詳細については、4-7 ページを参照してください。

本体が LAN を介してリモート始動された場合のように無人の方法で始動された場合は、非表示（無人）モードのときと同様に動作します。詳細については、4-8 ページを参照してください。

パスワードを入力しても、画面にはパスワードは表示されません。間違ったパスワードを入力した場合は、パスワードが間違っていることを知らせるメッセージが表示されます。間違ったパスワードを 3 回入力した場合は、本体の電源をいったん切って再始動しなければなりません。正しいパスワードを入力すると、キーボードとマウスのロックが解除され、コンピューターは通常の動作を開始します。

始動パスワードの設定、変更、および削除

始動パスワードには、組み合わせは自由で最高 7 文字（A-Z、a-z、0-9）を使用できます。

重要

始動パスワードは、忘れないようにメモして、安全な場所に保管しておいてください。パスワードを紛失したり忘れたりしてしまった場合、コンピューターのカバーを外してシステム・ボード上のスイッチを変更しなければ、それを消去することはできません。詳細については、4-12 ページの『紛失したり忘れた場合のパスワードの消去』を参照してください。

始動パスワードを設定、変更、または削除するには、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティを開始します（4-3 ページの『装置構成ユーティリティの開始と使用』を参照してください）。

2. 装置構成ユーティリティメニューから「システム・セキュリティ」を選択して **Enter** を押します。
3. 「始動パスワード」選択して **Enter** を押します。
4. 始動パスワードを削除する場合は、「始動パスワードを無効にする」を選択して、ステップ 9 に進みます。
5. 始動パスワードを変更するには、「始動パスワードの設定および変更」を選択し、画面の指示に従ってください。
6. 新しいパスワードを設定する場合は、新しいパスワードを入力して、下矢印 () キーを押します。
7. 新しいパスワードをもう一度入力します。
8. 「パスワード・プロンプト」で「表示」、「非表示」、または「自動判別」を選択します。選択項目を切り替えるときは、左矢印 () または右矢印 () キーを押します。

注: 「リモート管理」が使用可能の場合は、「表示」を選択することはできません。その場合は「自動判別」を選択します。「リモート管理」が使用可能に設定されているときに「表示」に設定すると、モードは自動的に「自動判別」にリセットされます。
9. **Esc** を 2 回押し、装置構成ユーティリティメニューに戻ります。
10. 「設定を保存する」を装置構成ユーティリティメニューから選択し、**Esc** を押して画面の指示に従います。

管理者パスワードの使用法

重要

拡張セキュリティーを使用可能にした場合は、管理者パスワードの記録を安全な場所に保管しておいてください。管理者パスワードを忘れたり、紛失した場合は、システム・ボードを交換しないと回復することができません。

管理者パスワードを設定すると、許可されていない人は装置構成ユーティリティーを使用して構成設定値を変更することができなくなります。複数のコンピュータの管理を担当している場合、管理者パスワードを設定することが必要になります。

管理者パスワードを設定すると、装置構成ユーティリティーにアクセスしようとするたびに、パスワード・プロンプトが表示されます。間違ったパスワードを入力した場合は、パスワードが間違っていることを知らせるメッセージが表示されます。間違ったパスワードを3回連続して入力した場合は、本体の電源をいったん切って再始動しなければなりません。

始動パスワードと管理者パスワードが両方とも設定されている場合、どちらのパスワードを入力しても構いません。ただし、設定値を変更する場合は、管理者パスワードを使用しなければなりません。始動パスワードを入力した場合は、限定された情報のみしか表示することができません。

管理者パスワードの設定、削除、または変更

管理者パスワードには、組み合わせは自由で最高7文字（A-Z、a-z、0-9）を使用できます。

管理者パスワードの設定、変更、または削除は、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティーを開始します（4-3ページの『装置構成ユーティリティーの開始と使用』を参照してください）。
2. 装置構成ユーティリティー・メニューから「システム・セキュリティー」を選択して **Enter** を押します。
3. 「管理者パスワード」を選択して **Enter** を押します。

4. 管理者パスワードを削除する場合は、「管理者パスワードを無効にする」を選択して、ステップ 8 (4-12ページ) に進みます。
5. 管理者パスワードを設定する場合は、パスワードを入力し、下矢印 () キーを押して、もう一度パスワードを入力します。
6. 「ユーザーによる始動パスワードの変更」で、「可」または「不可」を選択します。選択項目を切り替えるときは左矢印 () または右矢印 () を押します。(「可」を選択し、管理者パスワードが設定されている場合は、管理者パスワードを入力しなくても始動パスワードを変更することができます。「不可」を選択し、管理者パスワードが設定されている場合には、管理者パスワードを入力しない限り、始動パスワードを変更することはできません。)
7. 「管理者パスワードの設定および変更」を選択し、画面の指示に従ってください。
8. 装置構成ユーティリティ・メニューに戻るまで、**[Esc]** を押します。
9. 「設定を保存する」を装置構成ユーティリティ・メニューから選択し、**[Esc]** を押して画面の指示に従います。

紛失したり忘れた場合のパスワードの消去

紛失したり忘れたパスワードの消去方法は次のとおりです。

1. コンピューターおよびすべての接続装置の電源を切ります。
2. コンピューターと接続されているすべての装置の電源コードをコンセントから外します。
3. カバーを取り外します。5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』または 5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』を参照してください。
4. コンピューター内部のシステム・ボード・ラベルを参照し、Clear CMOS スイッチ (小型 DIP スイッチ上のスイッチ 2) を見つけてください。
5. スイッチ 2 を OFF から ON 位置に移動します。
6. カバーを元に戻します。

7. 電源コード・プラグを差し込みます。約 30 秒後にコンピューターからビープ音が鳴ります。
8. 電源スイッチを約 5 秒間押し続けて電源を切ります。
9. 電源コードを抜き取り、カバーを取り外します。5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』または 5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』を参照してください。
10. スイッチ 2 を OFF 位置に戻します。
11. コンピューターのカバーを元に戻します。
12. 電源コード・プラグを差し込みます。

CMOS メモリーを消去した後は、コンピューターを再構成する必要があります。コンピューターを再組み付けした後で、装置構成ユーティリティーを使用して、日付と時刻をリセットし、パスワードをリセットし、コンピューターを再構成します。

デバイスごとのセキュリティー・プロファイルの使用法

デバイスごとのセキュリティー・プロファイルは、以下のものに関するセキュリティー・レベルを管理することができます。

- IDE コントローラー・アクセス：この項目が非動作に設定されているときは、IDE コントローラーに接続されているすべてのデバイス（例えば、ハード・ディスク）は使用不可となり、システム構成内には表示されません。
- ディスケット・ドライブ・アクセス：この項目が非動作に設定されているときは、ディスク・ドライブにはアクセスできません。
- ディスケットのライト・プロテクト：この項目が動作に設定されているときは、すべてのディスクは書き込み保護されているものとして処理されます。

デバイスごとのセキュリティー・プロファイルは、それぞれの始動装置に対して、始動前にパスワードを要求するよう設定することもできます。始動装置は、次の 3 種類に分類されています。

- リムーバブル・メディア（ディスク・ドライブおよびCD-ROM ドライブなど）

- ハード・ディスク・デバイス
- ネットワーク・デバイス

これらの装置は、始動パスワード、管理者パスワードを要求するように設定することも、あるいは始動時にパスワードを要求しないように設定することもできます。これらの設定値を使用することにより、システムに関して始動または管理者パスワードが設定されている場合には、始動時に特定のデバイスがアクセスされたときのみパスワード・プロンプトを出すようにコンピューターを構成することができます。たとえば、ハード・ディスクに対してユーザー・パスワードを必要とするように設定した場合は、ハード・ディスクから始動しようとするたびに、始動処理が先に進む前にパスワードの入力を求められます。

一部のオペレーティング・システムは、オペレーティング・システムのロード前にパスワードの入力を要求されます。デバイスごとのセキュリティー・プロファイルはオペレーティング・システムの機能は変更しません。オペレーティング・システムのパスワードが必要な場合は、デバイスごとのセキュリティー・プロファイルの設定値にかかわらず、パスワードを入力する必要があります。

デバイスごとのセキュリティー・プロファイルの設定方法は次のようになります。

1. 装置構成ユーティリティーを開始します (4-3ページの『装置構成ユーティリティーの開始と使用』を参照してください)。
2. 装置構成ユーティリティー・メニューから「システム・セキュリティー」を選択して **Enter** を押します。
3. デバイスごとのセキュリティー・プロファイル を選択し、 **Enter** を押します。
4. 希望するデバイスと設定値を選択し、 **Enter** を押します。
5. **Esc** を 2 回押し、装置構成ユーティリティー・メニューに戻ります。
6. 「設定を保存する」を装置構成ユーティリティー・メニューから選択し、 **Esc** を押して画面の指示に従い、装置構成ユーティリティーを終了します。

拡張セキュリティーの使用

拡張セキュリティーは、PC 300PL 6565 で使用可能な機密保護機能です。

拡張セキュリティーは、システム・プログラムの更新時にのみ使用可能または使用不可にすることができます。拡張セキュリティーが使用可能な場合で、管理者パスワードを設定しなかったときは、ご使用のコンピューターは拡張セキュリティーが使用不可の場合のように動作します。管理者パスワードの設定に関して詳しくは、4-11ページの『管理者パスワードの使用法』を参照してください。

拡張セキュリティーが使用可能な場合で、管理者パスワードを設定してあるときは、次のような機密保護の対策をさらに構じることができます。

- セキュリティー EEPROM の内容 (管理者パスワードおよび始動順序) は、バッテリーまたは CMOS メモリーの障害時にも保護されます。
- セキュリティー EEPROM は、無許可のアクセスから保護されます。拡張セキュリティーが使用不可にされ、コンピューターが再始動されるまでは、セキュリティー EEPROM をソフトウェア・アプリケーションまたはシステム・ソフトウェアから読み取りまたは書き込みを行うことはできません。ネットワーク環境においては、ご使用のコンピューター上での特定機能の実行をこれによって阻止できることがあります。
- 拡張セキュリティーが使用不可にされ、コンピューターが再始動されるまでは、リモート管理はロックされ、それを解除することはできません。これによってコンピューター内のシステム・プログラムはリモート側から更新できなくなります。
- 装置構成ユーティリティーの構成設定値は保護されており、管理者パスワードを入力しないと変更することはできません。ご使用のコンピューターにおいて、システム・プログラムによりコンピューター・ハードウェアの変更が検出されると、管理者パスワードが入力されるまでは構成エラーが表示されます。

拡張セキュリティーを使用可能または使用不可にする手順は次の通りです。

1. システム・プログラム・アップデート・ディスクをコンピューターのディスク・ドライブ (ドライブ A) に挿入します。システム・プログラム・アップデートは WWW の

Pentium III プロセッサのシリアル番号機能を使用可能にする。

<http://www.ibm.com/jp/pc/home/download.html> から入手することができます。

2. コンピューターの電源を入れます。すでに電源がオンになっている場合は、一度電源を切り、再び電源を入れます。
3. 更新が始まり、コンピューターがいったん停止し、管理者パスワードの入力を指示されます (管理者パスワードが設定されている場合)。コンピューターは、管理者パスワードが入力されるまで、一時停止していません。
4. 管理者パスワードを入力すると、あるいは管理者パスワードが設定されていない場合には、更新ディスクは実行が継続され、拡張セキュリティーの使用可能または使用不可を選択する画面が表示されます。ユーザーの行った選択は自動的に装置構成ユーティリティー・プログラムのシステム・セキュリティー・メニューに記録されます。

Pentium III プロセッサのシリアル番号機能を使用可能にする。

一部のモデルには、プロセッサ・シリアル番号の機能を備えた Pentium III マイクロプロセッサが搭載されています。プロセッサ・シリアル番号とは、各 Pentium III マイクロプロセッサ固有の電子的識別番号です。この機能は主として電子商取引におけるセキュリティーを強化するために使用されます。*Pentium III* マイクロプロセッサが装備されたモデルは、この機能がオフ (使用不可) の状態で出荷されています。

この機構を使用可能にするには、以下の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティーを開始します。
2. 「アドバンスド設定」を選択し、**Enter** を押します。
3. 「プロセッサ設定」を選択し、**Enter** を押します。
4. 「プロセッサ・シリアル番号アクセス」の値を、「しない」から「する」に変更し、**Enter** を押します。
5. 設定値を保管し、装置構成ユーティリティーを終了し、コンピューターの電源スイッチを使ってコンピューターを再始動し、新しい設定値を有効にします。

装置構成ユーティリティのその他の設定値

この節では、キーボードの速度、始動順序、リモート管理、および省電力など、装置構成ユーティリティのその他の設定値を変更する方法について説明します。

キーボード速度の変更

キーを押したときのキーボードの反応速度を変更することができます。この設定値は装置構成ユーティリティの「始動オプション」の下にあります。デフォルトの **タイプ速度** は、30 文字/秒 (高速) です。

始動順序の設定

コンピューターは、ハード・ディスク・ドライブ、ディスク・ドライブ、CD-ROMドライブなどのいくつかの装置、ならびにネットワークから始動することができます。始動プログラムは、選択された順序でこれらの装置を探します。始動順序を選択するには、装置構成ユーティリティを使用します。

始動順序の設定は、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティを開始します (4-3ページの『装置構成ユーティリティの開始と使用』を参照してください)。
2. 「始動オプション」を選択して Enter を押します。
3. 「始動オプション」メニューから「始動順序」を選択して **Enter** を押します。
4. 「基本の始動順序」の下で、「主始動デバイス」を選択して **Enter** を押します。
5. 矢印キーを使用して選択し、**Enter** を押します。
6. 必要な場合は、「第二始動デバイス」、「第三始動デバイス」、および「第四始動デバイス」について、上記のステップを繰り返します。
7. 「自動パワーオン時の始動順序」が「動作」の場合は、提供された選択項目から順序と装置を選択します。
8. 装置構成ユーティリティ・メニューに戻るまで、**Esc** を押します。

9. 「設定を保存する」を装置構成ユーティリティ・メニューから選択し、**Esc** を押して画面の指示に従います。

始動手順に影響を及ぼす設定値

装置構成ユーティリティ内の以下の機能に関する設定値は、コンピュータの始動手順に影響します。

- 始動オプション: 始動順序、パワー・オン時のステータス、および自己診断テストを含みます。
- セキュリティー・オプション: 管理者パスワードおよび始動パスワードを含みます。詳細については、4-7ページの『パスワードの使用法』、4-7ページの『始動パスワードの使用法』、および 4-11ページの『管理者パスワードの使用法』を参照してください。
- デバイスごとのセキュリティー・プロファイル。詳細については、4-13ページの『デバイスごとのセキュリティー・プロファイルの使用法』を参照してください。

リモート管理の設定

リモート管理を使用可能にすることによって、POST や BIOS のようなシステム・プログラムを、リモートのネットワーク・サーバーから更新することができます。コンピュータに管理者パスワードを設定してある場合でも、プログラムをリモート更新するためにパスワードを入力する必要はありません。POST および BIOS 更新を実行するためのネットワーク・サーバーの設定については、ネットワーク管理者に相談してください。

リモート管理の設定は、次の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティを開始します。4-3ページの『装置構成ユーティリティの開始と使用』を参照してください。
2. 「システム・セキュリティー」を選択して **Enter** を押します。
3. 「リモート管理」を選択して **Enter** を押します。
4. リモート管理による更新を使用可能にするために「する」を選択します。リモート管理を使用不可にする場合は「しない」を選択します。**Enter** を押します。

5. 装置構成ユーティリティー・メイン・メニューに戻るまで **Esc** を押し
ます。
6. 「設定を保存する」を装置構成ユーティリティー・メニューから選択
し、 **Esc** を押して画面の指示に従います。

割り込みリソースと DMA リソース

この節では、本製品のデフォルトの割り込みリソースとダイレクト・メモリー・アクセス (DMA) リソースの設定値のリストを示します。割り込みおよび DMA 設定値は、コンピューターの再構成時に変更される可能性があります。

割り込みリソース	システム・リソース
0	タイマー
1	キーボード
2	インタラプト・コントローラ (カスケード接続)
3	シリアル・ポート B
4	シリアル・ポート A
5	使用可
6	ディスケット
7	パラレル・ポート
8	リアルタイム・クロック
9	ACPI
10	使用可
11	使用可
12	マウス
13	数値演算コプロセッサ
14	1 次 IDE ドライブ (取り付けられている場合)
15	2 次 IDE ドライブ (取り付けられている場合)

注: IRQ 3, 4, 7, および 9 ならびに DMA 3 は、他の設定に変更または使用不可にすることができます。

DMA 要求	システム・リソース
0	使用可
1	使用可
2	ディスケット
3	パラレル・ポート
4	予約済
5	使用可
6	使用可
7	使用可

省電力機能

本製品には、省電力機能が装備されています。装置構成ユーティリティの省電力メニューを使用して、省電力設定値を表示および変更することができます。本セクションでは、ご使用のコンピューターによってサポートされる APM (advanced power management) および ACPI (automatic configuration and power interface) の省電力機能について説明します。

重要

モニターなどの装置に省電力機能がない場合には、本製品が省電力状態になったときにこれらの装置が損傷を受けることがあります。モニターに対して省電力機能を選択する前に、そのモニターが省電力機能 (DPMS) をサポートするかどうかを、モニターに付属のマニュアルで調べてください。

ACPI BIOS IRQ

ACPI BIOS IRQ により、オペレーティング・システムはご使用のコンピューターの省電力機能を制御することができます。ACPI BIOS IRQ 設定値を使用してこの機能が使用する割り込みを構成し、リソースを他の装置のために解放することができます。すべてのオペレーティング・システムが ACPI BIOS IRQ をサポートしている訳ではありません。ACPI がサポートされているかどうかについては、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

ACPI スタンバイ・モード

一部のモデルでは、システムがスタンバイ・モードに入ったときにどの電力レベルに入るかを選択することができます。

スタンバイ・モード S1

スタンバイ・モード S1 はすべてのモデルでサポートされています。コンピューターが S1 モードに入ると、電力はすべてのデバイスに対して維持されますが、マイクロプロセッサの活動は停止されます。

スタンバイ・モード S3

スタンバイ・モード S3 は一部のモデルでサポートされています。コンピューターのスタンバイ・モード設定値に S3 を選択できない場合は、スタンバイ・モード S1 のみがサポートされています。コンピューターが S3 モードに入ると、メイン・メモリーに対する電源のみ維持されます。S3 スタンバイ・モードから復帰するには、電源スイッチを 1 回押します。

注: ご使用のコンピューターのスタンバイ・モード設定値で S3 の選択が可能な場合は、以下の重要欄を必ずお読みください。

重要

一部のオプション・アダプターは、スタンバイ・モード S3 から正しく復帰しない場合があります。コンピューターがスタンバイ・モードに入っている間に停止していると思われる場合は、電源スイッチを 5 秒間押し続けてください。コンピューターはスタンバイ・モードを終了し、電源オフとなります。電源スイッチを押してコンピューターの電源を再びオンにします。

スタンバイ・モード S3 で問題が生じる場合は、この設定を S1 に変更してください。そして、ご使用のオプション・アダプターのためのスタンバイ・モード S3 をサポートする更新済みデバイス・ドライバーが入手可能かどうか調べてください。

APM 機能の設定

省電力機能により、指定された時間だけ活動がなかった場合に、コンピューターおよびモニターを (モニターが DPMS をサポートする場合) 省電力状態に移行させるように設定することができます。

- 節電までの時間: APM BIOS サポートを [する] に設定すると、このオプションでは、省電力機能が作動を開始するまでのコンピューターの非アクティブ期間を指定することができます。5 分 ~ 1 時間の間で選択することができます。
- システム電源: このオプションでは、コンピューターの電源を入れたままにしたい場合は「オン」、省電力機能がアクティブになるときにコンピューターを終了したい場合は「オフ」を選択できます。

- **ディスプレイ省電力:** このオプションでは、以下の省電力状態のいずれかを選択できます。
 - **スタンバイ:** このモードでは画面には何も表示されませんが、何らかの活動が検出されると、*ただちに* 画面イメージが復元されます。
 - **サスペンド:** このモードでは、モニターはスタンバイ・モードより消費電力が少なくなります。画面には何も表示されませんが、何らかの活動が検出された後、*数秒以内に* 画面イメージが復元されます。
 - **オフ:** このモードでは、モニターの電源が切られます。再びモニターの電源を入れるためには、モニターの電源スイッチを押す必要があります。一部のモニターでは、電源スイッチを 2 回押さなければならない場合もあります。

上記設定値のいずれかが選択されている場合は、ディスプレイ・オフまでの時間を指定する必要があります。5 分～1 時間の間で選択することができます。(「ディスプレイ・オフまでの時間」は省電力状態が開始されてからディスプレイがオフとなるまでの時間の長さです。)

 - **しない:** このモードでは、モニターは省電力設定値の影響を受けません。
- **IDE ドライブ:** この選択項目では、省電力機能がアクティブになるときに、IDE ドライブを省電力モードにするかどうかを指定することができます。

省電力機能の設定手順は次のとおりです。

1. 装置構成ユーティリティーを開始します (4-3ページの『装置構成ユーティリティーの開始と使用』を参照してください)。
2. 「省電力機能」を選択して **Enter** を押します。
3. 「APM」を選択して **Enter** を押します。
4. 「APM BIOS サポート」を「する」に設定します。
5. 必要に応じて、省電力の値 (節電までの時間、システム電源、ディスプレイ、およびディスプレイ・オフまでの時間) を選択します。
6. 「作動状況モニター」を選択して、**Enter** を押します。

7. 省電力のために監視したい装置を「する」または「しない」に設定します。

注: すべての装置を「しない」に設定した場合、システムを起動するためには、コンピューターを再始動することが必要になります。

8. **[Esc]** を 3 回押し、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
9. 「設定を保存する」を装置構成ユーティリティ・メニューから選択し、**[Esc]** を押して画面の指示に従います。

自動パワーオン機能の設定

「省電力機能」メニューの中の自動パワーオン機能を使用すると、本製品の電源を自動的に入れる機能を使用可能にしたり使用不能にしたりすることができます。選択した自動パワーオン機能で使用する始動手順も選択する必要があります。

- **Wake on LAN:** リモート・ネットワーク管理ソフトウェアおよび Wake on LAN のサポートされているネットワーク・アダプターをお持ちの場合は、IBM が開発した Wake on LAN 機能を使用することができます。Wake on LAN が「する」に設定されている場合、ローカル・エリア・ネットワーク (LAN) 上の別のコンピューターから特定の信号を受信すると、コンピューターの電源が入ります。
- **モデムの着信 (シリアル・ポート A):** コンピューターのシリアル・ポート A に外付け モデムが接続されている場合、モデム上でリングが検出されたときにコンピューターの電源が自動的に入るようにしたい場合は、この機能を「する」に設定します。モデムもまたこの機能をサポートする必要があります。
- **PCI モデムの着信 (内蔵モデム):** コンピューターに PCI モデムが装備されている場合、モデムでリングが検出されたときにコンピューターの電源が自動的に入るようにしたい場合は、この機能を「する」に設定します。
- **タイマー・ウェイクアップ (タイマーによる始動):** この機能では、コンピューターの電源を自動的に入れる日付と時刻を指定することができます。この機能は、1 回だけのイベント、毎日のイベント、または毎週のイベントのいずれかとして指定できます。

- **PCI Wake Up:** この設定が使用可能な場合、この機能をサポートする PCI デバイスからのウェイクアップ要求に応答してコンピューターの電源が入ります。

自動パワーオン機能を設定するには、以下の手順で行います。

1. 装置構成ユーティリティを開始します (4-3ページの『装置構成ユーティリティの開始と使用』を参照してください)。
2. 「省電力機能」を選択して **Enter** を押します。
3. 「自動パワーオン」を選択して **Enter** を押します。
4. 設定したい機能のメニュー項目を選択します。左矢印 (**<**) または右矢印 (**>**) を使用して「使用可能」または「使用不可」を選択し、 **Enter** を押します。
5. その機能の始動順序を選択します。左矢印 (**[**) または右矢印 (**]**) を使用して、「基本」または「自動」を選択します。「自動」を選択した場合は、「始動順序」メニューの「自動パワーオン時の始動順序」を必ず「動作」に設定してください。そうしないと、システムは「基本」の始動順序を使用します。
6. 装置構成ユーティリティ・メニューに戻るまで、 **Esc** を押します。
7. 「設定を保存する」を装置構成ユーティリティ・メニューから選択し、 **Esc** を押して画面の指示に従います。

ネットワーク関連の設定値の早見表

一部のモデルには、ネットワーク・アダプターが標準装備されています。以下の表は、ご使用のコンピューターがネットワーク上の他のコンピューターに接続されている場合に役立つ早見表です。この情報は、特定のネットワーク設定値がすばやく見つけられるように提供されています。選択項目が見つかったら、現行の設定値を表示したり、異なる設定値を選択したりすることができます。設定が終了したら、設定値を保存してユーティリティを終了するか、または設定値を保管せずにユーティリティを終了することができます。

下表に示したステップは、常に装置構成ユーティリティのメイン・メニューから始まっています。

使用可能にする:	選択	注釈
リモート管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. システム・セキュリティ 2. リモート管理 3. する 	リモート管理を使用可能にすると、LAN を介して POST/BIOS を更新できるようになります。
正規ブートのバイパスとネットワークの使用	<ol style="list-style-type: none"> 1. 始動オプション 2. ネットワーク・ブートのための F12 3. 表示する 	
Wake on LAN	<ol style="list-style-type: none"> 1. 省電力機能 2. 自動パワーオン 3. Wake on LAN 4. する 5. 始動順序 6. 自動 <p style="margin-left: 20px;"> Esc を押してメイン・メニューに戻ります。 </p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 始動オプション 8. 始動順序 9. 自動パワーオン時の始動順序 10. 動作 11. 主、第二、第三、第四始動デバイス 	モデルによっては 4 つの始動装置を選択できない場合があります。

使用可能にする:	選択	注釈
Wake on PCI	<ol style="list-style-type: none"> 1. 省電力機能 2. 自動パワーオン 3. PCI Wake Up 4. する 5. 始動順序 6. 自動 <p style="margin-left: 2em;">[Esc] を押してメイン・メニューに戻ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 始動オプション 8. 始動順序 9. 自動パワーオン時の始動順序 10. 動作 11. 主、第二、第三、第四始動デバイス 	<p>モデルによっては 4 つの始動装置を選択できない場合があります。</p>
自動パワーオン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 省電力機能 2. 自動パワーオン 3. タイマー・ウェイク・アップ 4. 一回、毎日、または毎週 5. 起動時刻などの設定 6. 始動順序 7. 自動 <p style="margin-left: 2em;">[Esc] を押してメイン・メニューに戻ります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. 始動オプション 9. 始動順序 10. 自動パワーオン時の始動順序 11. 動作 12. 主、第二、第三、第四始動デバイス 	<p>モデルによっては 4 つの始動装置を選択できない場合があります。</p>

使用可能にする:	選択	注釈
<p>モデムの着信 (シリアル・ポート A)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 省電力機能 2. 自動パワーオン 3. モデムの着信 (シリアル・ポート A) 4. する 5. 始動順序 6. 自動 <p>[Esc] を押してメイン・メニューに戻りません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 始動オプション 8. 始動順序 9. 自動パワーオン時の始動順序 10. 動作 11. 主、第二、第三、第四始動デバイス 	<p>モデルによっては 4 つの始動装置を選択できない場合があります。</p> <p>モデムの着信 (シリアルポート A) は COM1 のみについて使用可能です。</p>
<p>PCI モデム着信 (内蔵モデム)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 省電力機能 2. 自動パワーオン 3. モデムの着信 (内蔵モデム) 4. する 5. 始動順序 6. 自動 <p>[Esc] を押してメイン・メニューに戻りません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 始動オプション 8. 始動順序 9. 自動パワーオン時の始動順序 10. 動作 11. 主、第二、第三、第四始動デバイス 	<p>モデルによっては 4 つの始動装置を選択できない場合があります。</p>

第5章 オプションの取り付け

メモリー、ドライブ、またはアダプターを追加して、本製品の機能を拡張することができます。オプションを追加するときは、以下の説明とともに、オプションに付属のマニュアルも使用してください。

重要

- オプションの取り付けまたは取り外しを行う前に、ixページの『安全上に正しくお使いいただくために』をお読みください。これらの注意事項およびガイドラインは、安全に作業をするのに役立ちます。
- コンピューターのカバーを開ける前に電源コードを壁面コンセントから抜き取っておかないと、5 V の予備電源によってハードウェアが損傷するおそれがあります。

この章の内容

静電気に敏感な装置	5-3
使用可能なオプション	5-3
必要な道具	5-4
カバーの取り外し - デスクトップ・モデル	5-5
各コンポーネントの位置 - デスクトップ・モデル	5-7
電源機構の移動 - デスクトップ・モデル	5-8
カバーの取り外し - タワー・モデル	5-10
各コンポーネントの位置 - タワー・モデル	5-12
電源機構の移動 - タワー・モデル	5-13
システム・ボード上のオプションの作業	5-17
システム・ボードへのアクセス	5-17
システム・ボードの部品の識別	5-17
メモリーの作業	5-19
ディスク書き込み保護スイッチの設定	5-21
アダプターの作業	5-23
PCI アダプター	5-23
アダプター・スロット	5-23

アダプターの取り付け - デスクトップ・モデル	5-23
アダプターの取り付け - タワー・モデル	5-25
内蔵ドライブの作業	5-27
内蔵ドライブ	5-27
ドライブの仕様	5-29
内蔵ドライブの電源ケーブルと信号ケーブル	5-30
内蔵ドライブの取り付け - デスクトップ・モデル	5-32
内蔵ドライブの取り付け - タワー・モデル	5-36
導入の終了	5-40
カバーの再取り付けとケーブルの接続	5-40
コンピューター構成の更新	5-42
プラグ・アンド・プレイ・アダプターの構成	5-42
装置構成ユーティリティーの開始	5-43
始動装置の構成	5-44

静電気に敏感な装置

静電気は人体には無害ですが、本製品の構成部品やオプションには重大な損傷を与える可能性があります。

オプションを取り付ける際には、指示があるまで、オプションが入っている静電気防止袋を**開けない**でください。

静電気による損傷を回避するために、オプションやその他の構成部品を取り扱う際には、以下の注意を守ってください。

- 身体の動きを最小限にとどめる。動作が多いと、周囲に静電気が帯電する可能性があります。
- 構成部品は常に注意して取り扱う。アダプターやメモリー・モジュールを扱うときは、端を持ってください。回路の露出部には決して手を触れないでください。
- 他の人が構成部品に触れないようにする。
- 新たにオプションを取り付ける際には、オプションが入っている静電気防止袋を、本体の金属性拡張スロット・カバーか、その他の塗装されていない金属面に 2 秒間以上接触させる。これによって、パッケージや人体の静電気を少なくすることができます。
- オプションの取り外しと取り付けを行う際には、オプションはできるだけ下に置かず、直接本体に取り付ける。これができない場合には、そのオプションが入っていた静電気防止袋を凹凸のない平な場所に置き、その上にオプションを置くようにしてください。
- 本体のカバーやその他の金属面の上にオプションを置かないようにする。

使用可能なオプション

以下のものは、使用可能なオプションの一部です。

- システム・メモリー (デュアル・インライン・メモリー・モジュール (DIMM) と呼ばれます)
- PCI アダプター

- AGP ビデオ・アダプター
- 内蔵ドライブ
 - CD-ROM
 - ハード・ディスク
 - ZIP ドライブおよびその他のリムーバブル・メディア・ドライブ

使用可能なオプションに関する最新情報については、お買い求めの販売店または弊社の営業担当員にお問い合わせください。

必要な道具

一部のオプションをコンピューターに取り付けたり、取り外したりするために、マイナス・ドライバーが必要になります。さらに一部のオプションには別のツールが必要となる場合があります。アダプターに付属のマニュアルをお読みください。

重要

ConfigSafe (または類似アプリケーション) を実行してコンピューターの構成情報の スナップショットを作成してから、オプションのデバイスをインストールしてください。このスナップショットを使用して、オプションの取り付け後にコンピューターの構成の変更を表示し、比較することができます。また、オプションの取り付け後に構成上の問題が生じた場合は、ConfigSafe によって構成を直前の設定値に戻すことができます。

コンピューターを最初に始動したときは、ConfigSafe はコンピューターの初期構成のスナップショットを作成します。このスナップショットを使用して、構成を初期設定値に戻すこともできます。

ConfigSafe は、ご使用のコンピューターに初期導入されています。詳細については、コンピューターに付属の「ソフトウェアについて」を参照してください。

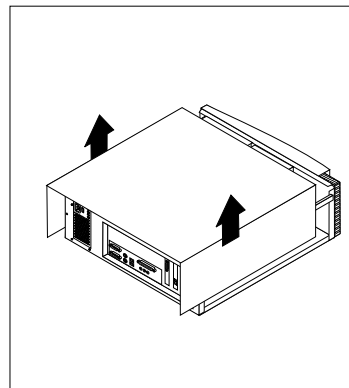
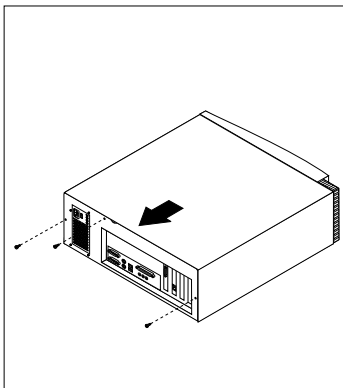
カバーの取り外し - デスクトップ・モデル

重要:

カバーを取り外す前に、ixページの『安全上に正しくお使いいただくために』および 5-3ページの『静電気に敏感な装置』をお読みください。

カバーの取り外しは、次の手順で行います。

1. オペレーティング・システムを終了し、すべてのメディア（ディスク、CD、テープなど）をドライブから取り出し、すべての接続装置とコンピュータの電源をオフにします。
2. すべての電源コードをコンセントから抜き取ります。
3. コンピューターに接続されているすべてのケーブルを取り外します。これには、電源コード、入出力 (I/O) ケーブル、およびコンピューターに接続されているその他のすべてのケーブルが含まれます。
4. コンピューターの背面で、カバーをシャーシに固定している 3 つのつまみねじを取り外します。必要に応じて、ドライバーでつまみねじを緩めます。
5. 突き当たって止まるまで、後方に真直ぐカバーを約 2cm 程引き、その位置でシャーシからカバーを引き上げます。



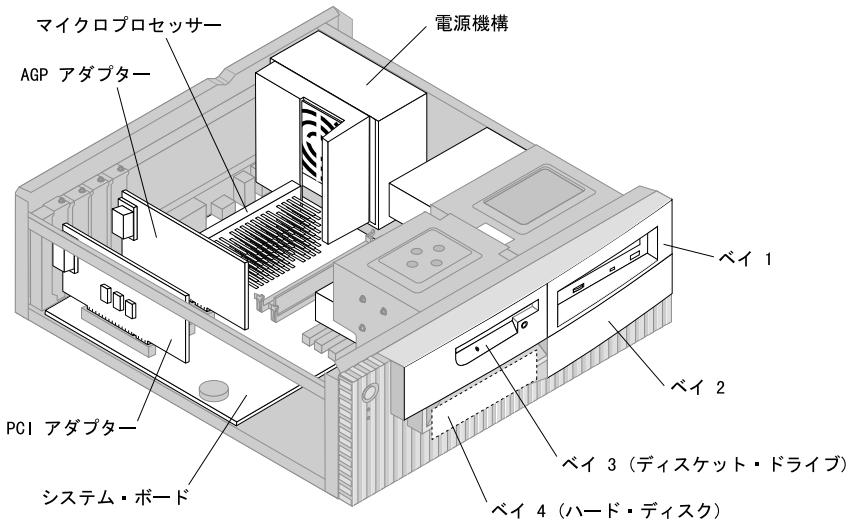
重要

内部部品の信頼性を保つためには、正しく冷却することが必要です。カバーを取り外したままコンピューターを稼働しないでください。

各コンポーネントの位置 - デスクトップ・モデル

オプションをコンピュータに取り付けるためには、カバーを取り外す必要があります。5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』を参照してください。また、コンピュータ内部のコンポーネントの位置を確認することも必要です。

下の図は、コンピュータ内部の各コンポーネントの位置を確認するのに役立ちます。



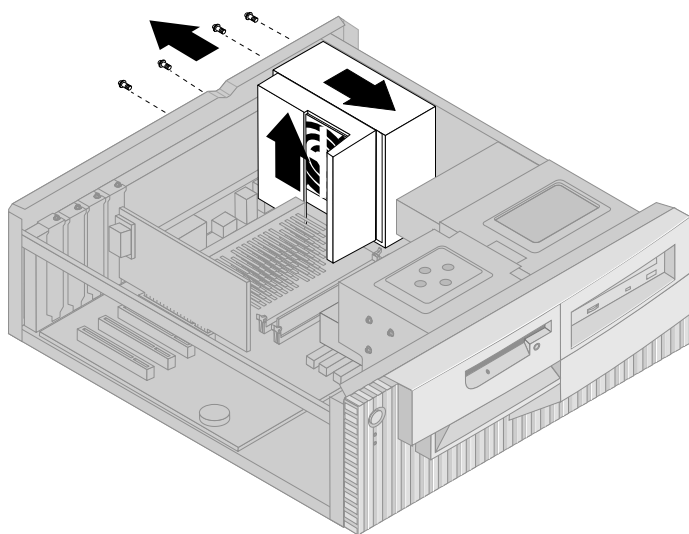
電源機構の移動 - デスクトップ・モデル

ドライブをデスクトップ・モデルのベイ 1 または 2 に取り付けるには、電源機構を移動する必要があります。これにより、信号および電源ケーブルをドライブの後部コネクタに容易に接続することができます。

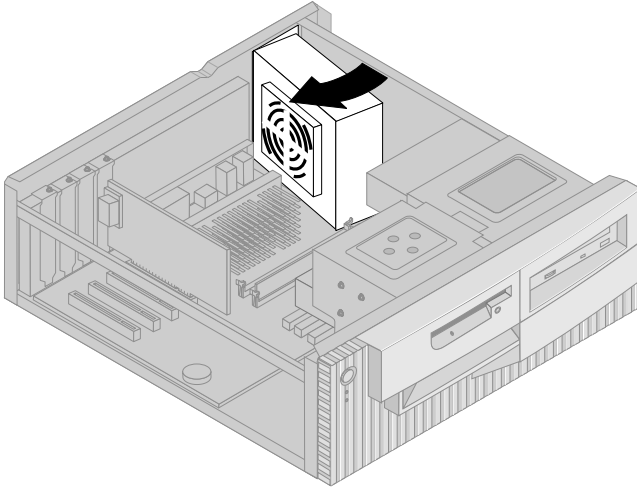
⚠ 危険

電源機構ブラケットを電源機構から取り外したり、電源機構のねじを取り外したりしてはなりません。

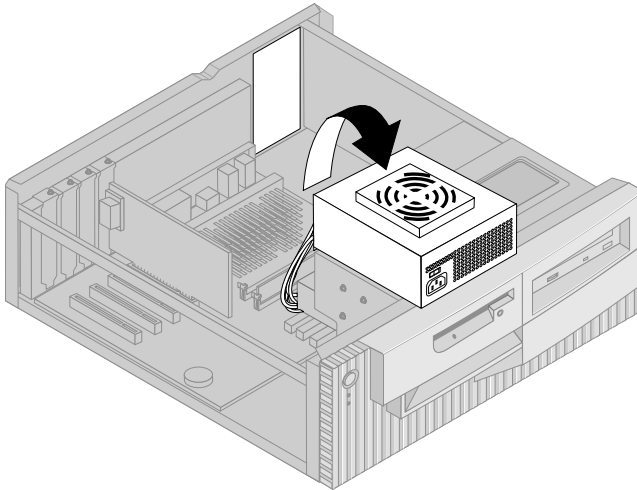
1. 電源機構をコンピューターの背面に固定している 4 本のねじを緩めます。
2. エア・ダクトを電源機構から取り外します。
3. 電源機構をシャーシに固定しているタブが解放されるまで、電源機構ユニットをシャーシ前部にスライドさせます。



4. 電源機構をシステム・ボード側に少し回転させます。



5. 電源機構を持ち上げ、シャーシの前側に慎重に回転させます。作業を行うドライブ・ベイの背面に作業用スペースを残すように注意しながら、ディスク・ドライブ・ベイの上にそれを置きます。



6. 電源機構を元に戻すときは、上記のステップを逆に行います。

カバーの取り外し - タワー・モデル

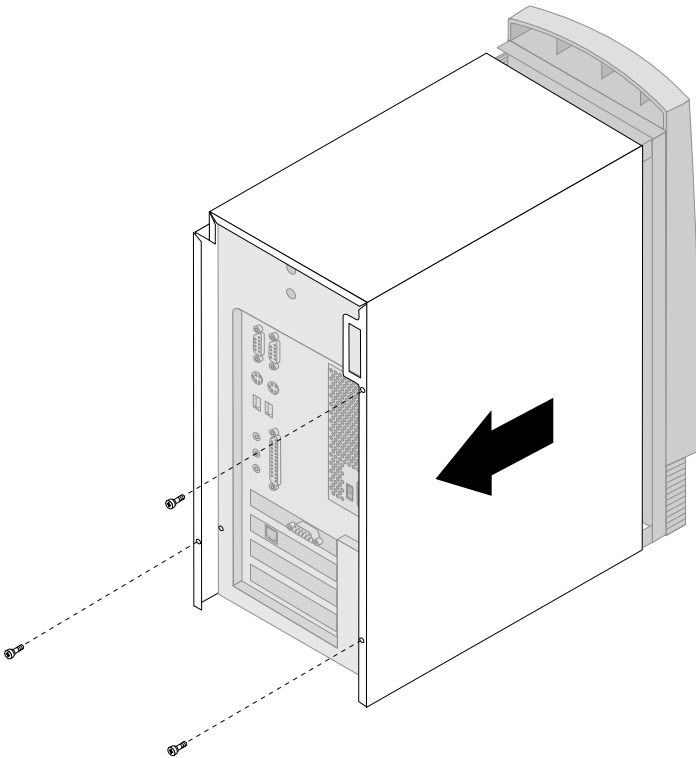
重要:

カバーを取り外す前に、ixページの『安全上に正しくお使いいただくために』および 5-3ページの『静電気に敏感な装置』をお読みください。

カバーの取り外しは、次の手順で行います。

1. オペレーティング・システムを終了し、すべてのメディア（ディスケット、CD、テープなど）をドライブから取り出し、すべての接続装置とコンピューターの電源をオフにします。
2. すべての電源コードをコンセントから抜き取ります。
3. コンピューターに接続されているすべてのケーブルを取り外します。これには、電源コード、入出力 (I/O) ケーブル、およびコンピューターに接続されているその他のすべてのケーブルが含まれます。

4. コンピューターの背面で、カバーをシャーシに固定している 3 つのつまみねじを取り外します。必要に応じて、ドライバーでつまみねじを緩めます。
5. 突き当たって止まるまで、後方に真直ぐカバーを約 2cm 程引き、その位置でシャーシからカバーを引き上げます。



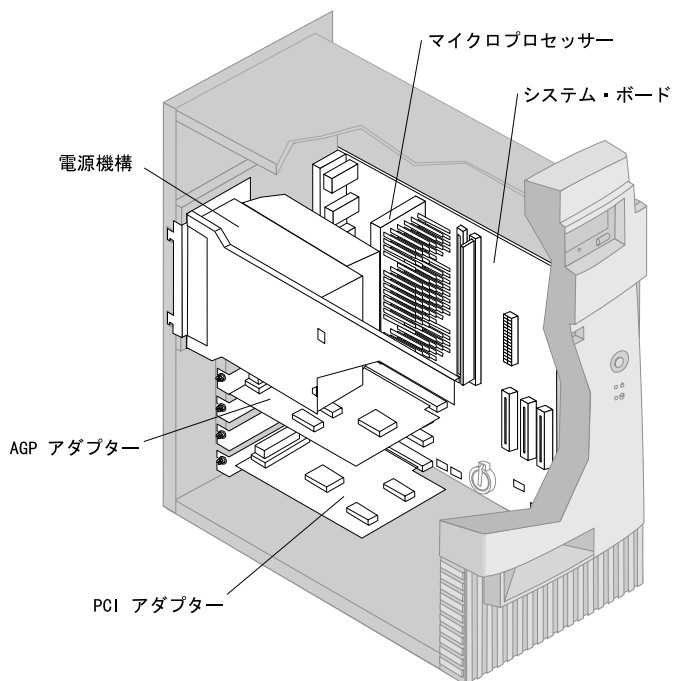
重要

内部部品の信頼性を保つためには、正しく冷却することが必要です。カバーを取り外したままコンピューターを稼働しないでください。

各コンポーネントの位置 - タワー・モデル

オプションをコンピューターに取り付けるためには、カバーを取り外す必要があります。5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』を参照してください。また、コンピューター内部のコンポーネントの位置を確認することも必要です。

下の図は、コンピューター内部の各コンポーネントの位置を確認するのに役立ちます。



注: コンピューターの側面を下にしておき、オプションの取り付けまたは取り外しを行っても構いません。

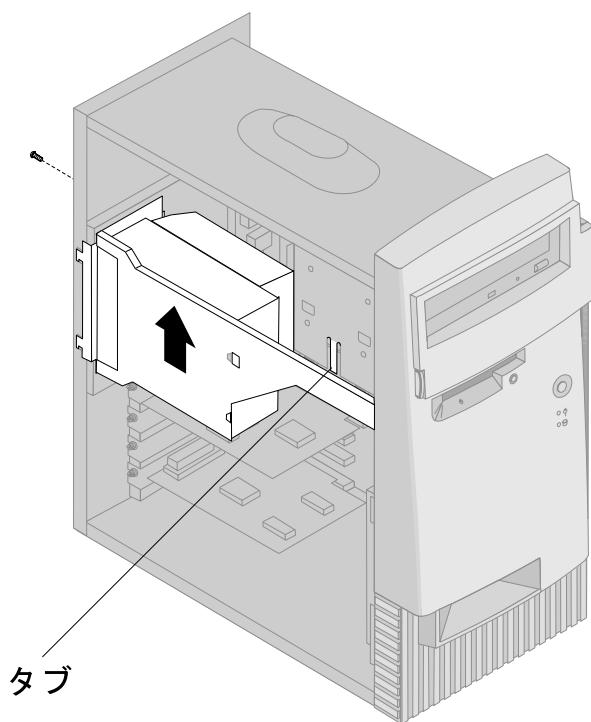
電源機構の移動 - タワー・モデル

コンピューターの内部の作業を行う際に、電源機構の移動が必要になる場合があります。これにより、システム・ボード上の見えにくい、あるいは手が届きにくい部分に容易にアクセスすることができます。

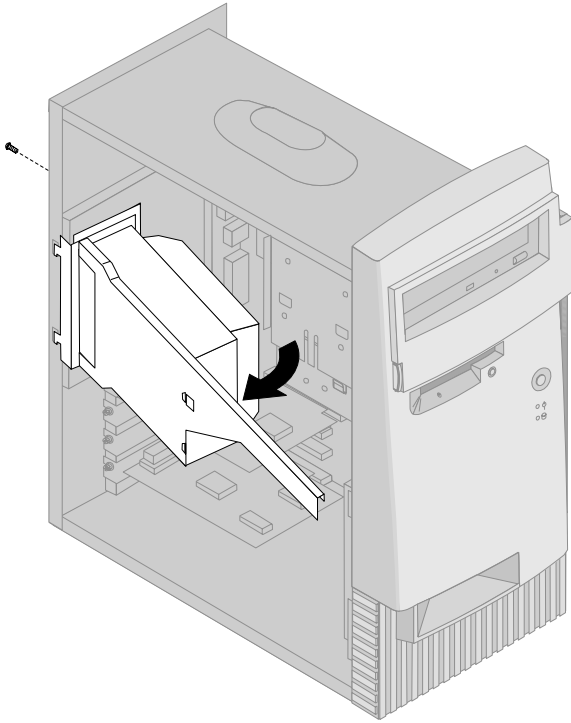
危険

電源機構ブラケットを電源機構から取り外したり、電源機構のねじを取り外したりしてはなりません。

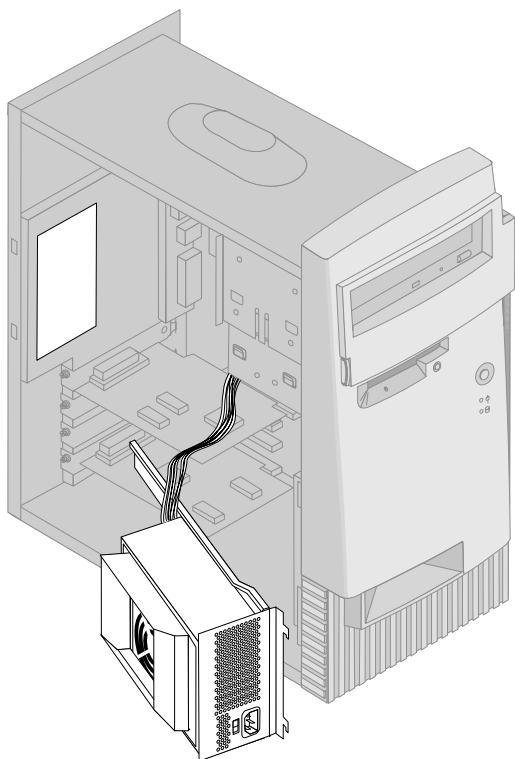
1. 電源機構をシャーシ背面に固定している一本のつまみねじを外します。
(取り外すねじは、電源機構自体につけられているねじではありません。)
2. 電源機構をシャーシに固定している金属性のタブを押して、電源機構を解放します。
3. 電源機構ユニットをシャーシ上側にスライドさせます。



4. 電源機構を手前に少し回転させます。



5. 電源機構を手前に引き出し、シャーシの前方に向けて注意深く回転させます。電源機構をシャーシの横に置きます。



6. 電源機構を元に戻すときは、上記のステップを逆に行います。

システム・ボード上のオプションの作業

本セクションは、オプションの取り付けおよびシステム・ボード上のディスクヘッド書き込み保護スイッチの設定について説明します。

システム・ボードへのアクセス

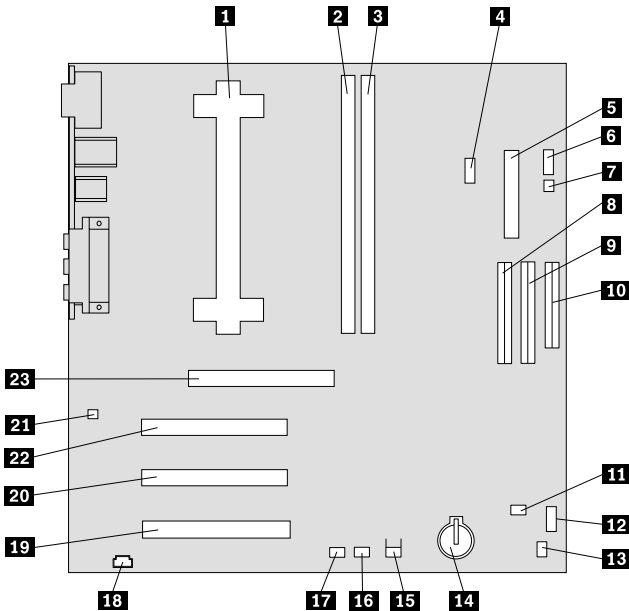
システム・ボードにアクセスするためには、コンピューターのカバーを取り外す必要があります。コンピューター・カバーの取り外しについては、ご使用のコンピューターのモデルにより5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』または5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』を参照してください。システム・ボードの一部のコンポーネントにアクセスするために、アダプターを取り外すことが必要になる場合があります。拡張アダプターについては、5-23ページの『アダプターの作業』を参照してください。ケーブルを取り外す際には、必ず接続されていた場所をメモして、後で正しく再取り付けできるようにしてください。

注：タワー・モデルの場合は、コンピューターを横に倒して置くと、システム・ボードにアクセスしやすくなります。

システム・ボードの部品の識別

システム・ボードは、プレーナーまたはマザーボードとも呼ばれ、コンピューターの中心となる回路ボードです。これは、基本的なコンピューター機能を提供し、IBM で取り付け済みの、またはユーザーが後で取り付けることができる、さまざまな装置をサポートします。システム・ボードの部品の位置は、下の図を参照してください。

注：システム・ボードの図面と補足情報が、コンピューターの内部にあるラベルに記載されています。



- | | | | |
|-----------|------------------------|-----------|--|
| 1 | マイクロプロセッサ | 14 | バッテリー |
| 2 | DIMM 0 | 15 | カバー取り外し検出スイッチ・コネクタ |
| 3 | DIMM 1 | 16 | Wake on LAN コネクタ |
| 4 | ファン・コネクタ | 17 | Alert on LAN コネクタ |
| 5 | 電源コネクタ | 18 | CD-ROM コネクタ |
| 6 | スイッチ/LED コネクタ | 19 | PCI スロット 1 |
| 7 | RFID アンテナ・コネクタ | 20 | PCI スロット 2 |
| 8 | 1 次 EIDE コネクタ | 21 | PCI スロット 3 (このスロットは Alert on LAN アダプターのために使用します) |
| 9 | 2 次 EIDE コネクタ | 22 | シャーシ・スピーカー・コネクタ |
| 10 | ディスク・ドライブ・コネクタ | 23 | AGP スロット |
| 11 | ファン・コネクタ | | |
| 12 | 大型 DIP スwitch (一部のモデル) | | |
| 13 | 小型 DIP スwitch | | |

注: ご使用のシステム・ボードは、図に示されているすべてのコネクタを装備していない場合があります。

メモリーの作業

システムの性能を高めるために、コンピューターにメモリーを増設することができます。ご使用のコンピューターは、メモリー・モジュールを取り付けるためのコネクタを 2 つ装備しており、最大 1 GB (Windows 95/98/98 SE 使用時は最大 512 MB) の SDRAM を装着することができます。

本製品は、デュアル・インライン・メモリー・モジュール (DIMM) を使用しています。本製品に標準搭載されている DIMM は、バッファなし、シンクロナス DRAM (SDRAM) です。

DIMM を導入または交換するときは、以下の規則が適用されます。

- 各システム・メモリー・コネクタを、DIMM 0 から順に埋めていく。
- 3.3 V、133 MHz、バッファなし、SDRAM DIMM のみを使用する。
- 64、128、256、または 512 MB DIMM のみを使用する (サポートされる SDRAM DIMM の組み合わせで)。

注: システム・ボード上のメモリー・コネクタの位置は、コンピューター内側にあるシステム・ボード・ラベルを参照してください。

始める前に:

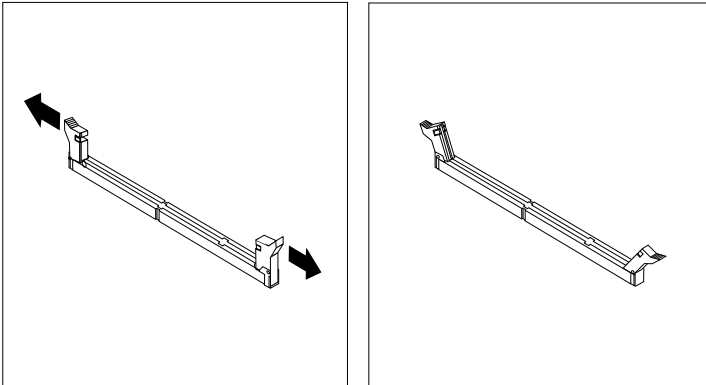
- ixページの『安全上正しくお使いいただくために』および 5-3ページの『静電気に敏感な装置』をお読みください。
- 新しいシステム・メモリーに付属のマニュアルをお読みください。
- コンピューターとすべての接続装置の電源を切ってください。
- コンピューターに接続されているすべてのケーブルを切り離し、コンピューター・カバーを取り外してください (5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』または5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』を参照してください)。
- 5-17ページの『システム・ボードへのアクセス』をお読みになり、システム・ボード上の各部品の位置を確認してください。

注:

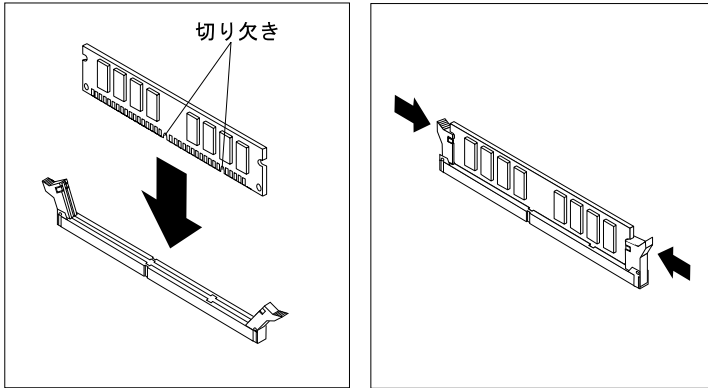
1. DIMM ソケットにアクセスするために、電源機構を取り外すことが必要になる場合があります。5-8ページの『電源機構の移動 - デスクトップ・モデル』または5-13ページの『電源機構の移動 - タワー・モデル』を参照してください。
2. DIMM ソケットにアクセスするために、アダプターを取り外さなければならない場合もあります。

DIMM の取り付け手順は次のとおりです。

1. アダプター・スロット・カバーの留めねじを外します。
2. DIMM ソケットのモジュール保持クリップを開きます。



3. DIMM の切り欠きを必ずコネクターと正しくそろえてください。DIMM をコネクターに真直ぐにはめ、保持クリップが閉じるまで下に押し込んで取り付けます。



4. 外しておいたアダプターを再び取り付けます。アダプターの再取り付けについては、5-23ページの『アダプターの取り付け - デスクトップ・モデル』または5-25ページの『アダプターの取り付け - タワー・モデル』を参照してください。
5. 電源機構を元に戻します (取り外した場合)。

次に行うこと:

- 別のオプションの作業を行う場合は、該当するセクションに進んでください。
- 導入を完了する場合は、5-40ページの『導入の終了』に進んでください。

ディスク書き込み保護スイッチの設定

ディスク書き込み保護スイッチは、ディスク・ドライブを使用してディスクに情報を書き込むことができるかどうかを管理します。ディスクに対する書き込み保護機能は、ネットワークから入手可能な情報のセキュリティが大切な場合に特に有効です。

注:

このスイッチは、ディスクから情報を読み取る機能には影響しません。

始める前に:

- ixページの『安全上に正しくお使いいただくために』および 5-3ページの『静電気に敏感な装置』をお読みください。
- コンピューターとすべての接続装置の電源を切ってください。
- コンピューターに接続されているすべてのケーブルを切り離し、コンピューター・カバーを取り外してください (5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』または5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』を参照してください)。

1. システム・ボード上の小型 DIP スイッチを見付けます。コンピューター内側のラベルまたは5-17ページの『システム・ボードの部品の識別』を参照してください。小型のドライバーを使用するとスイッチの設定を容易に行うことができます。
2. 以下のようにしてスイッチを設定します。
 - ディスケットを読み取り専用とするためには、スイッチ 1 を ON 位置に設定します。これで書き込み保護が機能します。
 - 通常のディスク操作機能を得るためには、スイッチ 1 をOFF 位置に設定します。これで書き込み保護は働きません。

アダプターの作業

この節では、アダプターの取り付けと取り外しに関する情報と手順について説明します。

PCI アダプター

現在、すべてのアダプターはプラグ・アンド・プレイテクノロジーを使用しており、コンピューターが自動的にアダプターを構成できるようになっています。詳細については、5-42ページの『コンピューター構成の更新』を参照してください。

アダプター・スロット

ご使用のコンピューターのシステム・ボードには、アダプターをバスに接続するために使用される PCI 拡張スロットが 3 つ装備されています。AGP アダプター・スロットも 1 つ装備されています。デスクトップ・モデルでは最大 340 mm の長さのアダプターを、またタワー・モデルでは最大 228 mm の長さのアダプターを取り付けることができます。

アダプターの取り付け - デスクトップ・モデル

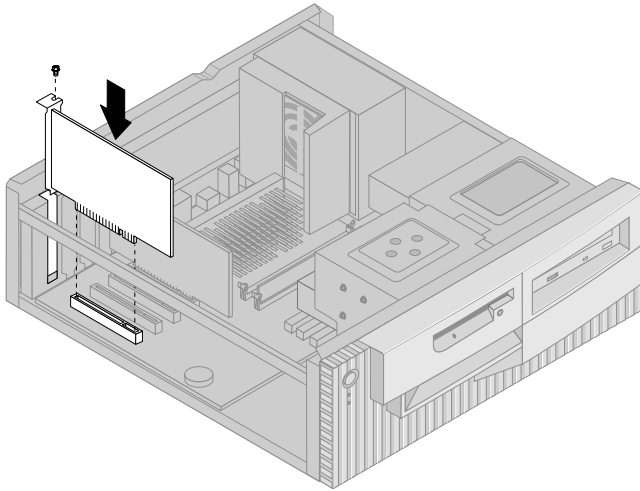
始める前に:

- ixページの『安全上に正しくお使いいただくために』および 5-3ページの『静電気に敏感な装置』をお読みください。
- 新しいアダプターに付属のマニュアルをお読みください。
- コンピューターとすべての接続装置の電源を切ってください。
- コンピューターに接続されているすべてのケーブルを切り離し、コンピューター・カバーを取り外してください (5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』を参照してください)。

アダプターの取り付け手順

1. 該当する拡張スロットのねじとスロット・カバーを外します。
2. アダプターを静電気防止パッケージから取り出します。

3. アダプターをシステム・ボード上の該当するスロットに取り付けます。



4. アダプターを固定するねじを取り付けます。

注: Wake on LAN 対応のネットワーク・アダプターを取り付ける場合は、アダプターに付属の Wake on LAN ケーブルをシステム・ボード上の Wake on LAN コネクタに接続します。(このことはすべてのコンピューターで必要となるとは限りません。) Alert on LAN 機能も利用する場合は、ネットワーク・アダプターを PCI スロット 3 に取り付ける必要があります。PCI スロット 3 および Wake on LAN コネクタの位置については、コンピューターの内側にあるシステム・ボード図を参照してください。

5. カバーを元のように取り付け、5-42ページの『プラグ・アンド・プレイ・アダプターの構成』に進みます。

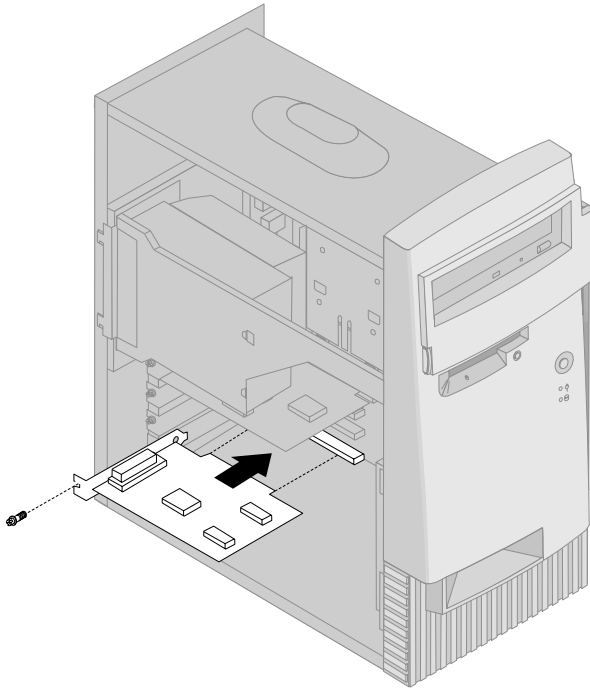
アダプターの取り付け - タワー・モデル

始める前に:

- ixページの『安全上に正しくお使いいただくために』および 5-3ページの『静電気に敏感な装置』をお読みください。
- 新しいアダプターに付属のマニュアルをお読みください。
- コンピューターとすべての接続装置の電源を切ってください。
- コンピューターに接続されているすべてのケーブルを切り離し、コンピューター・カバーを取り外してください (5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』を参照してください)。

アダプターの取り付け手順

1. 必要な場合は、電源機構を横に移動します。5-13ページの『電源機構の移動 - タワー・モデル』を参照してください。
2. 該当する拡張スロットのねじとスロット・カバーを外します。
3. アダプターを静電気防止パッケージから取り出します。
4. アダプターをシステム・ボード上の該当するスロットに取り付けます。
5. アダプターを固定するねじを取り付けます。



注: Wake on LAN 対応のネットワーク・アダプターを取り付ける場合は、アダプターに付属の Wake on LAN ケーブルをシステム・ボード上の Wake on LAN コネクタに接続します。(このことはすべてのコンピューターで必要となるとは限りません。) Alert on LAN 機能も利用する場合は、ネットワーク・アダプターを PCI スロット 3 に取り付ける必要があります。PCI スロット 3 および Wake on LAN コネクタの位置については、コンピューターの内側にあるシステム・ボード図を参照してください。

6. 電源機構を横に移動した場合は、元に戻します。5-13ページの『電源機構の移動 - タワー・モデル』を参照してください。
7. カバーを元のように取り付け、5-42ページの『プラグ・アンド・プレイ・アダプターの構成』に進みます。

次に行うこと:

- 別のオプションの作業を行う場合は、該当するセクションに進んでください。

- 導入を完了する場合は、5-40ページの『導入の終了』に進んでください。

内蔵ドライブの作業

この節では、内蔵ドライブの取り付けに関する情報と手順について説明します。

内蔵ドライブを取り付ける場合、各ベイに取り付けることができるドライブのタイプとサイズを確認することが重要です。また、内蔵ドライブ・ケーブルを導入したドライブに正しく接続することも重要です。

内蔵ドライブ

内蔵ドライブは、コンピューターがデータの読み取りおよび保管のために使用するドライブです。記憶容量を増やしたり、コンピューターが他のタイプのメディアを読み取れるようにするために、コンピューターにドライブを増設することができます。本製品で使用可能なドライブの種類には、次のものが含まれます。

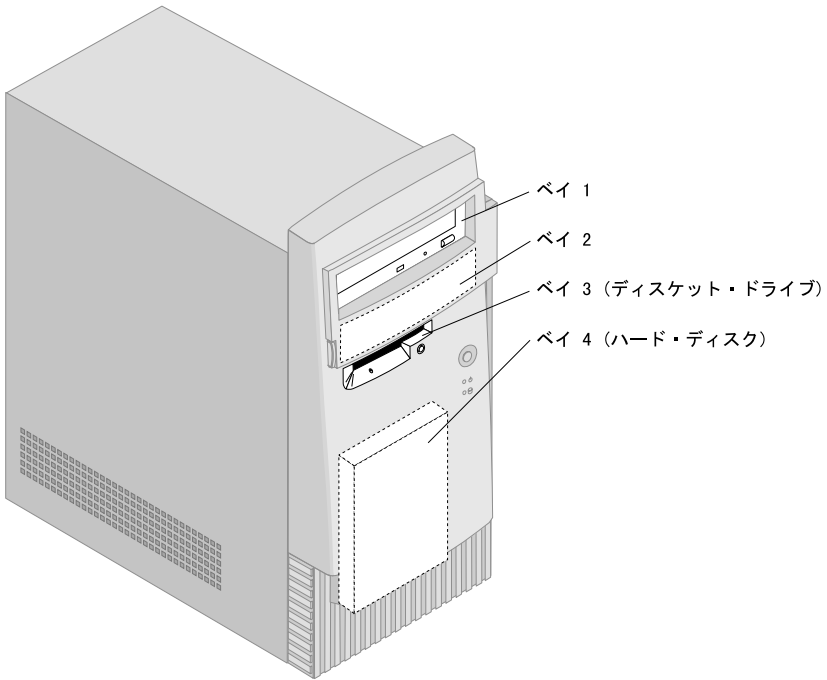
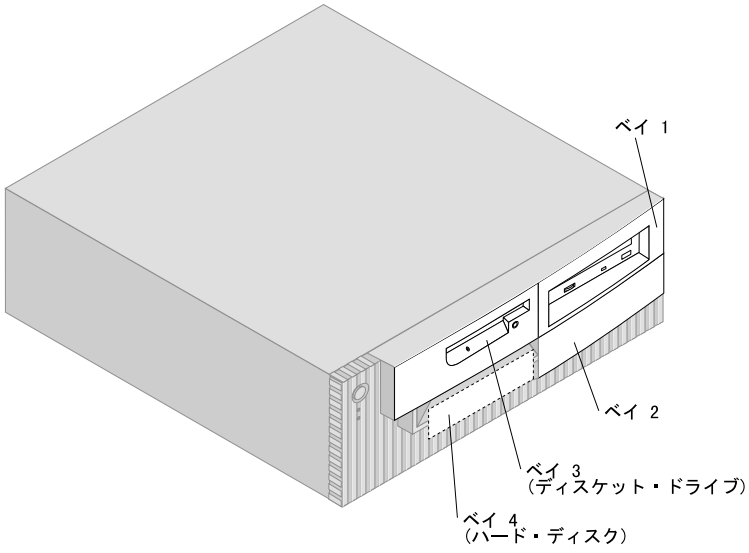
- ハード・ディスク
- 磁気テープ・ドライブ
- CD-ROM ドライブ
- リムーバブル・メディア・ドライブ

内蔵ドライブはベイに取り付けます。本書では、ベイをベイ 1、ベイ 2、ベイ 3、およびベイ 4 というように表しています。

ご購入のコンピューターには、以下のドライブが標準装備されています。

- ベイ 1 に CD-ROM ドライブ (一部のモデル)
- ベイ 3 に 3.5 インチ・ディスケット・ドライブ
- ベイ 4 に 3.5 インチ・ハード・ディスク・ドライブ

ベイ 1 と 2 にドライブが取り付けられていないモデルの場合は、静電気防止シールドとベイ・パネルが取り付けられています。



ドライブの仕様

下の表は、各ベイに取り付けることができるドライブの例と、それぞれの高さの要件を示しています。

ベイ 1

- 最大高さ: 41.3 mm
- CD-ROM ドライブ (一部モデルでは標準装備)
- 3.5 インチまたは 5.25 インチ・ハード・ディスク (3.5 インチ・ハード・ディスクは取り付け金具が必要)

ベイ 2

- 最大高さ: 41.3 mm
- 3.5 インチまたは 5.25 インチ・ハード・ディスク (3.5 インチ・ハード・ディスクは取り付け金具が必要)

ベイ 3

- 最大高さ: 25.4 mm
- 3.5 インチ・ディスケット・ドライブ (標準装備)

ベイ 4

- 最大高さ: 25.4 mm
- 3.5 インチ・ハード・ディスク (標準装備)

注:

1. 高さが 41.3 mm (1.6 in.) を超えるドライブは取り付けることができません。
2. リムーバブル・メディア (テープまたは CD) ドライブは、ベイ 1 および 2 のみに取り付けてください。

内蔵ドライブの電源ケーブルと信号ケーブル

ケーブルを使用して、IDE ドライブを電源機構およびシステム・ボードに接続します。以下のケーブルが提供されます。

- 4 線の電源ケーブルは、ほとんどのドライブを電源機構に接続するのに使用します。これらのケーブルの両端には、各種のドライブに接続するためのプラスチック製のコネクタが付いています。コネクタのサイズはさまざまです。また、システム・ボードに接続する電源ケーブルもあります。
- フラット 信号ケーブルは、リボン・ケーブルとも呼ばれ、IDE および ディスケット・ドライブをシステム・ボードに接続します。本製品には、2 種類のサイズのリボン・ケーブルが付属しています。
 - 幅の広い信号ケーブルには、2 つまたは 3 つのコネクタが付いています。
 - 3 つのコネクタが付いているケーブルの場合、コネクタの 1 つはドライブに接続し、1 つは予備であり、3 番目はシステム・ボード上の 2 次 IDE コネクタに接続します。
 - 2 つのコネクタが付いているケーブルの場合、コネクタの 1 つはハード・ディスク・ドライブに接続し、もう 1 つはシステム・ボード上の 1 次 IDE コネクタに接続します。

注: 他の装置を追加したい場合で、ご使用のコンピューターに CD-ROM ドライブが標準装備されていないときは、コネクタが 3 つ装備された信号ケーブルがもう 1 つ必要となります。既存の信号ケーブルを交換、あるいは 2 台目のハード・ディスクを追加する場合には、80-conductor ATA 66 信号ケーブルが必要となります。ATA 66 信号ケーブルのコネクタは色分けされています。青色のコネクタはシステム・ボードに接続され、黒色のコネクタは 1 次装置 (マスター装置とも呼ばれる) に接続され、灰色の真ん中のコネクタは 2 次装置 (スレーブ装置とも呼ばれる) に接続されます。

CD-ROM ドライブが標準装備されている場合は、ATA 66 信号ケーブルが装備されています。しかしハード・ディスクを取り付ける場合は、CD-ROM ドライブ上のジャ

ジャンパー設定をスレーブ装置に変更し、CD-ROM ドライブに使用されているコネクタを灰色の真ん中のコネクタに変更する必要があります。

- 幅の狭い信号ケーブルには、2つのコネクタが付いており、ディスクレット・ドライブをシステム・ボード上のディスクレット・ドライブ・コネクタに接続するのに使用します。

注: システム・ボード上のコネクタの位置は、5-17ページの『システム・ボードの部品の識別』を参照してください。

電源ケーブルおよび信号ケーブルを内蔵ドライブに接続するときに注意する必要があるいくつかの重要な事柄を以下に示します。

- 標準装備のドライブは、電源ケーブルと信号ケーブルが取り付けられた状態で出荷されます。ドライブを交換する場合は、どのケーブルがどのドライブに接続されていたかを覚えておくことが重要です。
- ドライブを取り付ける場合、信号ケーブルの端のコネクタが常にドライブに接続されていることを確認してください。また、他方の端のコネクタがシステム・ボードに接続されていることも確認してください。これによって、コンピューターからのノイズを減らすことができます。
- 1本のケーブルで2つのIDE装置が使用されている場合、一方を1次またはマスター装置として指定し、他方を2次またはスレーブ装置として指定する必要があります。そうしないと、一部のIDE装置がシステムによって認知されないことがあります。1次または2次の指定は、各IDE装置のスイッチまたはジャンパーの設定で決めます。
- 1本のケーブルに、1台のハード・ディスクとそれ以外のIDEドライブ(たとえば、CD-ROMドライブ)を接続する場合は、ハード・ディスクをマスター装置として指定しなければなりません。
- ケーブル上に1つのIDE装置しかない場合、その装置はマスターとして設定しなければなりません。

ご使用のコンピューターに使用するドライブ、ケーブル、およびその他のオプションを選択する際は、お買い求めの販売店、あるいは弊社営業担当員にご相談ください。

内蔵ドライブの取り付け - デスクトップ・モデル

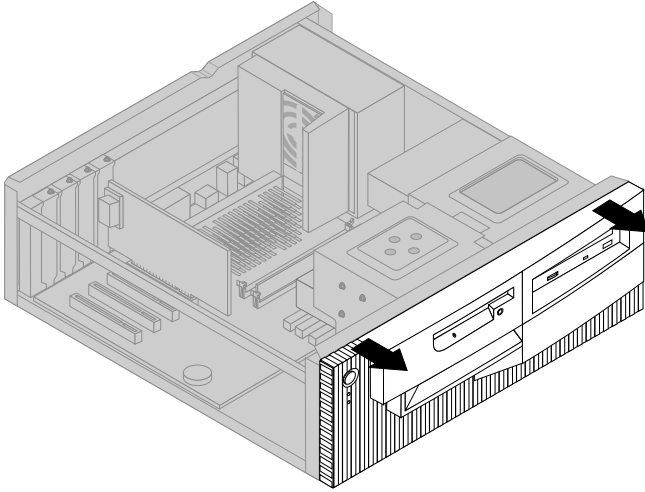
始める前に:

- ixページの『安全上に正しくお使いいただくために』および 5-3ページの『静電気に敏感な装置』をお読みください。
- コンピューターとすべての接続装置の電源を切ってください。
- すべての外部ケーブルおよび電源コードを切り離し、コンピューター・カバーを取り外してください (5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』を参照してください)。

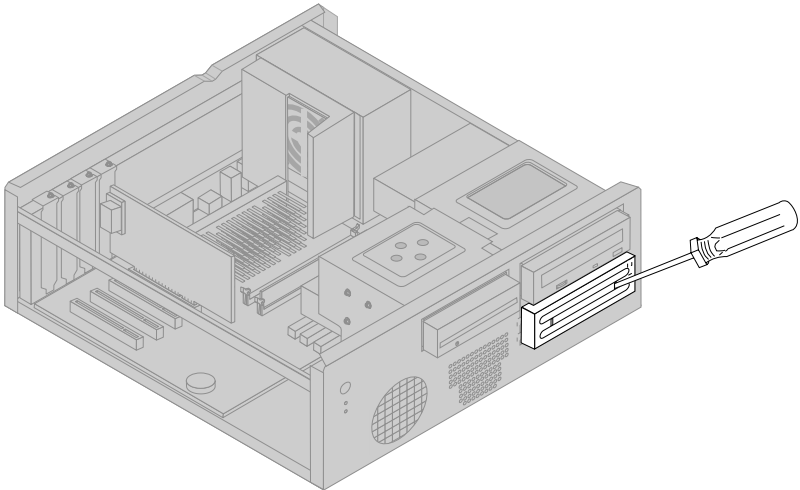
内蔵ドライブの取り付け手順は次のとおりです。

1. 5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』を参照してカバーを取り外します。
2. 5-8ページの『電源機構の移動 - デスクトップ・モデル』を参照して電源機構を移動します。

3. 指を使ってフロント・ベゼル内側のタブを解放し、シャーシからフロント・ベゼルを外します。

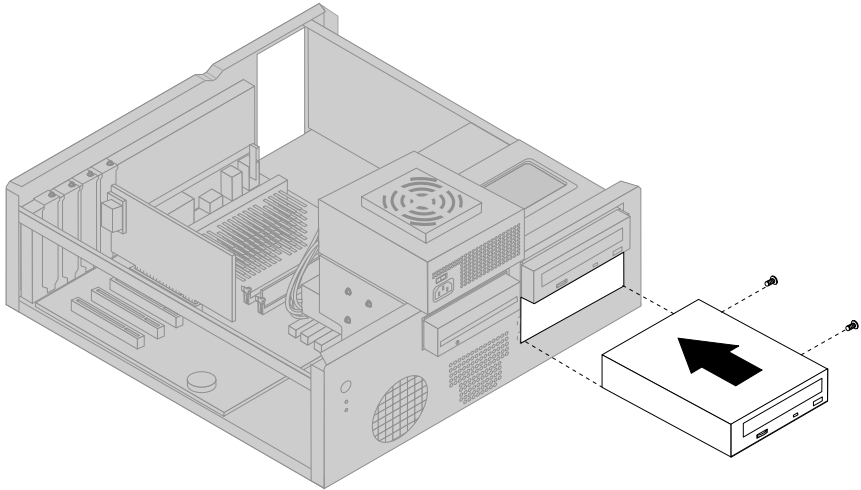


4. ドライブを取り付けるドライブ・ベイにある静電気保護シールド上のスロットの1つにマイナス・ドライバーを差し込み、静電気保護シールドを静かにドライブ・ベイから引き外します。



注: 3.5 インチ・ドライブをドライブ・ベイ 2 (5.25 インチ・ベイ) に取り付けるには、別途変換用キット (取り付け金具) が必要です。キットの購入に関しては、お買い求めの販売店または弊社営業担当員にお問い合わせください。

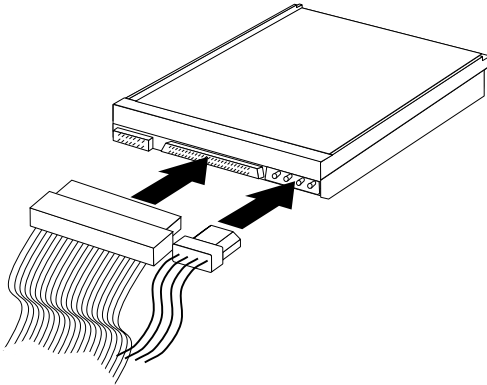
5. ドライブをベイに取り付けます。ねじ穴を合わせて、2 つのねじを差し込みます。



6. フロント・ベゼル上のタブをシャシーのスロットに合わせ、ベゼルを所定位置にはめ込んで元どおりに取り付けます。

取り付けたドライブがリムーバブル・メディア・ドライブの場合には、フロント・ベゼルからベイ・パネルを外し、コンピューターに付属のベゼル・フレームをドライブ・ベイにかぶせます。

7. 電源ケーブルと信号ケーブルをドライブに接続します。



8. 5-8ページの『電源機構の移動 - デスクトップ・モデル』の各ステップを逆に実施して電源機構を再び取り付けます。

次に行うこと:

- 別のオプションの作業を行う場合は、該当するセクションに進んでください。
- 導入を完了する場合は、5-40ページの『導入の終了』に進んでください。

内蔵ドライブの取り付け - タワー・モデル

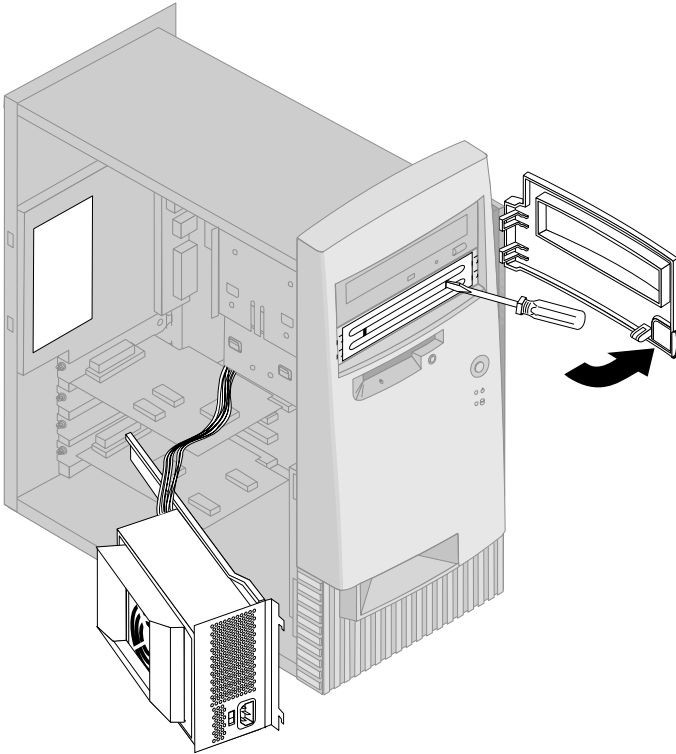
始める前に:

- ixページの『安全上に正しくお使いいただくために』および 5-3ページの『静電気に敏感な装置』をお読みください。
- コンピューターとすべての接続装置の電源を切ってください。
- すべての外部ケーブルおよび電源コードを切り離し、コンピューター・カバーを取り外してください (5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』を参照してください)。

内蔵ドライブの取り付け手順は次のとおりです。

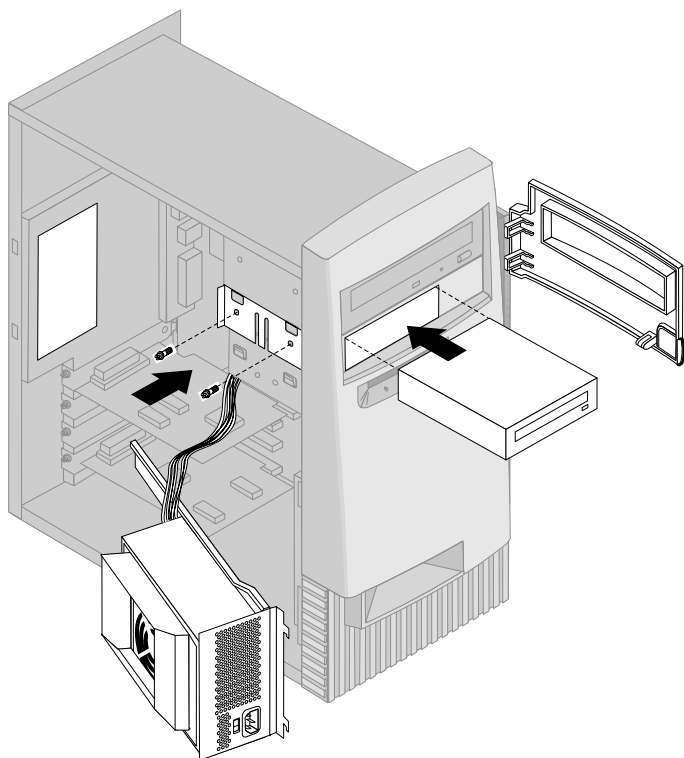
1. ベイ 1 およびベイ 2 の前にあるスウィング・ドアを開きます。
2. ドライブを取り付けるベイから、ベイ・パネルを外します。

3. 静電気保護シールドのスロットの 1 つにマイナス・ドライバーを挿し込み、ドライブ・ベイから静電気保護シールドを引き出します。



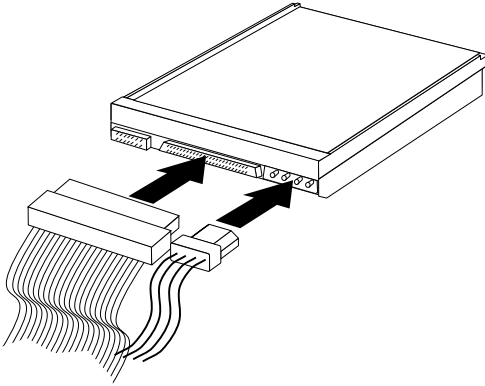
注: 3.5 インチ・ドライブをドライブ・ベイ 2 (5.25 インチ・ベイ) に取り付けるには、別途変換用キット (取り付け金具) が必要です。キットの購入に関しては、お買い求めの販売店または弊社営業担当員にお問い合わせください。

4. ドライブをベイに取り付けます。ねじ穴を合わせて、2つのねじを差し込みます。



5. 取り付けるドライブがフロント・アクセスしないドライブ (ハード・ディスク・ドライブなど) である場合は、ベイ・パネルを再取り付けします。

6. 電源ケーブルと信号ケーブルをドライブに接続します。



7. 5-13ページの『電源機構の移動 - タワー・モデル』の各ステップを逆
に実施して電源機構を再び取り付けます。

次に行うこと:

- 別のオプションの作業を行う場合は、該当するセクションに進んでください。
- 導入を完了する場合は、5-40ページの『導入の終了』に進んでください。

導入の終了

オプションの作業が終了した後で、取り外した部品を取り付け、カバーを元に戻し、ケーブル（電源ケーブルおよび電話線を含む）を再接続することが必要です。また、導入したオプションに応じて、装置構成ユーティリティの情報を更新することが必要になる場合もあります。

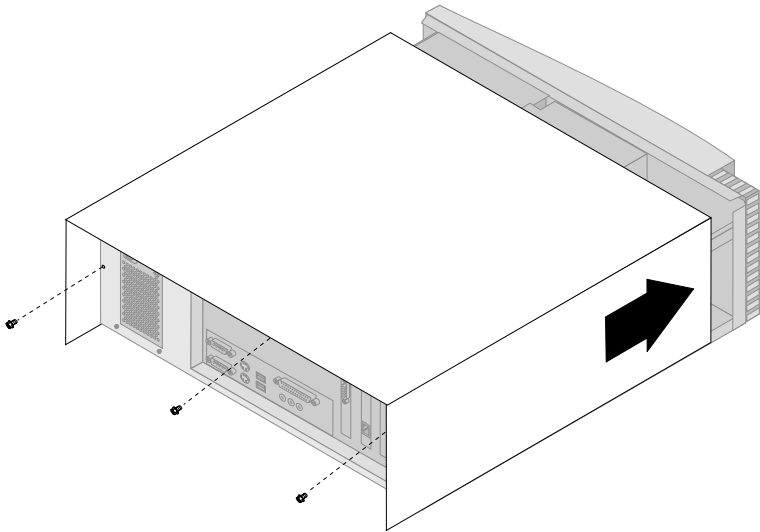
これらの手順について、以下のセクションで説明します。

- 『カバーの再取り付けとケーブルの接続』
- 5-42ページの『コンピューター構成の更新』

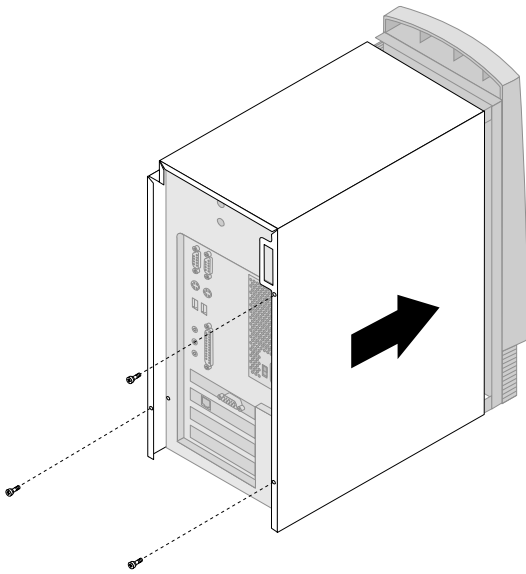
カバーの再取り付けとケーブルの接続

カバーを元に戻し、ケーブルをコンピューターに接続するには、次の手順で行います。

1. すべての構成要素が正しく再組み立てされており、コンピューターの内部に道具や緩んだねじが残されていないことを確認します。
2. カバーを再取り付けするのに邪魔になるケーブルをよけます。
3. 図に示されているようにカバーをシャーシの上に置き、前方にスライドさせます。カバーを正しくそろえるためには、カバー前部を少し持ち上げなければならない場合もあります。
4. カバーとシャーシの穴につまみねじを 3 本挿入して締めます。
5. コンピューターにカバー・ロックが付いている場合は、キーを使ってそれをロックします。
6. 外部ケーブルおよびコードをコンピューターに再接続します。2-5ページの『デスクトップ・モデルの接続』または 2-6ページの『タワー・モデルの接続』を参照してください。



デスクトップ



タワー

コンピューター構成の更新

重要:

この節の構成情報は、オプションを導入した場合に参照してください。
装置構成ユーティリティの使用法については、4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。

構成の設定値を更新した後で、デバイス・ドライバーを導入することが必要になる場合があります。詳細については、オプションに付属のマニュアルを参照し、デバイス・ドライバーが必要かどうか、およびそのインストール方法を調べてください。一部のデバイス・ドライバーは、本製品に付属の Software Selections CD に含まれています。

オプションを追加、除去、または交換した後は、構成設定値を更新する必要があります。ほとんどの場合、この構成はシステム・プログラムによって自動的に実行されます。設定が自動的に更新されない場合は、装置構成ユーティリティを使用して該当する設定値を再構成することができます。いずれの場合でも、設定値を保管してから装置構成ユーティリティを終了する必要があります。

注: リソースの競合のために出されるエラー・メッセージについては、6-1ページの第6章、『トラブルシューティング』を参照してください。

プラグ・アンド・プレイ・アダプターの構成

アダプターに付属のマニュアルとともに、以下の情報をアダプターの構成に役立ててください。

プラグ・アンド・プレイ というのは、コンピューターを使いやすいものにするための構成の手法です。ご使用のコンピューターのシステム・ボードは、プラグ・アンド・プレイ・テクノロジーを使用しているオペレーティング・システムをサポートしています。

プラグ・アンド・プレイ・アダプターには、設定を必要とするスイッチやジャンパーはありません。プラグ・アンド・プレイ・アダプターは、オペレーティング・システム内に構成仕様が設定済みになっています。これらの仕様は、コンピューターの始動時にコンピューターに導入情報を提供します。プラグ・アンド・プレイ・アダプターを取り付けたり、取り外したりした場

合、プラグ・アンド・プレイ・テクノロジーをサポートする基本入出力システム (BIOS)によって、この情報が解釈されます。必要なリソースが利用可能な場合、BIOS は他の装置によって使用されていないリソースを使用して、アダプターを自動的に構成します。

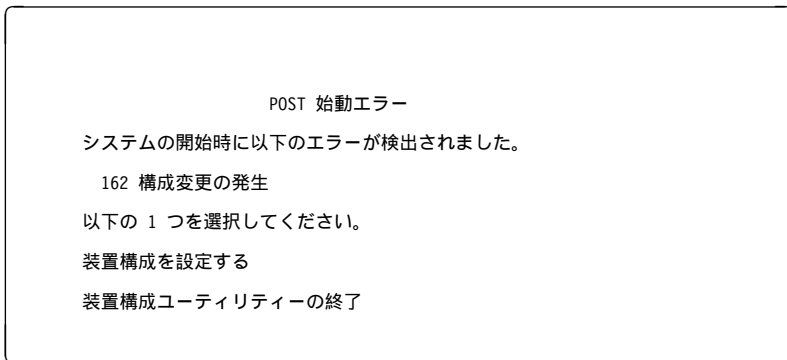
PCI スロット用に設計されたアダプターは、プラグ・アンド・プレイ装置です。

注: リソースの競合が原因で出されるエラー・メッセージについては、6-1 ページの第6章、『トラブルシューティング』を参照してください。

装置構成ユーティリティの開始

たいていのオプションでは、オプションの作業を行った後、初めてコンピューターを再始動すると、構成が変更されたことを示すメッセージが表示されます。このようなメッセージが表示された場合、プロンプトが出て、装置構成ユーティリティに入って手動で構成設定値を更新するように指示されるか、あるいはシステム・プログラムが自動的に更新した設定値を確認し、保存するように指示されます。

オプションを変更し、コンピューターを再始動すると、次のような画面が表示されます。



注: 行った構成変更によって、表示されるエラー・メッセージは、これとは異なる場合があります。上のような画面が表示された場合は、装置構成ユーティリティ・メニューに達するまで「装置構成を設定する」を押

します (4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください)。

上のような画面が表示されない場合は、装置構成ユーティリティーを使用してコンピューターを構成します。詳しくは、4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。

始動装置の構成

コンピューターの電源を入れると、コンピューターはオペレーティング・システムを探します。オペレーティング・システムが装置を探索する順序を、始動順序と言います。新しい装置をコンピューターに追加した後で、始動順序を変更したい場合があります。始動装置の構成は、装置構成ユーティリティーを使用して行うことができます。4-17ページの『始動順序の設定』を参照してください。

第6章 トラブルシューティング

本章では、コンピューターの使用時に生じる問題の識別および訂正に使うことのできる診断ツールについて説明します。この章には、オプション・ディスクセットに関する情報や、BIOS 更新障害から回復する方法も示してあります。

注

電源スイッチを押してもコンピューターが始動しない場合は、以下のよう to してください。

- コンピューターとモニターが正常なコンセントに接続されているかどうか確認します。
- すべてのケーブルが正しい位置に確実に接続されているかどうか確認します。

それでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。

コンピューターの問題は、ハードウェア、ソフトウェア、またはユーザーの操作ミス（たとえば、間違ったキーを押すなど）が原因で起こります。この章で説明する診断補助機能を使用すると、このような問題をユーザー自身で解決したり、サービス技術員に提供するための役立つ情報を集めるのに役立ちます。

ハードウェアは、この章の手順に従って検査することができます。また、本製品に付属の診断プログラムを利用することもできます（診断プログラムについての説明は、6-32ページの『診断プログラム』を参照してください）。

ハードウェアの検査に問題がなく、操作ミスもない場合には、ソフトウェアに問題がある可能性があります。ソフトウェアに問題があると考えられる場合で、ご使用のコンピューターにソフトウェアが初期導入済みの場合には、IBM によって提供されている診断プログラムの実行方法について6-32ページの『診断プログラム』を参照してください。またコンピューターに付属のオペレーティング・システムに関する資料も参照してください。ご自身でソフトウェア・アプリケーションを導入した場合は、そのソフトウェアのマニュアルを参照してください。

以下のツールは、ハードウェア関連の問題を診断するのに使用できます。

- 自己診断テスト (POST)
- トラブルシューティングの手順
- エラー・コードおよびメッセージ
- 問題判別一覧表
- 診断プログラム

この章の内容

自己診断テスト (POST)	6-3
トラブルシューティングの手順	6-4
エラー・コードとメッセージ	6-8
POST エラー	6-8
POST ビープ・コード	6-15
装置の問題判別一覧表	6-17
ディスクет・ドライブの問題	6-19
モニターの問題	6-20
一般的な問題	6-23
断続的な問題	6-24
キーボード、マウス、またはポインティング装置の問題	6-25
メモリーの問題	6-26
オプションの問題	6-27
パラレル・ポートの問題	6-28
シリアル・ポートの問題	6-29
プリンターの問題	6-30
ソフトウェアの問題	6-31
汎用シリアル・バス・ポートの問題	6-31
診断プログラム	6-32
POST/BIOS 更新障害からの回復	6-34
オプション・ディスクетからのファイルのインストール方法	6-34
電池を交換する	6-34

自己診断テスト (POST)

本製品は、電源を入れるたびに、本体の基本動作を検査するための一連のテストを実行します。この一連のテストを自己診断テスト (POST) と呼んでいます。

POST では、次の検査を行います。

- システム・ボードの基本動作をチェックする。
- メモリーの動作を検査する。
- 現行のシステム構成と、装置構成ユーティリティによって設定された構成を比較する。
- ビデオの初期化をする。
- ディスケット・ドライブが作動していることを確認する。
- ハード・ディスク・ドライブおよび CD-ROM ドライブが作動していることを確認する。

「自己診断テスト」が [拡張] に設定されている場合、システムの合計メモリー・サイズに達するまで、テストされているメモリーのサイズが画面の左上隅に表示されます。高速 POST を実行するため、または装置構成ユーティリティにアクセスするためのオプションが、画面の左下隅に表示されます。高速モードが、デフォルトのモードです。

注： 基本入出力システム (BIOS) がランダム・アクセス・メモリー (RAM) の一部を使用するため、表示される使用可能なメモリー容量は実際よりもやや少なくなります。

POST が何も問題を検出せず終了すると、始動パスワードを設定していない場合は、オペレーティング・システムまたはアプリケーション・プログラムの最初の画面が表示されます。始動パスワードを設定してある場合は、パスワード・プロンプトが表示されます。パスワードを入力しないと、オペレーティング・システムまたはアプリケーション・プログラムの最初の画面は表示されません。(パスワードの使用法についての詳しい説明は、4-7ページの『始動パスワードの使用法』を参照してください。)

「パワーオン時のステータス」が「表示する」に設定されていて、POST が問題を検出しなかった場合には、ピープ音が複数回鳴るか、または 1 回鳴ります。POST が問題を検出した場合は、ピープ音が複数回鳴るか、またはまったく鳴りません。ほとんどの場合、エラー・コードが画面の左上隅に表示

され、場合によってはエラーの説明がコードの横に表示されます。(複数のエラー・コードと説明が画面に表示されることもあるので注意してください。) エラー・メッセージの原因とその処置についての詳細は、6-8ページの『POST エラー』および『トラブルシューティングの手順』を参照してください。

POST の全体を通してピープ音をまったく聞かなかった場合は、6-17ページの『装置の問題判別一覧表』を参照してください。本体を修理することが必要になることがあります。

POST エラー・メッセージは、始動時にハードウェアに関する問題またはその変更を POST が検出したときに表示されます。POST エラー・メッセージは、3、4、5、8、または 12桁の英数字からなるメッセージで、簡単な説明も入っています(ただし、I999XXXX エラーは例外です)。

トラブルシューティングの手順

この手順は、問題判別を開始する際に使用してください。

001

- コンピューターの電源を切り、数秒待ちます。
- コンピューター、モニター、およびその他すべての接続装置の電源を入れます。
- アプリケーションまたはオペレーティング・システムの最初の画面が表示されるまで通常どおり待ちます。

アプリケーションまたはオペレーティング・システムの最初の画面が表示されましたか。

Yes No

002

ステップ004 (6-5ページ)に進みます。

003

入出力装置に障害があるか、コンピューターに継続的な問題が存在します。(ステップ**003**に続く)

003 (続き)

6-32ページの『診断プログラム』に進み、Enhanced Diagnostics (診断プログラム) を実行します。

004

表示メッセージが判読不能またはエラー・メッセージが表示されるか、コンピューターがビープ音を連続して発している。

エラー・メッセージが表示されましたか？

Yes No

005

ビープ音が連続して発せられていますか？

Yes No

006

- モニターの電源がオンになっていること、また明るさとコントラストの調整が正しく行われているかどうか確認します。
- モニター信号ケーブルがモニターおよびグラフィックス・アダプター上のモニター・コネクタに確実に接続されているかどうか確認します。コンピューターのモニター・コネクタの位置については、2-5ページの『デスクトップ・モデルの接続』または2-6ページの『タワー・モデルの接続』を参照してください。

それでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。

007

6-15ページの『POST ビープ・コード』に進みます。

008

- 6-8ページの『POST エラー』を参照してエラー・メッセージを見つけ、その後ここに戻ってきてください。

(ステップ008に続く)

008 (続き)

エラー・メッセージがこの表の中にありますか？

Yes No

009

SCSI エラー・メッセージが表示される場合があります。SCSI に関する資料を参照してください。

– or –

アプリケーション・メッセージが表示される場合があります。アプリケーション・プログラムに関する資料を参照してください。

010

エラー・メッセージが表示された後に、装置構成ユーティリティーが自動的に開始されましたか？

Yes No

011

– 6-8ページの『POST エラー』に記載されているこのエラー・メッセージに関する処置を行ってください。

012

最近ハードウェアの追加、取り外し、または変更を行いましたか？

Yes No

013

本体の修理を依頼してください。

014

– 装置構成ユーティリティー・メニューにアクセスしたい場合は、「POST 始動エラー」画面で「装置構成を設定する」を選択します。装置構成ユーティリティーを終了したい場合は「装置構成を設定しない」を選択します。

項目を選択するには、上矢印 () または下矢印 () を押して項

目を強調表示してから **Enter** を押します。装置構成を設定するを選択すると、画面に装置構成ユーティリティ・メニューが表示されます。前回に本体の電源を入れた以降に変更されたメニュー項目があれば、その横にポインターが置かれています。フラグが付いているメニュー項目を意図的に変更した覚えがない場合は、その項目には誤動作があるものと思われま
す。変更した場合は、このステップを続けてください。変更を行っていない場合は、コンピューターの保守を依頼してください。

装置構成ユーティリティを使用するには、以下のようにします。

1. 上矢印 () または下矢印 () を使用して、フラグが付いている (または、ユーザーが表示したい) メニュー項目を選択し、**Enter** を押します。
2. その項目に特有の新しいメニューが表示されます。メニュー項目の選択を切り替えるときは、左矢印 () または右矢印 () を押します。(各メニュー項目にはヘルプ画面があります。ヘルプ画面を表示するには、そのメニュー項目を選択して **F1** を押します。)
3. 設定値の表示および変更が終了したら、**Esc** を押して、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
4. プログラムを終了する前に、「設定を保存する」を選択します。装置構成ユーティリティ・メニューを終了すると、オペレーティング・システムが自動的に始動します (ただし、始動装置に未解決の問題がない場合)。

重要

装置構成ユーティリティにおいて何も設定値を変更しなかった場合でも、装置構成ユーティリティ・メニューを終了する前に「設定を保存する」を選択する必要があります。

「設定を保存する」を選択せずに装置構成ユーティリティを終了した場合は、オペレーティング・システムが自動的に始動しない場合があります。

「設定を保存する」を選択してから装置構成ユーティリティ・メニューを終了した場合で、オペレーティング・システムが始動しない場合は、始動装置に未解決の問題がある可能性があります。

(ステップ014に続く)

014 (続き)

5. 装置構成ユーティリティを終了するために、**[Esc]** を押して、画面の指示に従ってください。

エラー・メッセージの原因とその処置についての詳細は、POST エラー・リストを参照してください。

エラー・コードとメッセージ

エラー・コードおよびメッセージは、診断テスト・プログラムの 1 つによってハードウェア問題が検出された場合、あるいは POST が問題を検出した場合に表示されます。メッセージが表示するテキスト情報を、エラー・コードと合わせて使用すると、障害のある部分を識別することができます。

POST エラー

本製品では、複数のエラー・メッセージが表示される場合があります。最初に発生したエラーが、後続のエラーの原因になっていることがよくあります。以下の POST メッセージ一覧表を使用する際には、必ず画面に表示された最初のエラー・メッセージに対する処置を取ることから始めてください。下表の "X" には英数字が入ります。

コード	説明	処置
101	割り込み障害	本体の修理を依頼してください。
102	タイマーの障害	本体の修理を依頼してください。
106	システム・ボードの障害	本体の修理を依頼してください。
114	外部 ROM チェックサム・エラー	<ol style="list-style-type: none"> アダプター・カードを取り付けている場合は、カードを取り外してコンピューターを再始動してください。 コンピューターの保守を依頼するか、アダプター・カードを交換してください。

コード	説明	処置
129	レベル 1 キャッシュ・エラー	本体の修理を依頼してください。
131	POST は、システム・ボード電圧の範囲超過を検出しました。	本体の修理を依頼してください。
135	マイクロプロセッサ・ファンの障害	本体の修理を依頼してください。
151	リアルタイム・クロックの障害	本体の修理を依頼してください。
161	CMOS 電池の障害	電池を交換してください。6-34 ページの『電池を交換する』を参照してください。
162	装置構成が変更されました。	<ol style="list-style-type: none"> 1. すべての外付け装置の電源が入っていることを確認してください。 2. 装置がすべて正しく導入されており、しっかり接続されていることを確認してください。 3. 装置を追加、取り外し、または位置の変更を行った場合は、新しい構成を装置構成ユーティリティに保管する必要があります。詳細については、5-43 ページの『装置構成ユーティリティの開始』および 4-1 ページの第 4 章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。
163	日付と時間の誤り	<ol style="list-style-type: none"> 1. 装置構成ユーティリティで日付と時間をリセットします。 2. これでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。

コード	説明	処置
164	CMOS RAM メモリーのサイズが一致しません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6-26ページの『メモリーの問題』を参照してください。 2. これでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。
166	ブート・ブロック・チェックサム・エラー	本体の修理を依頼してください。
167	プロセッサ BIOS が更新されていません。	BIOS を更新します。3-20ページの『システム・プログラムの更新』を参照してください。
168	Alert on LAN が正しく機能していません。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティの使用法』に進み、指示に従って Alert on LAN が使用可能になっているかどうか確認します。 2. Alert on LAN が使用可能になっていて、依然としてこのエラー・コードが表示される場合は、コンピューターの保守を依頼してください。
175	システム・ボードのエラー	本体の修理を依頼してください。
176	システム・カバーが取り外されました。	管理者パスワードを入力します。これでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。
183	管理者パスワードが必要です。	管理者パスワードを入力します。
184	アセット・コントロール・アンテナが検出されませんでした。	本体の修理を依頼してください。
186	システム・ボードまたはハードウェアのセキュリティ・エラー	本体の修理を依頼してください。

コード	説明	処置
187	管理者パスワードおよび始動順序がクリアされました。	4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティの使用法』に進み、指示に従って管理者パスワードと始動順序を設定してください。
190	コンピューターのトップカバー取外し検出機能がクリアされました。これは情報メッセージです。	処置は必要ありません。
20x	メモリー・エラー	<ol style="list-style-type: none"> 6-26ページの『メモリーの問題』を参照してください。 それでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。
301 または 303	キーボード・エラー	<ol style="list-style-type: none"> キーボードが正しく接続されているかどうか確認します。 キーボードのキーが引っ掛かっていないか確認します。 キーボードが正しく接続されている場合は、コンピューターの保守を依頼してください。
604	サポートされていないディスクレット・ドライブが取り付けられました。	<ol style="list-style-type: none"> 6-32ページの『診断プログラム』に進み、指示に従って診断プログラムを実行してください。 それでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。
605	ディスケットのロック解除問題	本体の修理を依頼してください。

コード	説明	処置
662	ディスクレット・ドライブの構成エラー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 装置構成ユーティリティに進み、ディスクレット・ドライブが使用可能になっていることを確認します。 2. ディスクレット・ドライブ・ケーブルを調べ、正しく取り付けられていること、また確実に接続されていることを確認します。 3. ディスクレット・ドライブについて診断プログラムを実行します。6-32ページの『診断プログラム』を参照してください。 4. これでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。
762	数値演算コプロセッサの構成エラー。	本体の修理を依頼してください。
962	パラレル構成エラー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6-29ページの『シリアル・ポートの問題』を参照してください。 2. 本体の修理を依頼してください。
11xx	シリアル・ポート・エラー (xx = シリアル・ポート番号)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 6-29ページの『シリアル・ポートの問題』を参照してください。 2. 本体の修理を依頼してください。

コード	説明	処置
1762	ハード・ディスク構成エラー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 装置構成ユーティリティに進み、IDE ドライブが使用可能になっていることとハード・ディスク構成が正しいことを確認します。 2. ハード・ディスク・ケーブルを調べ、正しく取り付けられていること、また確実に接続されていることを確認します。 3. これでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。
178x	ハード・ディスクまたは IDE 装置の障害	<ol style="list-style-type: none"> 1. 装置構成ユーティリティに進み、IDE ドライブが使用可能になっていることとハード・ディスク構成が正しいことを確認します。 2. ハード・ディスク・ケーブルを調べ、正しく取り付けられていること、また確実に接続されていることを確認します。 3. これでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。
18xx	PCI アダプターが選択不可能なリソースを要求しました。	4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティの使用法』に進み、指示に従って PCI 装置を再構成してください。
1962	始動装置が検出されませんでした。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティの使用法』に進み、指示に従って始動装置が正しく構成されているどうか確認してください。 2. これでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。

コード	説明	処置
2400	ディスプレイ・アダプター障害; 代替品の使用	本体の修理を依頼してください。
2462	ビデオ構成エラー	<ol style="list-style-type: none"> 1. ビデオ・アダプターを追加または変更した場合は、装置構成ユーティリティーで新規構成をチェックし、それが正しいことを確認してください。 2. 本体の修理を依頼してください。
5962	IDE CD-ROM 構成エラー	<ol style="list-style-type: none"> 1. 装置構成ユーティリティーに進み、IDE ドライブが使用可能になっていることとハード・ディスク構成が正しいことを確認します。 2. CD-ROM ドライブ・ケーブルを調べ、正しく取り付けられていること、また確実に接続されていることを確認します。 3. 本体の修理を依頼してください。
860x	ポインティング・デバイスのエラー	<ol style="list-style-type: none"> 1. ポインティング・デバイスが正しく接続されているかどうか確認します。 2. これでも問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。
I9990301	ハード・ディスクの障害	本体の修理を依頼してください。

POST ビープ・コード

ビープ音が 1 回鳴ってモニターにテキストが表示されれば、POST が無事に終了したということです。ビープ音が 2 回以上鳴る場合は、POST がエラーを検知したことを示しています。

ビープ・コードは、ビープ音が 2 回または 3 回のセットとして鳴ります。各ビープ音の長さは一定ですが、ビープ音間のポーズの長さはさまざまです。たとえば、1-2-4 のビープ・コードの場合では、1 回ビープ音が鳴り、ポーズがあって、2 回続きのビープ音が鳴り、もう 1 回ポーズがあって、4 回続きのビープ音が鳴るといふ具合です。

ビープ音の構成を正しく理解できなければ、ビープ・コードを誤って解釈する可能性があります。POST ビープ・コードのビープ音の長さは一定で、ポーズの長さはさまざまに異なる点を念頭においておけば、ビープ音を区別しやすくなります。

次のビープ・コードに関しては、各数がビープ音のシーケンスと回数を表示しています。たとえば、“2-3-2” のエラー症状(ビープ音が 2 回、3 回、2 回の順で鳴る)は、メモリー・モジュールのトラブルを示しています。

以下のビープ・コードが発生した場合は、コンピューターの保守を依頼してください。

ビープコード	推定原因
1-1-3	CMOS 書き込み/読み取り障害
1-1-4	BIOS ROM チェックサム障害
1-2-1	プログラマブル・インターバル・タイマー・テスト障害
1-2-2	DMA 初期化障害
1-2-3	DMA ページ・レジスター書き込み/読み取り障害
1-2-4	RAM リフレッシュ検査障害
1-3-1	最初の 64 KB RAM テスト障害

ビープコード	推定原因
1-3-2	最初の 64 KB RAM パリティ・テスト障害
2-1-1	2 次 DMA レジスター・テスト進行中、または障害
2-1-2	1 次 DMA レジスター・テスト進行中、または障害
2-1-3	1 次割り込みマスク・レジスター・テスト障害
2-1-4	2 次割り込みマスク・レジスター・テスト障害
2-2-2	キーボード制御装置テスト障害
2-3-2	画面メモリー・テスト進行中、または障害
2-3-3	画面再トレース・テスト進行中、または障害
3-1-1	タイマー・チック割り込み障害
3-1-2	インターバル・タイマー・チャンネル 2 テスト障害
3-1-4	時刻機構テスト障害
3-2-4	CMOS メモリー・サイズと実サイズの比較
3-3-1	メモリー・サイズ・ミスマッチ発生

装置の問題判別一覧表

特定の症状の問題の解決策を見つけるためには、ここに示す問題判別一覧表をご利用ください。

重要

コンピューターのカバーを外す必要がある場合には、最初にixページの『安全上に正しくお使いいただくために』および5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』または5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』に記載されている、安全に関する重要な情報および指示をお読みください。

新しいソフトウェアまたは新しいコンピューター・オプションを追加したばかりで本製品が動作しない場合には、問題判別一覧表を参照する前に、次の操作を行ってください。

1. 追加したばかりのソフトウェアまたは装置を取り外す。
2. 診断プログラムを実行して、本製品が正しく動作しているか確認する。
(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、6-32ページの『診断プログラム』を参照してください。)
3. 新しいソフトウェアまたは新しい装置を取り付け直す。

以下の表は、問題判別表における問題のカテゴリーの位置をすばやく見つけるのに役立ちます。

問題のタイプ	参照箇所
ディスクетト・ドライブ	6-19ページの『ディスクетト・ドライブの問題』
一般的な問題	6-23ページの『一般的な問題』
断続的な問題	6-24ページの『断続的な問題』

問題のタイプ	参照箇所
キーボード、マウス、またはポインティング・デバイス	6-25ページの『キーボード、マウス、またはポインティング装置の問題』
メモリー	6-26ページの『メモリーの問題』
モニター	6-20ページの『モニターの問題』
オプション	6-27ページの『オプションの問題』
パラレル・ポート	6-28ページの『パラレル・ポートの問題』
プリンター	6-30ページの『プリンターの問題』
シリアル・ポート 1	6-29ページの『シリアル・ポートの問題』
シリアル・ポート 2	6-29ページの『シリアル・ポートの問題』
ソフトウェア	6-31ページの『ソフトウェアの問題』
汎用シリアル・バス・ポート	6-31ページの『汎用シリアル・バス・ポートの問題』

ディスク・ドライブの問題

ディスク・ドライブの問題	処置
<p>ディスク・ドライブの使用中ランプが点灯したままか、システムがディスク・ドライブを認識しない。</p>	<p>ドライブにディスクが挿入されている場合は、以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ディスク・ドライブが使用可能になっているか。この検査は、装置構成ユーティリティを使用して行います。詳しくは、4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。 2. 本体が始動中にディスク・ドライブを検査しているか。この検査は、装置構成ユーティリティを使用して行います。 3. 使用しているディスクが正しいもので、損傷がないか。別のディスクがあれば試しに挿入してみます。 4. ディスクがドライブに正しく（ラベルを上、金属シャッターが奥になるように）挿入されているか。 5. 本体の始動に必要なファイルがディスクに入っているか（ディスクは始動可能でなければなりません）。 6. ディスク・ドライブのケーブルが正しく取り付けられ、しっかり接続されているか。 7. 使用しているソフトウェア・プログラムに問題はないか（6-31ページの『ソフトウェアの問題』を参照してください）。 <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

モニターの問題

モニターの問題	処置
一般的なモニターの問題	<p>IBM モニターの中には、独自の自己テスト機能を備えているものがあります。モニターに問題があると考えられる場合、モニターに付属のマニュアルを参照して、調整およびテストの方法を調べてください。</p> <p>問題を見つけることができない場合は、この表の「モニターの問題」にリストされている他の項目をチェックしてください。</p> <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

モニターの問題	処置
画面イメージが読み取り不能、または画面イメージの横揺れ、ゆがみ、ぶれがある。	<p data-bbox="418 212 946 264">モニターの自己テストでモニターが正常に動作していると判断されたら、以下のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="429 289 952 1117" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="429 289 952 784">1. モニターの設置場所は適切か。変圧器や、電化製品、蛍光灯、他のモニターなど、他の装置周辺の磁界が問題を引き起こす場合があります。場所が問題の原因であるかどうかを調べるには、以下のようになります。 <ol data-bbox="472 451 952 784" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="472 451 952 537">a. モニターの電源を切ります。（カラー・モニターの電源を入れたまま移動すると、画面が変色することがあります。） <li data-bbox="472 557 952 735">b. モニターと他の装置との配置を調整して、少なくとも 305 mm 離します。また、モニターの配置を変える際には、ディスク・ドライブの読み取り/書き込みエラーを防ぐために、必ずモニターをディスク・ドライブから少なくとも 75 mm 離します。 <li data-bbox="472 755 952 784">c. モニターの電源を入れます。 <li data-bbox="429 808 952 954">2. IBM のモニター信号ケーブルがモニターと本体に正しく接続されており、ケーブルがしっかり取り付けられているか。IBM 以外のモニター信号ケーブルを使用すると、予測できない問題が起こることがあります。 <li data-bbox="429 979 952 1117">3. モニターがサポートしている速度より速いリフレッシュ・レートでモニターを動作させようとしていないか。サポートされているリフレッシュ・レートについては、モニターに付属のマニュアルを参照してください。 <p data-bbox="418 1141 946 1279">注： ご使用のモニター用に、シールドングを強化した高性能のモニター信号ケーブルが入手できる場合があります。詳細については、お買い求めの販売店または弊社営業担当員にお問い合わせください。</p> <p data-bbox="418 1304 946 1357">問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

モニターの問題	処置
画面がちらつく。	<p>本製品のモニターおよびビデオ・コントローラーによってサポートされる、ノンインターレース方式での最高のリフレッシュ・レートにモニターを設定します。</p> <p>重要: モニターでサポートされていない解像度またはリフレッシュ・レートを 사용하면、モニターが故障することがあります。</p> <p>README ファイルに示されている手順を使用して、オペレーティング・システムからリフレッシュ・レートを再設定することができます。モニター設定値の詳細については、オペレーティング・システムの説明書を参照してください。</p> <p>それでも問題が解決されない場合は、モニターと本体の修理を依頼してください。</p>
<p>モニターは本体の電源を入れると動作するが、一部のアプリケーション・プログラムを開始すると画面がブランクになる。</p>	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モニターの信号ケーブルがモニターとグラフィック・アダプター上のモニター・コネクタにしっかり接続されているか。本製品に導入されているグラフィック・アダプター上のモニター・コネクタの位置については、2-5ページの『デスクトップ・モデルの接続』または 2-6ページの『タワー・モデルの接続』を参照してください。 2. アプリケーションに必要なデバイス・ドライバーが導入されているか。 <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
<p>モニターは本体の電源を入れると動作するが、本体が一定時間非活動状態になると、画面がブランクになる。</p>	<p>おそらく本体は、省電力設定値の 1 つを使って省電力が設定されています。省電力機能が使用可能になっている場合は、設定値を使用不能にするか変更すれば、問題が解決することがあります (4-21ページの『省電力機能』を参照してください)。</p> <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

モニターの問題	処置
画面に何も表示されな い。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. モニターの電源コードが正常な電源コンセントに差し込まれているか。 2. モニターの電源が入っており、輝度とコントラストの調節が正しく調整されているか。 3. モニターの信号ケーブルがモニターとシステム・ボード上のモニター・コネクタにしっかり接続されているか。システム・ボード上のモニター・コネクタの位置については、2-5ページの『デスクトップ・モデルの接続』または2-6ページの『タワー・モデルの接続』を参照してください。 <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
カーソルだけが表示される。	<p>本体の修理を依頼してください。</p>
画面におかしな文字が表示される。	<p>本体の修理を依頼してください。</p>

一般的な問題

一般的な問題	処置
電源スイッチを押しても 本体が始動しない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ケーブルがすべて本体の正しいコネクタにしっかり接続されているか。場所の位置については、2-5ページの『デスクトップ・モデルの接続』または2-6ページの『タワー・モデルの接続』を参照してください。 2. 本体のカバーが正しく取り付けられているか。 <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

一般的な問題	処置
カバー・ロックの破損またはインディケーター・ライトが機能しないなどの問題。	本体の修理を依頼してください。

断続的な問題

断続的な問題	処置
偶発的に発生し、検出が困難な問題	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. すべてのケーブルとコードが、本体背面と接続装置にしっかり接続されているか。2. 本体の電源を入れたときに、通気孔がふさがれていないか（通気孔の周りに空気が流れます）。ファンが作動しているか。通気孔がふさがれているか、ファンが作動しない場合は、コンピューターが過熱状態になることがあります。3. SCSI 装置が取り付けられている場合、各 SCSI チェーンの最後の外部装置が正しく終端されているか。（SCSI の説明書を参照してください。） <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

キーボード、マウス、またはポインティング装置の問題

キーボード、マウス またはポインティング デバイスの問題	処置
キーボードのキーがすべて、または一部が機能しない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本体とモニターの電源が入っているか。 2. キーボード・ケーブルが、本体のキーボード・コネクタにしっかり接続されているか。キーボード・コネクタの位置については、2-5ページの『デスクトップ・モデルの接続』または2-6ページの『タワー・モデルの接続』を参照してください。 <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>
マウスまたはポインティング装置が機能しない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. マウスまたはポインティング装置のケーブルが本体の正しいコネクタにしっかり接続されているか。使用しているマウスのタイプによって、マウス・ケーブルは、マウス・コネクタまたはシリアル・コネクタのいずれかに接続します。マウス・コネクタとシリアル・コネクタの位置については、2-5ページの『デスクトップ・モデルの接続』または2-6ページの『タワー・モデルの接続』を参照してください。 2. マウスが汚れていないか。3-23ページの『マウス』を参照してください。 3. マウスのデバイス・ドライバが正しく導入されているか。 <p>問題を解決できない場合は、本体および装置の修理を依頼してください。</p>

メモリーの問題

メモリーの問題	処置
表示されるメモリー容量が、導入されたメモリー容量よりも少ない	<p data-bbox="380 277 914 402">基本入出力システム (BIOS) がランダム・アクセス・メモリー (RAM) の一部を使用し、ACPI と USB は最大 1 MB を使用するため、表示される使用可能なメモリー容量は実際よりもやや少なくなります。</p> <p data-bbox="380 418 914 451">以下のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="380 467 914 743" style="list-style-type: none"><li data-bbox="380 467 914 565">1. 本製品に適合する正しいタイプの DIMM を取り付けたか。DIMM の追加については、5-19ページの『メモリーの作業』を参照してください。<li data-bbox="380 581 914 646">2. DIMM が正しく取り付けられており、しっかり接続されているか。<li data-bbox="380 662 914 743">3. メモリーを追加または除去した場合は、装置構成ユーティリティを終了する前に新しい構成を保管したか。 <p data-bbox="380 760 914 946">問題が解消しない場合は、本製品に付属の診断プログラムのメモリー・テストを実行します。(詳細については、6-32ページの『診断プログラム』を参照してください。) システムが不正な DIMM を検出し、コンピューターが稼働を継続できるようにするために、自動的にメモリーを再割り当てした可能性があります。</p> <p data-bbox="380 963 914 1023">問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

オプションの問題

オプションの問題	処置
取り付けたばかりのオプションが動作しない。	<p data-bbox="412 280 721 310">以下のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="426 331 947 1057" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="426 331 825 360">1. オプションが本製品に適合しているか。 <li data-bbox="426 381 947 467">2. オプションに付属の導入の説明書、および5-1ページの第5章、『オプションの取り付け』に従って導入したか。 <li data-bbox="426 488 947 639">3. すべてのオプション・ファイル (必要な場合) が正しく導入されているか。オプション・ファイルの導入の詳細については、6-34ページの『オプション・ディスクレットからのファイルのインストール方法』を参照してください。 <li data-bbox="426 660 947 717">4. 取り付けた他のオプションやケーブルの接続が緩んでいないか。 <li data-bbox="426 738 947 922">5. オプションがアダプターの場合は、アダプターが正しく機能するようにハードウェア・リソースを十分に割り当てたか。アダプターに付属のマニュアル (および導入されているその他のアダプターのマニュアル) を参照して、各アダプターに必要な資源を調べてください。 <li data-bbox="426 943 947 1057">6. 装置構成ユーティリティの構成情報が更新済みであり (必要な場合)、矛盾がないか。詳しくは、4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。
	<p data-bbox="412 1078 951 1192">問題が解消しない場合は、診断プログラムを実行してください。(本製品で提供される診断プログラムについての詳細は、6-32ページの『診断プログラム』を参照してください。)</p>
	<p data-bbox="412 1213 951 1269">問題を解決できない場合は、本体およびオプションの修理を依頼してください。</p>

オプションの問題	処置
いままで正常に動作していたオプションが動作しない。	<p data-bbox="381 212 909 261">オプション・ハードウェアとケーブルがすべて確実に接続されているか確認してください。</p> <p data-bbox="381 285 909 334">オプションにテストの説明書が付いている場合には、その指示に従ってオプションをテストしてください。</p> <p data-bbox="381 358 909 407">障害のあるオプションが SCSI オプションの場合には、以下を確認します。</p> <ol data-bbox="394 431 909 675" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="394 431 909 480">1. すべての外部 SCSI オプションのケーブルが正しく接続されている。 <li data-bbox="394 505 909 553">2. 各 SCSI チェーン内の最終オプション、または SCSI ケーブル端が正しく終端されている。 <li data-bbox="394 578 909 675">3. すべての外部 SCSI オプションがオンになっている。外部 SCSI オプションは、システムの電源を入れる前にオンにしておく必要があります。 <p data-bbox="381 699 909 748">詳細については、SCSI 装置付属の SCSI 資料を参照してください。</p> <p data-bbox="381 773 909 821">問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

パラレル・ポートの問題

パラレル・ポートの問題	処置
パラレル・ポートにアクセスできない。	<p data-bbox="381 1029 685 1053">以下のことを確認してください。</p> <ol data-bbox="394 1078 909 1370" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="394 1078 909 1192">1. 各ポートに固有のアドレスが割り当てられているか。新規ポート・アドレスの設定方法については、4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティの使用法』を参照してください。 <li data-bbox="394 1216 909 1370">2. パラレル・ポート・アダプターを追加した場合は、正しく取り付けられており、しっかり接続されているか。アダプターの追加については、5-1ページの第5章、『オプションの取り付け』を参照してください。 <p data-bbox="381 1386 909 1435">問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

シリアル・ポートの問題

シリアル・ポートの問題	処置
シリアル・ポートにアクセスできない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 各ポートに固有のアドレスが割り当てられているか。新規ポート・アドレスの設定方法については、4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。2. シリアル・ポート・アダプターを追加した場合、正しく取り付けられており、しっかり接続されているか。アダプターの追加については、5-1ページの第5章、『オプションの取り付け』を参照してください。 <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

プリンターの問題

プリンターの問題	処置
プリンターが動作しない。	<p>以下のことを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. プリンターの電源が入っており、オンライン状態になっているか。2. プリンター信号ケーブルが、本体の正しいパラレル・ポート、シリアル・ポート、または USB ポートにしっかり接続されているか。(パラレル、シリアル、および USB の各ポートの位置については、2-5ページの『デスクトップ・モデルの接続』または 2-6ページの『タワー・モデルの接続』を参照してください。) <p>注: IBM 以外のプリンター信号ケーブルを使用すると、予測できない問題が起こることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none">3. オペレーティング・システムやアプリケーション・プログラムで、プリンター・ポートを正しく割り当てたか。4. 装置構成ユーティリティーでプリンター・ポートを正しく割り当てたか。詳しくは、4-1ページの第4章、『装置構成ユーティリティーの使用法』を参照してください。5. 問題が解消しない場合は、プリンターに付属のマニュアルに記載されているテストを実行します。 <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

ソフトウェアの問題

ソフトウェアの問題	処置
使用しているソフトウェア・プログラムは正常かどうか。	<p>問題が導入されているソフトウェアに起因するかどうかを調べるには、以下の項目を確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本製品がそのソフトウェアの使用に必要な最小のメモリー所要量を満たしているか。メモリー所要量については、使用ソフトウェアのマニュアルを参照して確認してください。 <p>注: アダプターやメモリーを取り付けた直後には、メモリーのアドレスが競合していることがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 使用ソフトウェアが本製品に適合しているか。 3. 他のソフトウェアが本製品で動作するか。 4. 使用ソフトウェアが他のコンピューターで動作するか。 <p>ソフトウェア・プログラムの使用中にエラー・メッセージを受け取った場合は、ソフトウェアに付属のマニュアルを参照し、メッセージの説明と問題の解決方法を調べてください。</p> <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

汎用シリアル・バス・ポートの問題

汎用シリアル・バス・ポートの問題	処置
汎用シリアル・バス・ポートにアクセスできない。	<p>USB 装置が正しく取り付けられ、しっかり固定されているか確認してください。</p> <p>問題を解決できない場合は、本体の修理を依頼してください。</p>

診断プログラム

診断プログラム (IBM Enhanced Diagnostics) は Product Recovery CD に収録されています。Product Recovery CD からこの診断プログラムを実行することもできますし、またプログラム・ディスケットを作成することもできます。

これらの診断プログラムは、オペレーティング・システムとは独立して機能し、ハード・ディスク上に導入されているソフトウェアからコンピューター・ハードウェアを隔離するのに役立ちます。診断プログラムを使用して、ハードウェア障害の診断と識別を行います。

Product Recovery CD から診断プログラムを開始するには、始動順序を変更しなければならない場合があります。

CD-ROM ドライブを主始動デバイスとして使用するには、以下の手順を実施します。

1. オペレーティング・システムをシャットダウンし、コンピューターの電源を切ります。
2. コンピューターの電源を入れます。
3. Press F1 For Configuration/Setup と表示されたら、**F1** キーを押します。
4. 装置構成ユーティリティ・メニューが表示されたら「始動オプション」を選択します。
5. 「始動順序」を選択して **Enter** を押します。
6. 「基本の始動順序」の下で、「主始動デバイス」を選択します。
7. 「主始動デバイス」として選択されている装置をメモしておきます。診断の実行が終了した後で、この設定値に復元する必要があります。
8. 「主始動デバイス」を **CD-ROM** に変更します。
9. **Esc** を 2 回押し、装置構成ユーティリティ・メニューに戻ります。
10. 「設定を保存する」を選択します。
11. 本体の電源を切ります。

Product Recovery CD から診断を実行する手順は次のとおりです。

1. *Product Recovery CD* を CD-ROM ドライブに挿入し、コンピューターの電源を入れます。
2. メイン・メニューが表示されます。
3. 「システム・ユーティリティー」を選択します。
4. 「システム・ユーティリティー」メニューで、「診断プログラムの実行」を選択します。診断プログラムが開始されます。
5. 診断の実行が終了したら、CD を CD-ROM ドライブから取り出し、コンピューターの電源を切ります。
6. 始動順序を変更した場合は、それを元の設定値に戻します。

「IBM Enhanced Diagnostics」(診断) ディスケットを *Product Recovery CD* から作成する手順は次のとおりです。

1. Access IBM プログラムがまだオープンしていない場合は、Windows の「スタート」ボタンをクリックし、次に「Access IBM」をクリックします。
2. Access IBM において、「はじめに」をクリックします。
3. 表示されたメニューで、「診断プログラム・ディスクットの作成」をクリックし、画面の指示に従います。

ファイルは自己解凍型で、ディスクットにコピーされます。コピーが完了すると、起動可能な *IBM Enhanced Diagnostics* ディスケットができてあがりません。

ディスクットを使って診断プログラムを開始する手順は次のとおりです。

1. オペレーティング・システムをシャットダウンし、コンピューターの電源を切ります。
2. *IBM Enhanced Diagnostics* ディスケットをディスクット・ドライブに挿入します。
3. コンピューターの電源を入れます。
4. 画面に表示される指示に従います。ヘルプが必要な場合は、F1 を押しません。

POST/BIOS 更新障害からの回復

POST/BIOS の更新中 (フラッシュ・アップデート中) にコンピューターの電源が切れた場合には、コンピューターは正しく再始動しないことがあります。その場合は、4-12ページの『紛失したり忘れた場合のパスワードの消去』を参照して、パスワードを消去する場合と同じ手順を実行し、再度 POST/BIOS の更新を行ってください。

オプション・ディスクレットからのファイルのインストール方法

オプションの装置やアダプターには、ディスクレットが付属していることがあります。通常、オプション・パッケージに付属するディスクレットには、システムがオプションを認識し、動作させるために必要なファイルが入っています。必要なファイルを導入するまでは、新しい装置やアダプターがエラー・メッセージの原因になることがあります。

オプションの装置やアダプターにディスクレットが付属している場合、ディスクレットから構成 (.CFG) ファイルまたは診断ファイル (.EXE または .COM) をハード・ディスクに導入することが必要になる場合があります。 ファイルを導入する必要があるかどうかは、オプションに付属のマニュアルを参照してください。

電池を交換する

日付、時刻、および組み込み機能の設定値 (たとえば、シリアル・ポートやパラレル・ポートの割り当て (構成) など) を保持するために、本製品は特殊なメモリーを内蔵しています。本体の電源を切ると、電池がこの情報を保持します。

電池は充電やメンテナンスは不要ですが、どのような電池でも永久に使えるわけではありません。電池の寿命が尽きると、日付、時刻、および構成情報 (パスワードも含む) が失われます。その場合、本体の電源を入れると、エラー・メッセージが表示されます。

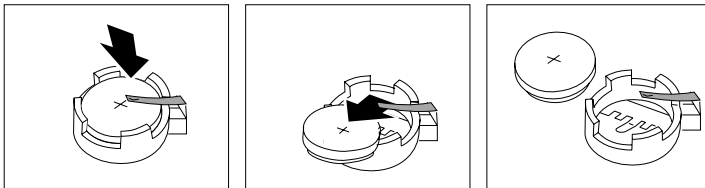
電池の交換および廃棄については、xviページの『リチウム電池に関する注意事項』を参照してください。

電池を廃棄する場合、および保存するにはテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因となります。電池は地方自治体の条例または規則にしたがって廃棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

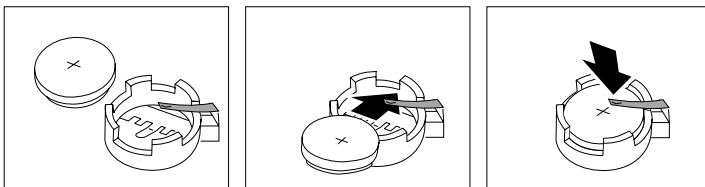
電池の廃棄についての詳細は、お買い求めの販売店または弊社の営業担当員にお尋ねください。

電池の交換手順は次のとおりです。

1. コンピューターおよびすべての接続装置の電源を切ります。
2. 電源コードを抜き取り、カバーを取り外します。5-5ページの『カバーの取り外し - デスクトップ・モデル』または 5-10ページの『カバーの取り外し - タワー・モデル』を参照してください。
3. 電池の位置を確認します。コンピューターの内側のシステム・ボード・ラベルを見るか、5-17ページの『システム・ボードの部品の識別』を参照してください。
4. 必要な場合は、電池へのアクセスの邪魔になるアダプターを取り外します。詳細については、5-23ページの『アダプターの取り付け - デスクトップ・モデル』または 5-25ページの『アダプターの取り付け - タワー・モデル』を参照してください。
5. 古い電池を取り外します。



6. 新しい電池を取り付けます。



7. 電池にアクセスするために取り外したアダプターを元に戻します。アダプターの再取り付けについては、5-23ページの『アダプターの取り付け - デスクトップ・モデル』または5-25ページの『アダプターの取り付け - タワー・モデル』を参照してください。
8. カバーを元に戻し、電源コード・プラグを差し込みます。

注： 電池を交換した後で初めてコンピューターの電源を入れると、エラー・メッセージが表示されることがあります。これは、電池の交換後は正常な状態です。
9. コンピューターとすべての接続装置の電源を入れます。
10. 装置構成ユーティリティを使用して、日付と時刻およびパスワードを設定します。
11. 地方自治体の条例または規則に従って、古い電池を廃棄します。

付録A. ヘルプ、サービス、および情報の入手

ヘルプ、サービス、技術援助、または IBM 製品に関する情報が必要な場合のために、IBM ではさまざまな援助をご提供しています。

たとえば、IBM はワールド・ワイド・ウェブ (WWW) に各種のホーム・ページを開設していますので、IBM 製品およびサービスに関する情報の入手、最新の技術情報の閲覧、およびデバイス・ドライバやフラッシュ更新ディスクをダウンロードすることができます。それらのホーム・ページの一部は以下のとおりです。

http://www.ibm.com/jp	IBM ホーム・ページ
http://www.ibm.com/jp/pc	IBM パーソナル・コンピューティング
http://www.ibm.com/jp/pc/home/service.html	IBM パーソナル・コンピューティング・サポート
http://www.ibm.com/jp/pc/home/download.html	IBM パーソナル・コンピューティング・ダウンロード
http://www.ibm.com/jp/as/ibmsvc.html	IBM 相談窓口
http://www.ibm.com/jp/pc/desktop	IBM PC
http://www.ibm.com/jp/pc/intellistation	IBM IntelliStation
http://www.ibm.com/jp/pc/netfinity	IBM Netfinity/PC Server
http://www.ibm.com/jp/pc/option	IBM PC 周辺機器

その他、FAX サービスなどからも情報が得られます。詳細については、別冊「サービスのご案内」を参照してください。

この章の内容

サービスを依頼する前に	A-3
カスタマー・サービスおよびカスタマー・サービスの入手	A-3
資料の発注	A-3

サービスを依頼する前に

コンピューターの問題の多くは、オンライン・ヘルプを使用したり、本製品またはソフトウェアに付属のオンライン資料やハードコピー資料を調べることにより、外部から援助を受けなくても解決することができます。また、ソフトウェアに付属の README ファイルの情報は必ず読んでください。

ほとんどのコンピューター、オペレーティング・システム、およびアプリケーション・プログラムには、問題判別手順やエラー・メッセージの説明が記載されている資料が付属しています。コンピューターに付属している資料にも、実行できる診断テストに関する情報が記載されています。

コンピューターの電源を入れたときに POST エラー・コードが表示された場合は、ハードウェアに関する資料の POST エラー・メッセージに関する項を参照してください。POST エラー・コードが表示されなくても、ハードウェア障害が考えられる場合は、ハードウェア資料のトラブルシューティングに関する情報を参照したり、診断テストを実行してください。

ソフトウェアの問題について疑わしい場合には、オペレーティング・システムまたはアプリケーション・プログラムについての (README ファイルを含む) 資料を調べてください。

カスタマー・サービスおよびカスタマー・サービスの入手

別冊の「サービスのご案内」を参照してください。

資料の発注

追加資料は、IBM から購入することができます。資料の購入方法については、別冊の「サービスのご案内」の「マニュアルのご注文」を参照してください。

付録B. 製品に関する記録

この付録には、本製品についての情報を記録するための用紙があります。この用紙は、追加のハードウェアを導入する場合、あるいは本製品の修理を依頼する場合に役立ちます。

この章の内容

シリアル番号	B-2
装置に関する記録	B-2

シリアル番号

以下の情報を記録して、保管してください。

製品名称	PC 300PL または PC 300GL
マシン・タイプとモデル	_____
シリアル番号 (S/N)	_____

本製品のマシン・タイプおよびモデル番号とシリアル番号 (S/N) は、本体の後部の小さいラベルに表示されています。

装置に関する記録

下の表を使用して、本製品の内蔵オプションまたは外付けのオプションを記録してください。この情報は、オプションを追加したり、保守サービスを受けるときに役立ちます。

場所	オプションの説明
システム・メモリー	
(メモリー 1 DIMM)	<input type="checkbox"/> 64 MB <input type="checkbox"/> 128 MB <input type="checkbox"/> 256 MB <input type="checkbox"/> 512 MB
(メモリー 2 DIMM)	<input type="checkbox"/> 64 MB <input type="checkbox"/> 128 MB <input type="checkbox"/> 256 MB <input type="checkbox"/> 512 MB
AGP スロット	_____
拡張スロット 1 (PCI)	_____
拡張スロット 2 (PCI)	_____
拡張スロット 3 (PCI)	_____
マイクロプロセッサー	<input type="checkbox"/> Intel _____ MHz

場所	オプションの説明
パラレル・コネクタ	_____
シリアル・コネクタ A	_____
シリアル・コネクタ B	_____
USB コネクタ 1	_____
USB コネクタ 2	_____
モニター・コネクタ	_____
オーディオ・コネクタ	_____
キーボード・コネクタ	109 キー・キーボード <input type="checkbox"/> その他 _____
マウス・コネクタ	<input type="checkbox"/> ScrollPoint マウス <input type="checkbox"/> 2 ボタン・マウス <input type="checkbox"/> その他: _____
5.25 インチ・ベイ 1	<input type="checkbox"/> IDE CD-ROM ドライブ <input type="checkbox"/> その他 _____
5.25 インチ・ベイ 2	<input type="checkbox"/> Zip ドライブ _____ <input type="checkbox"/> その他: _____
3.5 インチ・ベイ 3	<input type="checkbox"/> 1.44 MB ディスケット・ドライブ
3.5 インチ・ベイ 4	EIDE ハード・ディスク・ドライブ <input type="checkbox"/> その他 _____
キーの製造メーカーの住所	_____
電話番号	_____
キー・コード番号	_____

付録C. 特記事項

この付録には、商標および特記事項が収められています。

この章の内容

特記事項	C-2
西暦 2000 年対応について	C-3
商標	C-3

特記事項

本書において、日本では発表されていないIBM製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのようなIBM製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBMライセンス・プログラムまたは他のIBM製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBMの知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBMによって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBMおよび他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木3丁目2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

本書で紹介している IBM 以外の Web サイト・アドレスは、お客様の便宜上のために記載しており、IBM がこれらの Web サイトを推奨することを意味するものではありません。

IBM は、本書で紹介する IBM 以外の Web サイトまたは IBM Web サイトのリンクを通じてアクセスする他の Web サイトの内容または使用に関して一切責任を負いません。

西暦 2000 年対応について

製品の西暦 2000 年対応 (Year 2000 Ready) とは、その製品を関連資料にしたがって使用した場合に、20 世紀から 21 世紀にわたる日付データの処理、引き渡し、または受け取りが正しく行われることをいいます。ただし、その製品とともに使用されるすべての製品 (例えば、ハードウェア、ソフトウェアおよびファームウェア) が正確な日付データをその製品と正しく交換できることが条件となります。

この IBM 製のパーソナル・コンピューターは、西暦 2000 年対応の製品です。ただし、西暦 2000 年になる時に、このコンピューターの電源が立ち上がっている場合、一度電源を落し、再度立ち上げるか、オペレーティング・システムを再起動してください。これにより、このコンピューターの内部クロックがリセットされます。

なお、お客様が、西暦 2000 年対応でないソフトウェアを使用される場合、または、処理するデータが西暦 2000 年対応でない場合には、この IBM パーソナル・コンピューターは、正しく日付データを処理することはできません。なお、この製品の西暦 2000 年対応状況についてのご説明は、ハードウェア製品のものに適用されるものであり、ハードウェアとともに提供されるソフトウェアの対応状況を示すものではありません。IBM は、他社製ソフトウェアの日付処理について責任を負いません。他社製ソフトウェアの日付処理、その制約または更新版については、他社製ソフトウェアの提供元にお問い合わせください。

西暦 2000 年の概要および IBM 製のパーソナル・コンピューターの 2000 年対応状況については、IBM Year 2000 Web サイト (<http://www.ibm.co.jp/ad2000>) でご覧いただくことができます。お客様の西暦 2000 年対応作業をご支援するための情報およびツールが含まれており、情報は必要に応じ更新されます。

商標

次の用語は、米国およびその他の国における IBM 社の商標です。

Alert on LAN
HelpCenter
HelpWare

IBM

IntelliStation

LANClient Control Manager

Netfinity

Netfinity Manager

OS/2

PC300

ScrollPoint

ThinkPad

Wake on LAN

Intel および Pentium は米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。(Intel の商標に関する詳細リストは、<http://www.intel.com/tradmarx.htm> を参照してください。)

Microsoft, MS-DOS, Windows, および Windows NT は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標です。

他の会社名、製品名、サービス名は、他社の商標またはサービス・マークです。

索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

アダプター

- エラー・メッセージ 5-42
- スロット 5-23
- 取り付け 5-23, 5-25
- プラグ・アンド・プレイ・アダプター 5-42
- リソースの競合 5-42
- AGP 5-18, 5-23
- PCI 5-18, 5-23

安全、電気の ix

いすの調節 2-2

位置、各コンポーネントの

タワー・モデル 5-12

デスクトップ・モデル 5-7

移動、本製品の 3-24

インターネット・ホーム・ページ A-1

インディケーター、状況 3-3

ウイルス保護 3-15

エラー・メッセージ、リソースの競合の 5-42

延長コード 2-4

オフィス空間を快適にする 2-2

オプション

使用可能な 5-3

情報の記録 B-2

ディスクет 6-34

導入済み B-2

取り付け 5-1

問題 6-27, 6-28

オペレーティング・システム

互換性 1-7

サポートされている 1-6

音声

機能 3-19

ポート 3-19

〔カ行〕

解像度 3-18

快適さ 2-2

快適にする、使用環境を 2-2

回復

フラッシュ 6-34

ROM 6-34

書き込み保護スイッチの設定 5-21

各コンポーネントの位置

タワー・モデル 5-12

デスクトップ・モデル 5-7

拡張診断 6-32

拡張スロット 1-4

アダプター 5-23

使用可能な 1-4

AGP 1-4

PCI 1-4

拡張セキュリティ 3-15

refid-asf.カバー・ロック 3-16

カバー

カバーのロック 3-14

取り外し 5-5, 5-10

元に戻す 5-40

ロック 5-5, 5-10, 5-40

ロックの破損 6-24

カバーのロック 3-14
画面フィルター 2-3
換気、熱い空気の 2-4
管理者パスワード
 使用 4-11
 設定 4-11
 装置構成ユーティリティ 4-9
 本体の始動 3-5, 4-9
 忘れた 4-12
キー 3-16
キーボード
 コネクタ 2-5, 2-6
 使用 2-2
 速度の変更 4-17
 問題 6-25
 ロック 3-15, 4-7
キーボード、ロック 3-15
機能、コンピューター 1-4
キャッシュ・メモリー 1-4
記録、装置と機構に関する B-2
空気調節 2-4
グラフィックス・アダプター 3-17,
 5-12, 5-17
ケーブル
 接続 2-5, 2-6, 5-42
 内蔵ドライブのタイプ 5-30, 5-31
 IDE 5-30
ケーブルの長さ 2-4
計画、使用環境の 2-2
コード、電源 2-4
更新、コンピューター構成の 5-42
構成
 アダプター 5-42
 競合の解決 5-42
 コンピューターの更新 5-42
 変更 5-42
 メモリー・モジュール 5-19

構成、コンピューターの 4-1
構成要素、内部の位置 5-7, 5-12
コネクタ
 システム・ボード上 5-12, 5-17
 入出力 2-5, 2-6
コンピューターのコントロール・ボタン
 3-3
コンピューターのセットアップ 2-1

〔サ行〕

サージ保護 2-4
雑音レベル 1-8, 1-9
磁気テープ・ドライブ 5-27, 5-29
識別、外部コネクタの
 接続 5-30
 1 次コネクタ 5-12, 5-17
 2 次コネクタ 5-12, 5-17
識別、システム・ボードの部品の 5-17
識別、本製品の 1-2
識別番号 B-2
自己診断テスト
 参照：POST
システム
 仕様 1-8, 1-9
 プログラムの更新 3-20
システム管理機能 3-11
システム・ボード
 アクセス 5-17
 位置 5-17
 オプション 5-17
 識別、部品の 5-17
 説明 5-17
 レイアウト 5-12, 5-17
システム・ボードのレイアウト 5-17
始動、本体の 3-5
自動構成および電力インターフェース機
 構 4-21

- 自動始動順序、設定 4-17
- 自動始動モード 4-8
- 始動順序、設定 4-17
- 始動装置の構成 5-44
- 始動パスワード
 - 自動始動モード 4-8
 - 使用 4-7
 - 設定 4-7
 - 本体の始動 3-5, 4-9
- 自動パワーオン
 - 設定 4-25
 - モデムの着信 4-24
 - モデム・リング検出 4-24
 - PCI Wake Up 4-24
 - wake on LAN 4-24
- 遮断 3-6
- 周辺機器接続
 - 参照：PCI
- 仕様 1-8, 1-9
- 使用環境を快適にする 2-2
- 消去、パスワードの 4-12
- 状況インディケータ 3-4, 3-5
- 症状 6-17
- 省電力 4-21, 4-22
- 省電力機能 4-21
- 商標 C-3
- 照明 2-3
- シリアル番号 4-16, B-2
- シリアル・ポート
 - コネクタ 2-5, 2-6
 - モデムの着信 4-24
 - 問題 6-29
- 資料の発注 A-3
- 信号ケーブル、内蔵ドライブの 5-30
- 診断
 - エラー・コードとメッセージ 6-8
 - ツール 6-1
 - ディスクット 6-32
- 診断（続き）
 - 表 6-17
 - プログラム 6-32
 - CD-ROM 6-32
 - PC Doctor 6-32
- 診断プログラム 6-32
- スーパー・ビデオ・グラフィックス・アレイ (SVGA) 3-17
- スタンバイ・モード S1 および S3 4-21
- 清掃
 - コンパクト・ディスク 3-9
 - 本体 3-22
 - マウス 3-23
 - モニター 3-23
- 静電気に敏感な装置の取り扱い 5-3
- セキュリティ 4-13
 - 書き込み保護ディスクット 3-8
 - カバーのロック 3-14
 - 機能 1-6
 - パスワード 4-7
- セキュリティ機能、PC 300PL 6565 3-15
- セキュリティ・プロファイル 4-13
- 接続
 - ケーブル、外部の 5-42
 - 内蔵ドライブ 5-30
 - 入出力装置 2-5, 2-6
- 設定、コンピューターの 4-1
- セットアップ、コンピューターの 2-1
- セットアップ・ユーティリティ
 - 参照：装置構成ユーティリティ
- 装置構成ユーティリティ
 - 開始 4-3
 - 機能 4-1
 - 更新 3-20
 - 終了方法 4-7
 - 本体の始動 3-5

ソフトウェア

エラー 6-31

初期導入済み 1-6

問題 6-31

損傷の防止 3-22, 3-24

〔 夕行 〕

高さ制限 5-23

タワー・モデル 1-3

断続的な問題 6-24

調整

本体の 3-5

本体の電源オフ 3-6

調節、空気の 2-4

直接メモリー・アクセス (DMA) リソース 4-20

ちらつきの軽減 3-18

追加

アダプター 5-23, 5-25

内蔵ドライブ 5-27

メモリー・モジュール (DIMM) 5-19

追加セキュリティ機能、PC 300PL 6565

拡張セキュリティ 3-15

トップ・カバー取り外し検出機構 3-16

Asset ID 3-17

IBM セキュリティー・ソリューション 3-17

ディスク・ドライブ、ハード 5-27, 5-29

ディスク、オプション 6-34

ディスク書き込み保護スイッチ 5-21

ディスクの書き込み保護 3-8

ディスク・ドライブ 5-27, 5-29

インディケーター・ライト 3-5

サポート 1-4

追加 5-1

取り出しボタン 3-5

問題の解決 6-19

ディスク・ドライブ・コネクターの位置 5-12, 5-17

ディスプレイ

参照：モニター

ディスプレイ省電力シグナル (DPMS) 4-21

ディスプレイ・データ・チャネル (DDC) 3-18

手入れ、コンピューターの 3-22

デスクトップ管理インターフェース (DMI) 3-13

デスクトップ・モデル 1-3

デバイスごとのセキュリティー・プロフィール 4-13

デバイス・セキュリティー 4-13

デバイス・ドライバ 3-18, 5-42

デュアル・インライン・メモリー・モジュール (DIMM) 1-4

電気コンセント 2-4

電源

インディケーター・ライト 3-4

管理 4-21

コード 2-4

出力 1-6

スイッチ 3-4

電源機構 5-8, 5-13

電源ケーブル

接続 5-42

内蔵ドライブ 5-30

電源コネクタ (内蔵) の位置 5-12,
5-17
電子商取引、安全性 3-17
電池
 アクセス 5-17
 交換 6-34
 システム・ボード上の位置 5-12,
 5-17
 注意 xvi
 廃棄 6-34
特記事項 C-1
特権アクセス・パスワード
 参照: 管理者パスワード
トップ・カバー取り外し検出機構 3-16
ドライブ、ビデオ・デバイス 3-18
ドライブ
 ケーブル 5-30
 仕様 5-29
 取り付け 5-32, 5-36
 ベイ 1-4, 5-27, 5-32, 5-36
 問題の解決 6-19
トラブルシューティング 6-1, A-3
 情報 6-1
 表 6-17
取り外し
 アダプター 5-17
 カバー 5-5, 5-10
 ハードウェア 5-17
取り付け
 アダプター 5-23, 5-25
 カバー 5-40
 内蔵ドライブ 5-32, 5-36
 メモリー・モジュール 5-19
取り付け、オプションの 5-1

〔ナ行〕

内蔵ドライブ 5-27
入出力機能 1-5
ネットワーキング 4-24
ネットワーク管理 3-11

〔ハ行〕

ハードウェア、部品の識別 5-17
ハード・ディスク装置 5-27, 5-29
ハード・ディスク・ドライブ 5-29
 インディケータ・ライト 3-4
 サポート 1-4
 省電力 4-23
 追加 5-1
 バックアップ 3-24
 参照: ハード・ディスク・ドライブ
パスワード 4-7
 管理者 4-11
 始動 4-7
 使用 4-7
 消去 4-12
 本体の始動 3-5, 4-9
バックアップ、ハード・ディスク・ドラ
 イブの 3-24
パラレル・ポート
 場所 2-5, 2-6
 問題 6-28
反射光を減らす 2-3
反射防止フィルター 2-3
汎用シリアル・バス (USB) ポート
 6-31
ブープ音 6-3
ブープ音、電源オン時の 3-6
ビデオ
 アダプター 1-4, 3-17, 5-12, 5-17
 コネクタ 2-5, 2-6

ビデオ (続き)

- コントローラー 3-17
- デバイス・ドライバー 3-18
- モード 3-17
- SVGA 3-17
- VGA 3-17
- ビデオ・メモリー 5-19
- 疲労 2-2
- ファンの問題 6-24
- プラグ・アンド・プレイ・アダプター
アダプター 5-42
- テクノロジー 1-4
- フラッシュ・メモリー 1-4, 3-20
- プリンターの問題 6-30
- プロセッサ
参照：マイクロプロセッサ
- ベイ
サポートされるドライブ 1-4
- ドライブ 5-27
- ドライブの取り付け 5-32, 5-36
- ポート 2-5, 2-6, 5-11, 5-42
- ホーム・ページ、IBM パーソナル・コン
ピューターの A-1
- ポインティング装置の問題 6-25
- 保証に関する記述 C-1

〔マ行〕

- マイクロプロセッサ 1-4, 4-16
- マイクロプロセッサ・シリアル番号機
能 4-16
- マウス
コネクター 2-5, 2-6
- 自動始動モード 4-8
- シリアル・ポート 4-8
- 清掃 3-23
- パスワード・プロンプト 非表示 (無
人) モード 4-8

マウス (続き)

- 問題 6-25
- ロック 4-7
- メモリー
カウント 3-5
- キャッシュ 1-4
- サポート 1-4
- 使用可能な 6-3
- 追加 5-19
- フラッシュ 1-4
- 問題 6-26
- DIMM 1-4
- メモリー・モジュール 5-19
- 構成 5-19
- システム・ボード上の位置 5-12,
5-17
- タイプ 5-19
- 取り付け 5-19
- モデム
モデムの着信 4-24
- 元に戻す、カバーを 5-40
- モニター
解像度 3-18
- コネクター 2-5, 2-6
- 省電力 4-21, 4-22
- スタンバイ・モード 4-23
- 設定値 3-18
- 調節 2-3
- ちらつき 3-18
- 配置 2-3
- 問題の解決 6-20
- リフレッシュ速度 3-18
- DDC 標準 3-18
- Disable モード 4-23
- Off モード 4-23
- Suspend モード 4-23

〔ヤ行〕

ユーティリティー・プログラムのセット
アップ 5-42

〔ラ行〕

ライト、インディケータ 3-4, 3-5
リソースの競合 5-23, 5-27, 5-42
リソースの競合、エラー・メッセージ
5-42

リフレッシュ速度 3-18

リボン・ケーブル 5-30

リモート管理 4-18

リモート・プログラム・ロード
(RPL) 3-12

レーザーの安全性について xv

ロック 6-24

ロック、カバー 5-5, 5-10, 5-40

A

ACPI スタンバイ・モード 4-21

ACPI BIOS IRQ 4-21

Asset ID 3-17

B

BIOS の更新 3-20

C

CD-ROM ドライブ 5-27, 5-29

使用方法 3-9

追加 5-1

取り付け 5-32, 5-36

CMOS のクリア 4-12

D

DDC (ディスプレイ・データ・チャネ
ル) 3-18

DHCP の説明 3-12

Digital Visual Interface (DVI) 2-5

DIMM (デュアル・インライン・メモリ
ー・モジュール) 1-4

DMA (直接メモリー・アクセス) リソー
ス 4-20

DPMS (ディスプレイ省電力シグナ
ル) 4-21

E

EEPROM 3-20

I

IBM 組み込みセキュリティー・チップ
3-17

IBM セキュリティー・ソリューション
3-17

IBM Universal Manageability 3-11

L

LAN ウェイクアップ要求 4-24

LANClient Control Manager
(LCCM) 3-13

P

PC Doctor 6-32

PC 300PL または PC 300GL概説 1-1

PC 300PL 6565、セキュリティー機能
3-15

PCI
 ウェイクアップ 4-24
 スロット位置 2-5, 2-6
Pentium III 4-16
POST
 更新 3-20
 始動時 3-5
 説明 6-3
POST/BIOS 更新 4-18

Wake on Ring 機能 3-14
Wake Up on Alarm 4-24
World Wide Web ホーム・ページ A-1

数字

1 次 PCI スロット 5-23

R

RPL の説明 3-12

S

SCSI
 ケーブル 5-31
 装置の取り付け 5-31
SDRAM 1-4
SMART III ハード・ディスク 3-14
SVGA (スーパー・ビデオ・グラフィック
 クス・アレイ) 3-17

U

USB コネクタ 2-5, 2-6
User Verification Manager 3-17

V

VGA (ビデオ・グラフィックス・アレイ) 3-17

W

Wake on LAN 3-11, 4-24



Printed in Japan

1999年10月

日本アイビーエム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12



SA88-6930-00